

	賢治を「師」と仰いだ人材はキラ星のように存在する。例えば、原子物理学者の故高木仁三郎さんが反原発運動の拠点である「原子力資料情報室」を立ち上げたのは賢治の「羅須地人協会」の精神に学んだのがきっかけだった。また、アフガニスタンでテロの銃弾に倒れた医師の中村哲さんの愛読書は『ゼロ弾きのゴーシュ』で、絶筆となった自著のタイトルはズバリ『わたしは「ゼロ弾きのゴーシュ」』だった。さらには、シンガーソングライターの宇多田ヒカルのヒット曲「テイク５」は『銀河鉄道の夜』をイメージした曲として知られる。 一方、戦後最大の思想家と言われた故吉本隆明さんに至っては「雨ニモマケズ」を天井に張り付けて暗唱していたというから、「賢治」という存在がまるで“エイリアン”のようにさえ思えてくる。吉本さんを含めた宮澤賢治賞とイーハトーブ賞（いずれも奨励賞を含む）の受賞者はこれまでに１４４の個人・団体に上っている。こうしたほとぼしするような“人脈図”がひと目で分かるようなコーナーを設置し、賢治という巨木がどのように枝分かれしていったのか。なぜ、賢治がその人たちの人生の分岐点に立ち現れたのか―その全体像を森に見立てて「見える化」する。さらに、定期的に受賞者を招き「私と賢治」をテーマにした講演会を開催する。 ●「図書館」を軸としたまちづくり 「図書館は屋根のある公園である」―。「みんなの森／ぎふメディアコスモス」の総合プロデューサーを務めた吉成信夫さんはこんなキャッチフレーズを掲げながら、こう述べている。「図書館というのは、今までのように閉鎖形で全部その中で完結しているというふうに考えるのではなくて、むしろ図書館の考え方が街の中に染み出していく。そして、街づくりというか、街の考えが図書館の中にも染み込んでくる、その両方が浸透しあうような造り方というのが、たぶん、これからいろいろな形で出てくるだろうと思っています」（開館１年後の記念講演） メディアコスモスの中核施設である岐阜市立図書館館長を２０１５年の開館から５年間、務めた吉成さんは青壮年期に「石と賢治のミュージアム」や「森と風のがっこう」、「いわて子どもの森」（県立児童館）など岩手の地で賢治を“実践”した貴重な経験を持っている。その集大成は図書館の先進的な活動に贈られる最高賞「ライブラリーオブザイヤー」（２０２２年度）の受賞に結実した。 「柳ヶ瀬商店街を活性化することに図書館がどうやって寄与できるのか」―。館長としての初仕事はかつて「柳ヶ瀬ブルース」に沸いた商店街の立て直しだった。そして、総合プロデューサー退任後の昨年９月、「無印良品柳ヶ瀬店」の店内の一角に本を陳列した無料の交流スペースがオープンした。名づけて「本のひみつ基地」。柳ヶ瀬商店街の歴史を展示した資料が並べられ、朗読会などにも利用される。仕掛け人のひとりである吉成さんは「足元の文化的な価値を見直し、今後のまちづくりに生かしたい」と抱負を語っている。まさに、“全身図書館”の本領発揮である。 この「吉成流」に学び、図書館の来館者を駅前一極に限定せずに上町など中心市街地に呼び込むような新たな“人流”を形成する。「IHATOV・LIBRARY」で賢治を満喫した来館者を賢治の生家や一時期、教鞭を取った旧稗貫農学校（旧花巻病院跡地）、賢治の広場、花巻城址などのゆかりの地へと誘い、まち全体の賑わい創出につなげる。賢治の道案内でフィールドワークに出かけるという趣向である。 ●「文化と観光」とのコラボミックス 「科学だけでは冷たすぎる。宗教だけでは熱すぎる。その中間に宮沢賢治は芸術を置いたのではないか」（岩手ゆかりの作家で賢治関連の著作もある井上ひさし）―。兵庫県豊岡市で「演劇」によるまちおこしを実践している劇作家で演出家の平田オリザさんは自著『但馬日記―演劇は町を変えたか』の中で、井上のこの言葉を引き合いに出しながら、こう書いている。「賢治の思いが、１００年の時を経たいまよみがえ	は、５－３新花巻図書館サービスの基本と種類（２）サービスの種類④図書企画展、講演会やセミナー等の開催（P17）に「（エ）宮沢賢治など本市ゆかりの先人や、本市ゆかりの作家なども含めて図書企画展示等やイベントを開催します。」と新たに記載します。 観光客や外国人に対しては、基本計画案に、５－４利用者の視点にそったサービスの考え方（７）観光客・移住者へのサービス（P20）「①本市を訪れる観光客も利用できるよう観光情報の収集も行い、情報提供を強化します。」（８）外国の方へのサービス「①外国人市民や、本市を訪れる外国の方が、図書館サービスを受けることができるよう国際交流協会と連携し、ニーズの把握等を行い、サービスや蔵書の購入を計画的に取組めます。」と記載済みです。
--	--	---

	る。熱すぎない、冷たすぎない、その中間に芸術や文化を置いたまちづくりが求められている」。その活動拠点は芸術文化と観光をコラボした全国初の4年制大学―「兵庫県立芸術文化観光専門職大学」である。そういえば、詩人で彫刻家の高村光太郎は戦後の荒廃期、賢治童話を演じる子どもたちの姿に感激し、その児童劇団に「花巻賢治子供の会」の名称を献上したというエピソードも伝え残されている。 さて、今度はその「オリザ流」に学びたい。著作や翻訳書、研究書、評論、映画やアニメ、漫画本、演劇、ドキュメンタリー、果てはアンチ賢治や地道な地元研究者の労作…こうした「多面体」としての賢治の一切合財を集めた「IHATOV・LIBRARY」が実現すれば、日本だけでなく、世界中から賢治ファンなどのインバウンド需要を喚起し、温泉観光地としての活性化も期待できる。また、賢治関連本は毎年、陸続と出版が続いており、まさに賢治“現象”には終わりが無い。「世界で行きたい街」の第2位にノミネートされた盛岡に見習い、「世界で一番、行きたい図書館」を目指す。賢治の壮大な“実験場”としての「IHATOV・LIBRARY」こそが、未来を切り拓く「マコトノクサノタネ」（賢治作詞「花巻農学校精神歌」）を育（はぐく）む圃場である。 ●「平和と連帯」メッセージの発信拠点に 東日本大震災の際、米国の首都・ワシントン大聖堂で開かれた「日本のための祈り」やロンドン・ウエストミンスター寺院での犠牲者追悼会など世界各地で、英訳された「雨ニモマケズ」が朗読された。また、この詩に背中を押されるようにして、世界中からボランティアが被災地へ駆けつけた。そして、年明けの厳寒の元日に起きた能登半島地震。この時もこの詩に詠われた「行ッテ」精神がボランティアを奮い立たせた。さらに、「3・11」で甚大な被害を受けた岩手県大船渡市が未曾有の山林火災に見舞われた今回の災厄に際しても、賢治の寄り添い合いの精神が未来への光をともし続けている。 「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」（『農民芸術概論綱要』）―。世界に目を向けると、いまもあちこちで戦火が絶えない。ウクライナやガザ…世界全体の悲しみの地にもこのメッセージを届けたい。「平和と連帯」を希求する賢治の心の叫びを積み込んだ「銀河鉄道号」…その始発駅は「IHATOV・LIBRARY」こそが一番、ふさわしい。 ●将来のまちづくりに向けて 「豊かな自然／安らぎと賑わい／みんなでつなぐ／イーハトーブ花巻」―。当市は「将来都市像」をこう描いている。いうまでもなく、「イーハトーブ」とは賢治が未来に思いを馳せた「夢の国」や「理想郷」を意味する言葉である。一方、図書館学の父とも呼ばれるインド人学者のランガナータンは「図書館は成長する有機体である」と述べている。「IHATOV・LIBRARY」が目指す“夢の図書館”は世代を継いで成長し続ける永遠の有機体である。 自らを「幽霊の複合体」（『春と修羅』序）と称してはばからない、この天才芸術家のその“お化け”の正体を暴いてみたいというのが偽らざる気持ちである。旧総合花巻病院の中庭に「Fantasia of Beethoven」と名づけられた花壇があった。設計者の賢治は「おれはそこへ花でBeethovenのFantasyを描くこともできる」（『花壇設計』）と豪語した。「賢治とは一体、何者なのか」…… 等身大の“おらが賢治”を取り戻したい。そこには少子高齢化の困難な時代に立ち向かうためのヒントがびっしり、詰まっているはずである。時代を逆手に取った伝家の宝刀、つまり「イーハトーブはなまき」でしかなしえない「まちづくり」の妙手がここにある。「IHATOV・LIBRARY」が万卷の書で埋め尽くされたあかつきには旧花巻病院跡地（旧稗貫農学校跡地）へ独立館として新築・移設する。真の意味での賢治ゆ	
--	---	--

		かりの地―“桑っこ大学”の愛称で呼ばれたこの地に「マコトノクサノタネ」が芽吹く未来を信じたい。未来世代へのバトンタッチである。	
4	5-3 新花巻図書館のサービスの基本と種類(2)④	企画展や講演会などは、内容はもちろんですが、周知することが大事だと考えます。現図書館は発信力が弱いので、ホームページを充実させたり、館の近くを通った人の中を覗いてみようと思わせるような工夫をしていただきたいです。 なお、項目(ウ)やその他にも、学生なら進学・就職、社会人なら仕事関係というような短絡的な発想が散見されるので、実際の利用者のニーズが何なのか把握する取り組みを行っていただきたいと思います。 また、いまや全国的に花巻と言えば大谷翔平選手や菊池雄星投手のようです。どちらも読書家だそうですので、愛読書やお勧めの本の企画をしたり、そのほかにも魅力ある人物をフィーチャーした企画もいいかと思います。	いただいたご意見については、基本計画（案）に次のとおり記載しております。5－3 新花巻図書館サービスの基本と種類（2）サービスの種類⑥情報発信を強化（P17）「(ア)市民をはじめ利用者の利便性を高め利用者の拡大を図るために、資料に関する情報はもとより、図書展示企画や講演会、セミナー、イベントや関連事業についての発信を強化します。(イ)市民をはじめ利用者がホームページやSNS に継続的にアクセスしたくなるよう、それらは基本的な情報の掲載にとどまることなく、更新していきます。」、また、5－8 利用者の視点に立った図書館運営（4）ホームページ（P28）でも同様に記載しています。 実際の利用者のニーズの把握については、「進学に関する資料の充実、就職活動や仕事に役立つ事業の企画」（P17）等は高校生や若い世代の方々から意見があり記載したものです。利用者のニーズの把握に努めることは随所に記載していますが、5－3 新花巻図書館サービスの基本と種類（P15）のはじめ「図書館としての機能、資料と情報の収集およびそれらの提供をサービスの基本とし、レファレンス、企画展示やセミナー、学校図書館との連携、新しいシステムなど次のとおりとし、」に、ご意見をもとに「利用者のニーズの把握に努めサービスの充実を図っていきます。」と加筆します。 企画についてのアイデアは参考にします。
5	5-3 新花巻図書館のサービスの基本と種類(2)⑦(エ) 6-1 施設(2)⑨	パソコン利用のための電源だと思いますが、読書している近くでパソコンの操作音がすると気に障る人もいますようです。電源の設置場所、またパソコンの利用場所は、音を出してもいいスペース(=声を出してもいいスペース)に限るなど、音対策をとる必要があると考えます。	いただいたご意見については、基本計画（案）に次のとおり記載しています。 6－1 施設（2）十分なスペースを確保（P29）に、「④ 閲覧席と閲覧スペースは、多様な読書閲覧需要に対応するため、静かに閲覧したい人のための閲覧スペースや、自由に話ができる閲覧コーナーなど、十分なスペースを設置します。」「⑤ 児童、生徒、学生や一般の利用者が、個人またはグループで学習ができるスペースや、椅子やテーブルも移動可能なスペース、個人で読書や研究ができる部屋やスヌーズレンに対応する空間など、多様な活動に対応できるスペースや部屋を設置します。」「⑨ 利用者個人のパソコンなどが利用できるスペースを設置します。」、また、防音に配慮したスペースを設置することとしていますが、ご意見については設計段階で参考にします。
6	5-4 利用者の視点にそったサービスの考え方(4)	本を選びながら歩きやすいように、ブックカートを備える旨を追加していただければと考えます(実際の利用は、高齢者に限らず。)	ご意見をもとに、6－3 基本計画に基づく具体的な空間計画 表 10 具体的な空間計画（2）開架・閲覧スペース（P33）「②案内・サービスカウンター 主な設備」に「ブックカート置き場」を記載し、ブックカートを備えます。
7	5-4 利用者の視点にそったサービスの考え方(6)	子供と一緒に連れて行く前提の項目だと思いますが、親自身が自分の読みたい本をゆっくり選べるような方策も必要かと考えます。	いただいたご意見については、基本計画（案）に次のとおり記載しています。 5－4 利用者の視点にそったサービスの考え方（6）子育て世代（妊産婦も含む）へのサービス（P20）「③ 提供するサービスは、妊産婦から子育て世代までのニーズの把握を行い、読み聞かせなどニーズにあったサービスの提供を検討します。」、5－5 図書館サービス網と新花巻図書館の役割（4）ボランティアとの協働（P22）「④ 読書ボランティアが、自分の得意分野（読み聞かせ、子どもの相手など）で図書館に参加し関心を持つような場を提供するとともに、サポートに努めます。」 このように、ニーズの把握をしながら、ボランティアによる読み聞かせや子どもの相手なども検討していますが、ご意見も参考にします。
8	5-4 利用者の視点にそったサービスの考え方(5)① 6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画表 10(4)⑥ 5-7 蔵書・資料の収集について	・テキストデージー、点字資料視聴覚障がい配慮、リンクポケット、拡大読書器、SP コードのよみとり機器をおいてほしい。パソコンに、よみあげソフト、拡大文字ソフト、視覚障がいのための人の歩く杖をおくときに机にひっかける道具をつけてほしい ・トイレに視覚障害の人々が触ることで配置がわかる案内板、アナウンス機能 ・一次産業(農業、林業、水産など)、温泉、花巻まつり、神楽、障がい者の職業、スポーツのわかる DVD、本を置いてほしい。	・5－4 利用者の視点にそったサービスの考え方（5）障がいがある方へのサービス（P19）「①視覚障がい者のための機器を用意するとともに、点字資料、大活字本、録音資料等を利用できるようにします。」と修正し、具体的な機器の導入についても今後検討します。 杖を置く器具の設置については、高齢者にとっても必要な設備でありますので、設計段階で検討します。 ・設計段階で検討します。 ・新図書館の蔵書については、5－7 蔵書・資料の収集について（1）広い分野の収集（P25）「① 収集する資料の種類は、一般図書、児童（乳児・幼児・小学生）図書、ティーンズ（中・高校生）、高齢者、障がい者、レファレンス資料、地域資料・行政資料、逐次刊行物（新聞、雑誌等）、視聴覚資料（音声資料、映像資料）、多文化資料（外国関連資料）など幅広い分野とします。」と記載しております。専門書を含め、蔵書構成を考えながら幅広く収集してまいりますので、ご意見も参考にします。
9	5-4	・このサービスを担う館長以下専門性を持つ専任スタッフはいつ雇用する？職員体	5－8 利用者の視点に立った図書館運営（1）職員体制（P26）「①職員体制は、司書資格を持つ職員を計画的に配置するなど、職員

	利用者の視点にそったサービスの考え方 (5)(8)	制は？ ・多言語や弱者対応を「人」としても配慮してほしい	体制の充実に取り組みます。また専門的な知識を深め多様な世代のレファレンスサービス（相談・支援）に対応できるよう研修などにより職員の育成に取り組みます。」と記載しており、今後検討しますが、ご意見も参考にします。
10	5-5 図書館サービス網と新花巻図書館の役割(4) 6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画 表 10(4)③	・利用者友の会やボランティア団体との協働を計画するか？ ・その場合上記団体の活動スペースはあるか？	いただいたご意見については、基本計画（案）に次のとおり記載しています。 5－5 図書館サービス網と新花巻図書館の役割（４）ボランティアとの協働（P22）「①読書ボランティアや学校図書館ボランティア、地域ボランティアと協働で事業を行い、充実した図書館サービスを提供します。」、活動スペースについては 6－3 基本計画に基づく具体的な空間計画 表 10 具体的な空間計画（４）その他スペース（P37）「②講座・集会・会議室 主な機能 ・読書会、こども映画会、講座、研修等に利用できる部屋」、（P38）「④お話し（読み聞かせ）室・親子ふれあい室 主な機能 ・お話し会や紙芝居等ができ防音に配慮した部屋・読み聞かせなど親子のふれあいが可能な部屋」
11	5-5 図書館サービス網と新花巻図書館の役割(3) 5-8 利用者の視点に立った図書館運営(1)	(1)アウトリーチサービスの強化 ①花巻地域の 11 の振興センターに OPAC を設置して振興センターで図書の予約と予約図書の受け取りができる配本サービスの実施。②同様に振興センターにブックポストを設置して図書館に来館しなくても借りた図書が返却できるようにする。③移動図書館ぎんが号のステーションのうち小学校は笹間第一小学校のみである。学校側と調整の上でほかの花巻地域の小学校や中学校へ行き、児童・生徒の読書活動を推進する。また放課後時間帯に小学校区の学童クラブへ貸出に行くという方法も考えられる。 ※①と②の項目については近隣の遠野市立図書館で実施している。 (2)職員体制の強化 花巻市では図書館運営の中心を会計年度任用職員である司書と司書補助員が担っている。しかし、年度毎の契約という不安定な雇用形態では継続した図書館サービスに支障をきたす例が全国の公共図書館で問題になっている。鳥取県の短時間正職員制度や高知市の会計年度任用職員経験を条件とする正職員採用試験制度などを参考に非正規から正規への転換を促す	(1) ①②個人のパソコンやスマートフォンから既に図書の予約はできます。予約した図書等を各振興センターにおいて配本することや返却することについては、各振興センターを運営する地域の皆さんの負担ともなるので、各地域の需要を踏まえ各地域との協議が必要になりますが、ご意見を参考にします。 ③移動図書館車による学校への運行は各学校と協議の上決めています。5－3 新花巻図書館サービスの基本と種類（２）サービスの種類⑤学校図書館の支援（P17）「(ア) 新花巻図書館では、学校図書館を積極的に支援します。」「(イ) 児童・生徒が本に触れ心豊かに成長できるよう、学校と連携し学習や調査の内容に合わせた資料を提供するなど、授業への図書活用を強化します。」と記載しており積極的に支援していきます。また、学童クラブ等への団体貸出は、現在の花巻図書館でも行っていますが、5－3 新花巻図書館サービスの基本と種類（２）サービスの種類①閲覧・貸出（P16）に、 <u>「(カ) こども園や学童クラブ、高齢者施設等に団体貸出を行います。」と新たに記載</u> します。 (2) 5－8 利用者の視点に立った図書館運営（１）職員体制（P26）「③職員体制は、一般職員、司書職員、司書会計年度任用職員を含め、人件費やランニングコストを踏まえて、開館時までに検討します。なお、職員数は、将来的な人口減少等による経済情勢、市の財政状況、図書館の利用状況により変更する可能性があります。」と記載しておりますので、今後検討しますが、ご意見も参考にします。
12	5-6 利用方法に関する事項(1) 5-7 蔵書・資料の収集について 6-1 施設(5)	1.北上中央館のように営業日は祝日開館あって良いと思う。(素案該当にない部分) 2.過去資料の復元等も可能にすべきと思う。(新聞系)(素案該当にない部分) 3.万が一の大災害時の減災、図書の保管(本館→分館等)も安全な方法で考りよすべきである(素案該当にない部分)	1.祝日は原則開館する予定であり、5－6 利用方法に関する事項（P23）「（１）開館時間（案）」において、祝日を休館日にしております。 2.新聞等過去の資料については、既にデータベース化しているものも多いため、そのような電子資料の活用を検討します。また、5－3 新花巻図書館サービスの基本と種類（２）サービスの種類⑦新たなシステムへの対応（P18）「(カ) 新花巻図書館において、インターネットや各種データベースなどを閲覧利用できる環境を整備します。」と記載しております。資料の復元については、どのような内容を指しているのか分かりかねますが、古い新聞等で傷みの激しい資料等の修繕・復元については、ご意見を参考に検討します。 3.基本計画（案）に、6－1 施設（５）防災、防犯対策、環境へ配慮（P30）「①建物は地震などの災害に対応できる適切な耐震性等を確保した施設とするとともに、設備は地震による図書の落下対策や、書架の転倒防止対策を施したものとします。」、6－2 施設の規模（１）新花巻図書館の収蔵能力（P31）「中央館として資料保存の機能や地域館の共同書庫としての役割を果たすため、閉架書庫はなるべく多く確保します。」と記載しており、ご意見を参考に運用します。
13	5-6 利用方法に関する事項(1)	・駅前なら、早朝開館はニーズがあると思う 例 名取市図書館は 7:00～9:00 は、ラウンジに新聞・雑誌を配架	5－6 利用方法に関する事項（１）開館時間（案）（P23）、「開館時間は 9:30～19:00 ただし、9:00～21:00 の学習室等施設利用可能」としておりますが、「開館後も利用者のニーズや市民のライフスタイルなどの変化に合わせて見直しを行います。」と記載しておりますので、ご意見を参考にします。
14	5-6 利用方法に関する事項(1)	閲覧スペースと学習スペースの開館時間が開始・終了ともずれていますが、開館は 9:30～10:00 の間、閉館は 19:30～20:00 の間で全館揃えたほうがよいと考えます。 理由は、①閲覧スペースが閉まっている時間帯は、学習スペース利用者がそこを通らないようにする設計上の縛りになる。②JR 線の上下線とも、19:00 直前に花巻に到着する列車(通勤客が多い)があり、閲覧スペースの閉館が 19:00 だと利用できない。③21:00 閉館だと、職員の終業時間がかなり遅くなる。④開館している時間が長いと	開館時間については、令和 3 年度に設置した新花巻図書館整備基本計画試案検討会議において検討してきたもので、当初、原案は職員等の勤務時間や経費も考慮して平日は 10:00 から 20:00、土曜日曜は 10:00 から 19:00 でしたが、「もう少し早く開館してほしい。」「学習スペースは遅くまで使いたい」等の意見を踏まえ、開館時間を 9:30 から 19:00 とし、学習室等は 9:00 から 21:00 まで利用できるようにしたものです。学習スペースが閲覧スペースを通らないで使えるような図書館の例もあり、スペースの取り方については設計段階で検討していきます。

		光熱費がかかる⑤清掃する方の就業時間を考慮 です。利用者の利便性を大事にしつつ、そこで働く人たちの労働時間も考えるべきと思います。 なお、閉館時間については、土日祝を早くしてもいいかと考えます。 また、休館日ですが、紫波町図書館のように祝祭日でも開館する日があれば、利用しやすいと考えます(代わりに翌日などに休館する)。 (この項目と若干ズれますが、利用者が図書を借りる際に、返却日にまでに図書館に返しに行けるかどうかというのがネックになると思います。返却日に予定が入っているとそもそも借りるのをやめようかなと思ったりしますので、日中働いている人も寄りやすい時間までの開館や、図書館以外にも返却場所を数か所設置していただければと考えます。)	祝祭日については、原則開館する計画です。 なお、開館時間、貸出点数、貸出期間は (P23)「ただし、開館後も利用者のニーズや市民のライフスタイルなどの変化に合わせて見直しを行います。」、「※図書館の利用状況によっては、開館時間等を変更する場合があります。」と記載しており変更する可能性がありますので、ご意見を参考にします。 図書の貸出と返却については、5-3 新花巻図書館サービスの基本と種類 (2) サービスの種類①閲覧・貸出 (P16)「(ウ) 資料の貸出手続きは、その迅速化を図るため、自動貸出機を設置するとともに、予約図書を受け取れるコーナーを設置します。」と記載しており、予約した図書を受け取れるコーナーを設置することや、6-3 基本計画に基づく具体的な空間計画 表 10 具体的な空間計画 (1) エントランススペース①エントランス (P33)「主な設備 ・返却ポスト (本、CD など)」と記載しており、閉館時にも返却できるようにします。なお、現時点でも図書は市内図書館 4 館すべての返却ポストに返却することができ、過去には市内商業施設に返却ポストを設置していただいたことがあります。返却ポストの設置についてはご意見を参考に検討します。
15	5-6 利用方法に関する事項(1)	図書貸し出し時間について:通勤通学者にとってはあまりメリットがない。なぜならば、通学生がクラブ終了後また通勤者が仕事帰りの利用には不便です。学習用に 2 1 時まで開けるのなら図書貸し出しもその時間までにしたらどうか。職員の配置が問題であるなら自動貸し出し機の設置を考えてはどうか。	開館時間については、令和 3 年度に設置した新花巻図書館整備基本計画試案検討会議において検討してきたもので、当初、原案は職員等の勤務時間や経費も考慮して平日は 10:00 から 20:00、土曜日曜は 10:00 から 19:00 でしたが、「もう少し早く開館してほしい。」「学習スペースは遅くまで使いたい」等の意見を踏まえ、開館時間を 9:30 から 19:00 とし、学習室等は 9:00 から 21:00 まで利用できるようにしたものです。 開館時間、貸出点数、貸出期間は (P23)「ただし、開館後も利用者のニーズや市民のライフスタイルなどの変化に合わせて見直しを行います。」、「※図書館の利用状況によっては、開館時間等を変更する場合があります。」と記載しており変更する可能性がありますので、ご意見を参考にします。 図書の貸出と返却については、5-3 新花巻図書館サービスの基本と種類 (2) サービスの種類①閲覧・貸出 (P16)「(ウ) 資料の貸出手続きは、その迅速化を図るため、自動貸出機を設置するとともに、予約図書を受け取れるコーナーを設置します。」と記載しており、予約した図書を受け取れるコーナーを設置することや、6-3 基本計画に基づく具体的な空間計画 表 10 具体的な空間計画 (1) エントランススペース①エントランス (P33)「主な設備 ・返却ポスト (本、CD など)」と記載しており、閉館時にも返却できるようにします。
16	5-7 蔵書・資料の収集について(1)⑨	「本市や各地域の住民生活に関わりの深い」新聞が 35 紙、雑誌が 300 タイトルもあるとは思えません。雑誌は客寄せにはいいかもしれませんが、民業圧迫レベルの数かと思えます。 想定している新聞がどのようなものかわかりませんが、特定の業界の新聞であれば市町村の図書館で収集する必要はないと考えます。 雑誌は個人がサブスクで安価に読むこともできますし、多数の資料を市町村の図書館で収集する必要はなく、数を絞って予算も絞った方がいいと考えます(北上図書館では、企業などが雑誌の購入代金を負担し雑誌のカバーに広告を載せるスポンサー制度を取り入れています。利用者に地元の企業を認知してもらう効果もあると思います。)。	5-7 蔵書・資料の収集について (1) 広い分野の収集 (P25)「⑨ 逐次刊行物(新聞・雑誌等)は、本市や各地域の住民生活に関わりの深い新聞や雑誌等を収集し、デジタルでの提供も検討します。(概ね新聞は 35 紙、雑誌は 300 タイトル)」と記載しています。 新聞等については業界、産業、研究分野など多様であり、他の先進図書館の事例を参考に設定しましたが、5-8 利用者の視点に立った図書館運営 (2) 運営経費 (P27)において、図書購入経費も含めた運営経費について「なお、新花巻図書館開館後の運営経費は、活用できる財源の確保に努め、これらを活用し予算化していきますが、将来的な人口減少等による経済情勢、市の財政状況、図書館の利用状況により、固定費以外については減額する可能性があります。」と記載しております。 スポンサー制度については、地域貢献・社会貢献の立場から地域の企業等に雑誌を寄贈していただくなど、図書購入費を削減する方法として有効な手段と考えますが、今後の経済状況等を見ながら検討します。
17	5-7 蔵書・資料の収集について(2)①	・当地ゆかりの現役作家コーナーの設置について 平成 1 4 年 4 月、市文化会館で宮崎駿監督のアニメ作品「千と千尋の神隠し」が上映されるのに合わせ、隣接する図書館で「柏葉幸子童話作品展」が開催された。主催した「『花巻に映画の灯を再び』市民の会」は益金の一部で『ミラクル・ファミリー』や『地下室からのふしぎな旅』、『ざしきわらし 一太郎の修学旅行』、『モンスター・ホテル』シリーズなど柏葉作品を購入し、図書館に寄贈した。それらの作品はいま、こども室のコーナーに並べられている。 第 1 5 回講談社児童文学新人賞を受賞した『霧のむこうのふしぎな町』1 9 7 5 年)は「千と千尋…」の下敷きになったことでも知られる。柏葉さんの作家活動はめざましく、『つづきの図書館』(2 0 1 0 年)は第 5 9 回小学館児童出版文化大賞、『岬の	本市ゆかりの現役作家コーナーの設置については、5-7 蔵書・資料の収集について (2) 郷土資料の収集・保存を拡充 (P25)「① 宮沢賢治や高村光太郎、萬鉄五郎、新渡戸稲造等、本市ゆかりの先人資料について積極的に収集、保存を図るほか、本市にゆかりのある作家等の著書についても可能な限り収集、保存を図ります。なお、収集した資料については、多くの図書館利用者が手に取りやすくなるよう、可能な限り、開架閲覧スペースの中に配架することとし、郷土資料・先人資料数に応じた十分な配架スペースを確保します。」と記載しており、ご意見については配架時に検討します。

		マヨイガ』（２０１６年）は野野間児童文芸賞に輝いている。 さらに、３年前には『帰命寺横丁の夏』が米国で出版された最も優れた児童書に贈られる「米バチェルダー賞」を受賞。ドイツ、韓国、ロシア、インドネシアの各国で翻訳出版されている。そんな矢先に飛び込んできたのが当市在住の阿部暁子さんの作品『カフネ』が本屋大賞を受賞したというビッグニュースである。このほかにも地道な作家活動が続けている人もおり、人材発掘を兼ねた「現役作家コーナー」をぜひ、設置してほしい。	
18	5-7 蔵書・資料の収集について	・資料整備は早期着手を！選書は誰が？ 70万冊への年次計画と、70万冊充足以降の資料費の継続的確保を。	５－７ 蔵書・資料の収集について（P24）「開館に向けて具体的な蔵書計画を策定します。」と記載しており、本基本計画が策定された場合、これに基づき司書資格を持つ職員を中心に、具体的な蔵書計画の策定を進めていく予定です。資料費については、ご意見を参考にしますが、将来的な人口減少等による経済情勢、市の財政状況、図書館の利用状況により変動します。
19	5-8 利用者の視点に立った図書館運営	・新花巻図書館の開館時における館長は庁内人事のたらい回しではなく、広い知見を有する人材を求めるために「公募制」を導入してほしい。	館長を公募することについては、ご意見として参考にします。
20	5-8 利用者の視点に立った図書館運営(1)	本案には特に明記しなくてもよいですが、現状カウンターに男性職員がいるのを見たことがありません。何か事情があるのか分かりませんが、性別偏りなく人員配置したほうがよいと考えます。	特に事情はありませんが司書資格を有する女性職員が男性職員よりも多いのではないかと考えます。ご意見として承ります。
21	5-8 利用者の視点に立った図書館運営(1)	司書を専任とし、図書館で経験を積んだ正職員が、他部署へ異動することがないようにしてほしいです。 花巻で育った若者が、地域に貢献したいと、司書を希望したとします。花巻市の職員に採用されたとしても、図書館で働けるのは数年で、他部署へ回されると知り、就職をためらい、それによって人材が流出するとすれば、極めて残念なことです。 非正規公務員が低賃金、不安定雇用に陥る官製ワーキングプアの代表例として図書館司書が目立っています。会計年度任用職員の立場になって賃金と、雇用の安定を考えてほしいです。	５－８ 利用者の視点に立った図書館運営（１）職員体制（P26）「③職員体制は、一般職員、司書職員、司書会計年度任用職員を含め、人件費やランニングコストを踏まえて、開館時までに検討します。なお、職員数は、将来的な人口減少等による経済情勢、市の財政状況、図書館の利用状況により変更する可能性があります。」と記載しており、ご意見を参考にします。
22	5-8 利用者の視点に立った図書館運営(2) 表 7 その他	・経費について ①ランニングコストの試算を示してほしい ②スポンサー制を検討してはどうか？ 例 雑誌等のファイルにスポンサー名を表示 移動図書館車や公用車にスポンサー名を表示 ※角館市では、公用車に月替りでマグネットステッカー貼付。 この他にも、書架やディスプレイにも、検討できるのでは？ ③施設内外のデザインにプロを採用しては？ 例 盛岡市立図書館には、乃村工藝社（たしか？）が、空間をととてもステキに使っていて、館内の統一感を感じました。 ・館のイメージ演出方法について 私見ですが、「花巻＝賢治」ではないと思います。 そして、宮沢賢治を知る施設等は他にもすでにあります。 図書館を第二の賢治記念館にするのではなく、 “賢治も育んだ広域花巻”をイメージとして感じる演出に期待します。	①５－８ 利用者の視点に立った図書館運営（２）運営経費 表 7 新花巻図書館年間事業費試算（P27）において、人件費、消耗品費、光熱水費、その他、施設管理、システム等、機器借上料等、図書購入費等、合計年間 198,814 千円と試算しています。 ②雑誌スポンサー制度等については、地域貢献、社会貢献の立場から地域の企業等に雑誌を寄贈していただくなど図書購入費を削減する方法として有効な手法と考えますが、今後の経済状況等を見ながら検討します。 ③設計については実績のある事業者をお願いしたいと考えており、ご意見として伺います。
23	5-8 利用者の視点に立った図書館運営(2) 表 7	提示されている額が古くなってしまいました。可能であれば、「現花巻図書館」は令和 7 年度予算に一関図書館は令和 5 年度決算に変えた方がよいと考えます。 なお、②消耗品費等が現図書館の 1.5 倍である根拠が不明ですし、⑤図書購入費等は額の算定根拠の説明が必要と考えます。	建物は省エネ性能にする予定ですが現時点で不確定や要素が多いため、このように示したものです。（P27）「建物を ZEB 使用の省エネ性能の水準に適合させることにより、光熱水費等を削減できる可能性があります、現時点で不確定な要素が多いため、計画策定当初に試算した金額としています。」 なお、②消耗品費等を現図書館予算の 1.5 倍としたのは、企画展等の規模や回数を増やす予定であるため、また、⑤図書購入費については、先進地図書館の例を参考にしましたが、今後、蔵書計画を策定します。
24	6-1 施設(2)⑬	テラス席は、のんびりしたり、おしゃべりしたり、電車を眺めたりするための利用はありだと思います。読書については、公的な資料が汚れたりする可能性があるので、如何なものかと思います。 「自然や緑を感じ」ることについては、駅前に限らず街の中心部は自然豊かではあり	６－１ 施設（２）十分なスペースを確保（P29）「⑬ 自然や緑を感じながら屋外で読書などの活動ができるテラスなどの空間をつくります。」、６－３ 基本計画に基づく具体的な空間計画 表 10 具体的な空間計画（２）開架・閲覧スペース⑥書架・閲覧スペース（P35）「特記事項・屋外でも閲覧ができるスペース（テラス席等）も検討すること」と記載しており、多様な読書ニーズに応えるために、先進図書館を参考にテラス席等も検討することとしていますが、どのように設置するかはご意見を参考に設計段階で検討します。ま

		ません。街には街の景色があります。街中に図書館を建てるのですから、自然を感じることに重きを置くことはないと考えます。	た、仮にテラス席など屋外で閲覧を可能とする場合は、そのルールも定める必要があると考えます。
25	6-1 施設(2)⑩	既になはんプラザの多目的広場があります。消雪された広場なので、現在も冬に駐車場から向かうときに非常にありがたいです。図書館として別個に広場を作る必要は全くありません。 外にスペースが必要なら、例えば盛岡の TSUTAYA MORIOKA 店のようにエントランス部分に大きなひさしがある建物にすれば、雨天時にも便利に使えてよいかと考えます(イベントの時にキッチンカーを入れるなど、スペースの貸し出しもできると思います。)	多目的広場や駐輪場の設置場所など周辺の道路を含めた環境については、設計段階において、周辺住民の方々のご意見も伺いながら検討します。 また、市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでていいるところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内に子どもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画(案)に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」(P36)の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。
26	6-1 施設(1)②	この項目(注：p.29 6-1 施設(1)②)は当計画(案)には不適切ではないでしょうか。 ②施設の内装等は…で始まる分は前提の施設について等、解り難い文章なので次の様に具体的に示して、問題点を書きます。 「施設はコンクリート建設とし、内装等は可能な範囲で木質化を図る」コンクリート建築を前提とした施設であることが文章の前提になります。 問題点(花巻市の基本方針に沿わないコンクリート建築前提の項は不適切でしょう) 1.当市には法律に基いて制定された「木材利用促進基本方針」があり公共建築物等においては可能な限り木造化を図ることを目標とする(第 4-1)とあります。この規定に基いて木造建築を基本とした図書館計画にすべきでしょう。 2.木造建築が不適当でコンクリート建築にする必要があるならば、計画案作成段階で十分議論の上経過の周知を図る必要があると思います。 3.木造建築にしない理由が明確にあればそれを市民に明示ください。近年建設されている他の自治体の図書館では利用者の心身の安定・健康への寄与の視点から積極的に木造建築を採用しています。	施設の木造化については、主な質問への回答 13【木造について】のとおり、通常の木造建築は耐火建築物となりませんので、貴重な書籍などを保存する機能のある図書館として通常の木造建築は適当でないと考えます。 最近、CLT などの木材加工技術を利用するなどにより、法令により木造耐火建築物として認定を得ることができるようになりましたが、一般の木材を使用する場合に比べて建設コストが高くなります。 また、花巻市には製材所がなく、まして CLT を加工する施設もありませんので、市内で伐採した木材を木造建築物の材料として使用する場合には市外の製材所まで運搬する必要があり結果的に建設コストが相当高くなります。大迫中学校建築にあたり市有林を伐採し市外に運び製材したものを内装の木質化に使用しましたが、結果的に市外の木材を使用する場合に比較し相当コストが上昇する結果となりました。 そのような中で最近の例では桜台小学校の長寿命化で内装を可能な範囲で木質化しましたが、児童及び関係者から高評価を頂いているところですが。新花巻図書館についても、耐火の観点から問題のない範囲においてはありますが、コストの点で受け入れ可能な範囲では、市内で伐採される木材も利用して、できるだけ内装の木質化を検討したいと考えています。 なお、工法については、木造、鉄筋コンクリート造りのほかに鉄骨造り、あるいはそれらの組み合わせなど多様な工法があることから、ここで建築工法を限定していないところです。
27	6-1 施設(2)⑬⑯ 6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画表 10(4)④ (7-3)	左ページ及び項目等を書いた部分(注：p.29⑬、p.30⑯、p.38④、p.40①、p.45 図、p.46 6～12 行)には、緑地広場の必要性や、その活用等について書かれています。 くつろぎの野外スペースやイベント等の活用について記されている通りであると考えます。 また、子どもたちの性向から判断し時々走り回れるような緑地でそれを親たちが見守れる様、片隅にはベンチ・テーブルの設置もしてある。 ひとつ重要な点で心配があるのは、子供たちのボール遊び、バルーン、紙ふうせん、紙飛行機遊びの際に風で線路に運ばれることです。「危険」ではないでしょうが、列車運行に関わる「大問題」です。 立地が病院跡地であれば、傾斜面に近い部分を緑地広場にすることで問題なく折紙、ふうせん作りなどのイベントが可能になります。 ドローンのグループ学習なども小型機を飛ばして出来るようになります。	市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでていいるところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内に子どもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画(案)に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」(P36)の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。 なお、総合花巻病院跡地において芝生広場を設置することは可能と考えますが、城跡の堀部分や北側は急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されているため人が入ることができず、外庭などを設置する自由度はありません。
28	6-1 施設(5)	・災害やイベントへの配慮を。 例 駐車場の床下に臨時トイレの設備がある 例 花巻まつり等の来訪者の手荷物あずかりや観光案内のスペースを。 ただし、このスペースの運営は関係団体等と連携	駅前では、既になはんプラザが一時的に滞在する場所として指定避難所に指定されています。手荷物あずかりや観光案内のスペースを図書館内部に設置し運営を団体に任せることについては、そのような需要があるのか、図書館内部に設置する必要があるか、現時点では把握していないので、関係部署と協議します。
29	6-2 施設の規模(2)	1 建設規模(4,500 m²について) 広い館内は利用者には心地よい。 が、当市の人口は将来に向かい減る。比例的に図書館利用者也減る。 新図書館の建設規模、ワンランク引き下げを提案します。 建設工事費が縮減できます。建設後の維持管理費の節減に資することも当然です。	6-2 施設の規模(2)スペース別面積規模(P32)「新花巻図書館の各施設のスペース別面積規模は表 9 のとおりです。この規模は概ねの目安であり、日本図書館協会図書館雑誌掲載統計の「数字で見る日本の図書館 貸出密度上位の公立図書館整備状況」に記載されたデータにより、床面積を想定しています。「数字で見る日本の図書館 貸出密度上位の公立図書館整備状況」では、各人口段階の住民一人当たりの貸出資料数上位 10%にあたる自治体の平均数値をまとめており、人口 8 万人の 4,096 m²、10 万人の 5,074 m²の専有面積の 2 つの平均値 4,585 m²程度を算出し、目安として設定しています。」として、建物全体の目安となる面積を「4,500 m²程度」と記載しています。また 6-3 基本計画に基づく具体的な空間計画(P32)「基本計画を踏まえ、施設の主な機能や設備などは表

			10 のとおりです。なお、この内容は基本的なものを示したものであり、今後、基本設計や実施設計時に詳細を検討します。」と記載しており、今後具体的な設計に入り、事業費が膨大となる場合は規模を縮小することも検討する必要があると考えます。
30	6-2 施設の規模(2)	1 行目の文を読むと、スペース別の面積を足しあげた結果が 4,500 m ² のように見えます。しかし、段の後半を読むと、人口 8 万人と 10 万人の自治体のそれぞれの貸出資料数上位 10%にあたる図書館の平均床面積を、花巻市の人口が 9 万人なので足して 2 で割ったのが 4,500 m ² だと言っているように見えます。二通りで算定したのがどちらも 4,500 m ² だったのか、人口規模から求めた面積を(表 9)のようにスペース別に割り振ったのか明確にした方がよいと思います。(貸出資料数上位 10%の自治体の面積を使うことは、当該図書館等が新花巻図書館の想定している各スペースと同じような構成なのかも分かりませんし、目安にすることが妥当か疑問ですが、貸出資料数と人口規模並びに床面積との関連について元資料に説明があれば、掲載するとなおよいと考えます。なお、実際の設計では必要十分な面積にしてください。)	令和 2 年に行ったワークショップや市民からの意見を踏まえ、令和 3 年から新花巻図書館整備基本計画試案検討会議において協議してきた必要な諸室やスペースを積み上げ、人口規模から求め想定していた平均値の 4,585 m ² 程度を目安に全体のスペースを調整したものです。また、令和 6 年には新花巻図書館候補地比較調査を建設コンサルタントに業務委託し実施しましたが、この調査において諸室ごとのスペースの検証も行っています。6-3 基本計画に基づく具体的な空間計画 (P32)に「基本計画を踏まえ、施設の主な機能や設備などは表 10 のとおりです。なお、この内容は基本的なものを示したものであり、今後、基本設計や実施設計時に詳細を検討します。」と記載しており、ご意見を参考に設計時に検討します。
31	6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画 表 10	温浴施設(銭湯、サウナ)の併設を望みます。	令和 2 年 12 月 17 日付で、花巻市議会新花巻図書館整備特別委員会から新花巻図書館整備にあたっての提言がありましたが、その中で「③複合施設について 図書館単独での整備基本とすること。新花巻図書館整備基本構想に盛り込まれた市民のくつろぎと交流のスペースとして、飲食コーナーは図書館に必要な機能の一つとして位置づけ、整備を検討されたいこと。」とされ、P29「(2) 十分なスペースを確保」で「⑮飲食できるスペースの設置」及び P33「②ラウンジスペース」で「・喫茶等、飲食可能なスペースを想定」と記載していますが、それ以外の施設については設置しないこととしています
32	6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画 表 10(1)②	・図書館は静かな所のイメージが強いが、楽のしく語りあえる部屋も 1 室ほしいと思います。 できればお茶など飲めたら最高ですね。	6-1 施設(2) 十分なスペースを確保 (P29)「④ 閲覧席と閲覧スペースは、多様な読書閲覧需要に対応するため、静かに閲覧したい人のための閲覧スペースや、自由に話ができる閲覧コーナーなど、十分なスペースを設置します。」、「⑮ 飲食できるスペースの設置、市内の仕事や商品を紹介し購入できるスペースの設置に取組みます。」と記載しています。
33	6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画 表 10(2)⑤	このスペースは、資料の数や媒体の種類によって、ずいぶん変わってくると思います。 新聞 35 紙、雑誌 300 誌も紙媒体で配架したら、ある程度の過去分も置くことを考えると、雑誌架だけでかなりスペースが必要です。25 頁の 5-7(1)広い分野の収集⑨にも別の観点で意見しましたが、数が多すぎだと思います。 デジタル資料はスペースを取らず良いと思いますが、どのように閲覧するか(図書館のパソコン?)が問題になりますし、まずはそもそもの数を減らすべきと考えます。	5-7 蔵書・資料の収集について(1) 広い分野の収集 (P25)「⑨ 逐次刊行物(新聞・雑誌等)は、本市や各地域の住民生活に関わりの深い新聞や雑誌等を収集し、デジタルでの提供も検討します。(概ね新聞は 35 紙、雑誌は 300 タイトル)」と記載しています。 新聞等については業界、産業、研究分野などの多様であり、他の先進図書館の事例を参考に設定しましたが、5-8 利用者の視点に立った図書館運営(2) 運営経費 (P27)において、図書購入経費も含めた運営経費について「なお、新花巻図書館開館後の運営経費は、活用できる財源の確保に努め、これらを活用し予算化していきますが、将来的な人口減少等による経済情勢、市の財政状況、図書館の利用状況により、固定費以外については減額する可能性があります。」と記載しており、ご意見を参考にします。 閲覧方法については、ご意見をもとに 5-3 新花巻図書館サービスの基本と種類(2) サービスの種類⑦新たなシステムへの対応(オ) (P18)に「 <u>電子図書の閲覧</u> 」を加筆し、「(オ) パソコンやタブレット端末の貸し出しにより、電子図書の閲覧、館内資料の検索やそれら以外の情報も検索できるよう取組みます。」とします。
34	6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画 表 10(2)⑥	・グループでの研究や議論ができるのはいいと思いますが、閲覧スペースで「半開放」のイメージがわからないので、もう少し具体的に説明していただきたいです。また、半開放にする理由も付けた方がいいです。 ・テラス席はいいですが、屋外に図書資料を持ち出すことは、汚損の可能性もあるので反対です。閲覧スペースとしてではなく、声出し OK の交流スペースとしての利用はいいかと考えます。	・自由な人数でのグループで研究や議論ができるように、パーテーション等で空間を仕切ることができるようなスペースを想定していますので、6-3 基本計画に基づく具体的な空間計画 表 10⑥書架・閲覧スペース (P35)「 <u>特記事項グループでの研究や議論ができるような、テーブルや椅子が移動でき仕切ることができるような半開放的なスペースの設置も検討すること</u> 」と意見をもとに修正します。 ・テラス席については、6-1 施設(2) 十分なスペースを確保 (P29)「⑬ 自然や緑を感じながら屋外で読書などの活動ができるテラスなどの空間をつくります。」、6-3 基本計画に基づく具体的な空間計画 表 10 具体的な空間計画(2) 開架・閲覧スペース⑥書架・閲覧スペース (P35)「特記事項・屋外でも閲覧ができるスペース(テラス席等)も検討すること」と記載しており、多様な読書ニーズに応えるために、先進図書館を参考にテラス席等も検討することとしています。また、どのように設置するかはご意見を参考に設計段階で検討します。また、仮にテラス席など屋外で閲覧を可能とする場合は、そのルールも定める必要があると考えます。
35	6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画 表 10(2)⑨	声を出しても一般開架スペースに影響がないように独立させるべきと考えます。例えば岩手県立図書館は児童スペースと一般閲覧スペースを入り口からの通路で分け、児童側に自動ドアをつけていたかと思いますが、シンプルな方法でよいと思います。人工芝を敷いたり、ゆったり過ごせる環境を作っていただきたいです。線路側を子供向けスペースにして、電車が眺められるようにした方がよいと思います(風除室のようにワンクッションおいて外に出るようにすれば、音問題も発生しないと思います。)。 なお、乳幼児と小学生を分けて欲しいという親からの要望があったかと思っています。	諸室、スペースの具体的なアイデアについては、設計段階で参考にします。職員の配置場所についてもご意見を参考にします。

		年齢にかかわらず小さい子にちょっかいを出したい人がいますが、それを嫌う親もいるかと思います。スーパーマーケットで「赤ちゃんに触らないでください」と張り紙をしているところもあるくらいです。乳幼児と小学生以上を緩やかにゾーニングしたほうがいいと思います。 また、子供向けスペースには職員が必ずいるようにしていただきたいです(ボランティアさんもいれば、なおよいと思います。)。大人が絵本を見に行くときに、利用者以外に大人の職員がいれば、気後れせずに入りやすいと思います。	
36	6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画 表 10(4)②	細かいことで恐縮ですが、項目名が「講座、集会、会議室」と読点で羅列しているので、3つのそれぞれ独立した部屋があるように見えます。(32 頁の表 9 では中点を使っているので、一つの部屋である感じは出ています)。 また、38 頁⑤の多目的ギャラリーでも、会議や講座室としての利用が記載されているので、そちらとの違い(防音対策がされた部屋でスクリーンを使った上映ができるなど)を強調した方がよいと思います。	(P37)「講座・集会・会議室」と修正します。 防音対策や映画会ができることについては基本計画案に記載しておりますので、このままとします。
37	6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画 表 10(4)③	研究室と高齢者及び障がい者へのサービス対応がセットになっている理由が分からないので、その説明を記載していただきたいです。	(P38)個人の研究利用も含め、高齢者や障がい者向けの対面朗読サービスや点訳、録音を行う小規模な部屋を想定していますので、「研究室（高齢者・障がい者へのサービスにも対応）」と修正します。
38	6-3 整備計画に基づく具体的な空間計画 表 10(4)⑥、(6)①	「屋外の憩いの場」について、テラス席はあってもいいかと思いますが、芝生広場は不要です。風雨や暑さ寒さ、雪、花粉など気象条件によって使用が制限され、設置のコストに加えランニングコストもかかり、第一、周りの街の景色に馴染みません。特記事項にある「利用しやすさ」も「管理しやすい」もクリアしないと考えます。 建物の周りに、ある程度の植栽とベンチがあればいいと思います。盛岡市のぼちかち飯岡公園にコンパクトに作られた涙ぐむ目があります。賢治が設計した花壇を、あまり大きくなくコンパクトに設置するのも面白いと思います。 前述しましたが、芝生広場は不要です。現在の多目的広場の方が、イベント開催の汎用性が高いと考えます。	市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが。しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にどもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。
39	6 新花巻図書館の施設と規模	東和図書館のようなカジュアルな雰囲気だと良いと思う。 花巻っぽいコンセプトで創り、観光地としての色を出してほしい。	ご意見として参考にし、設計段階で検討します。
40	7 建設場所	1.新花巻図書館の建設場所は学び学園隣の市有地・旧花巻病院跡地へ 2.花巻市が駅前を選択した理由を市民にはっきり説明するべきである！！ 花巻市が誇る生涯学園都市、学び学園には幼児から高齢者まで自由に集まり、思い思いの活動ができる素晴らしい場所です。ただ残念なことに学んだことをもっと知りたいと思ったとき使える図書館がありません。当初の計画を知った時は完成するのを心待ちにしておりました。平成 29 年に公表した新花巻図書館整備基本計画、基本方針はとても素晴らしくこれがそのまま問題なく市民の望む図書館が建設されていたと思います。 岩手日報紙誌上で駅前と報道され『おかしい』と異議を唱えた市民から発生した反対運動が今に至っています。『なぜ駅前なのか』市民が納得するはっきりした理由がないまま、新図書館建設場所についてあたかも駅前建設を前提にした、5 年もの時間と税金をかけて試案検討委員会やとしょかんワークショップ、市民会議などが実施されたことに苛立ちと不快感を覚えます。 3 団体による旧花巻病院跡地へ建設をと署名活動に関わったメンバーは平均年齢 75 歳以上の方が多く、花巻市の先人、偉人のゆかりの地そして自然が残されている花巻城跡地がある花巻の中心地、生涯学園都市と認定している学び学園の隣が一番ふさわしいとの一念で、風雪に耐え目的を共有し戸別訪問、街頭、そして快く署名場所を提供して頂いたヨウカドーの店先及び店内、また友人知人へ返信用封筒を同封	ご意見をいただいたとおり、生涯学園都市会館（まなび学園）は学習活動や趣味活動で多くの市民団体をはじめとする皆さんに活用いただいている施設です。 なお、「平成 29 年に公表した新花巻図書館整備基本計画、基本方針はとても素晴らしく」とご意見をいただいておりますが、平成 29 年に公表したのは基本計画ではなく基本構想です。 これまでの経緯については、主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおりであり、駅前への建設を前提にしたものではありません。新しい図書館の建設は市にとって重要な事業であり、市民の関心も高いことから、基本計画の策定にあたって、ある程度の年月を要することは必要なことと考えております。 署名については貴重なご意見ととらえており、主な質問への回答 5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込んでおります。 なお、「定年退職し第 2 の人生、学びごとや趣味などを通じて学び学園を利用している市民は先の試案検討委員で公表されている通り駅前利用者よりかなり多い事が証明されています。」との記載については、「試案検討委員で公表」とのお話の趣旨は分かりかねますが、確かにまなび学園を利用する高齢者は多く、その高齢者も含め新花巻図書館を利用いただきたいと考えております。

		して日本全国に署名依頼をされた方など皆さん思い思いの形で実施しました。決して私利私欲でなく、身銭を切って花巻市にふさわしい建設場所をとるという思いで行動したものです。図書館の利用は、多くの方は『ついで』に利用することが多いと思います。花巻市で人通りの多い学び周辺、上町周辺を利用される方が『ついで』に図書館にというパターンが多いと想定されます。それが花巻市の活性化にもつながるし、なにより定年退職し第 2 の人生、学びごとや趣味などを通じて学び学園を利用している市民は先の試案検討委員会で公表されている通り駅前利用者よりかなり多い事が証明されています。幼児を連れた親、学び学園利用者は日中が多く必然的に『ついでに』図書館『ついでに』近辺で散歩や食事など、駐車場を移動せず歩いて移動するパターンが増えると思います。これが市街地の活性化や環境にも心身にもそして認知症予防に多大な良い影響を与えると考えます。 もし駅前建設が実現した場合、広報で提示されていた『サービス目標の達成』は難しいと思います。図書館目的の利用者は限定され、『ついでに』という発想は長期には続かないのではと危惧されます。なぜなら、駅前の人出が少ないのと高校生は夕方の利用になると思うからです。そして過去の苦い経験で駅前是有事の場合攻撃目標の可能性もあり、治安上も好ましくない。図書館は有事の場合の避難所として利用できる環境が整っている場所が適していると考えます。 高校生や若者が花巻市の将来を思っているいろいろ行動されていることは大変喜ばしい事です。いずれ人間は年を取ります。退職後の生活を有意義に過ごすことは、当市の学び学園の存在は有効で、そこに通う高齢者は生き生きと人生を謳歌しています。認知症予防にも大いに寄与していると思います。その場所に図書館ができれば、最高です。そうすることが今後かなりの人口減少が予測される花巻市の発展に大いに影響を与えていると思います。 新花巻図書館が花巻病院跡地へ建設されることを切に望みます。	サービス目標の設定については、現花巻図書館の利用者割合では、10～20 代の利用が少なく多くの方に利用してもらえる図書館を目指し、人口の変動や図書館利用状況、他の先進図書館のデータを基に試算したものであります。高校生だけの図書館ではないので、多くの市民に利用していただける図書館の建設を目指しているところです。 なお、昭和 20 年 8 月 10 日の空襲においては、駅前だけではなく上町も爆撃対象となり、また、その当時の花巻高等女学校の生徒たちは、林の中に避難して危うく難を逃れたと伺っております。そのような空襲を受けるようなことがないよう平和を維持することが大事であると考えるところであります。もし万が一そのような事態となった場合においては、総合花巻病院跡地がより安全であるということは必ずしも言えないものと考えます。 若い方々が本市の将来を思い行動されていることはご意見のとおりと存じます。また今回の署名活動に関係された方々や、高齢の方々のご意見も大切だと考えております。高齢者が生き生きと元気に暮らしていけるまちづくりは重要だと思いますが、若い人たちも花巻市で暮らしていきたいと考える魅力あるまちにしていけることも大切だと思います。皆さんのご意見を聞き、できるだけ多くの皆さんのご意向に沿うことができるように基本計画案を考えてきたところです。
41	7 建設場所	当初は花巻総合病院跡地に新花巻図書館を新設する予定なのが何故急に花巻駅前という案が出てきたのか不思議でなりません。何が病院跡地では不都合なのかという事がはっきりしていません。なにか市民が知らないような力が働いているような気がします。 交通の便がどうかという話もありますが駅前に行くのも結構混雑してストレスを感じる人もいます。立体駐車場になると苦手な人もいます。できれば平地の駐車場が良いと思う方が多いのではないのでしょうか。そもそも本当に駅前が良いという方が多数というのも疑問があります どちらが良いのか資料をきちんと示してもう一度花巻市民の意見を確認してから結論を出すべきだと思います	「急に花巻駅前という案が出てきた」ということについては、主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおりであり、市としてはそのように考えておりません。「なにか市民が知らないような力が働いている」ということについては、ご主旨がよく分かりませんが、市民が知らないような力が働いていることは全くありません。 交通の便によるストレスについては、高齢者の方が駐車しやすいという観点を考え、立体駐車場ではなく平面駐車場とするとともに、特に図書館の建設予定地に近いところには、高齢者、障がいのある方、乳幼児連れの方々の優先駐車場を設けることとしているところであり、駐車場の利用については主な質問への回答 9【駐車場について】のとおり、不便のないように考えております。 なお、免許の返納等により自家用車を運転できなくなる方々にとって公共交通が便利であり利用しやすくなるものと考えております。 建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであります。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。

			従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 この市民会議については、主な質問への回答 2【市民会議について】を参照ください。
42	7 建設場所	2020 年 1 月 29 日市長による新図書館複合整備事業計画が新聞に発表されてから、市長は駅前建設構想に執着し横車を押し続けて来ました。その為に今まで時間も税金も使って来た事に多くの市民が納得していません。 自然と調和し、明るくゆったりしたスペースであり(花巻図書館整備市民懇話会)3つの基本方針を満たし事業費は可能な限りコスト削減に努め(新花巻図書館整備基本構想)、建設用地は市有地とする事(花巻市議会新花巻図書館整備特別委員会提言)、花巻立地適正化計画にまなび周辺とする事は自ずと辿り着く建設場所で時間をかけずに建設を進める事が出来たはずです。 4 月 15 日からの 4 ケ所の説明会で市の計画に対しての不信感が多く出されました。特に「市民会議」を一番の参考にした事の納得をしていない市民が多かったのです。市は花巻駅前建設計画を撤回し花巻病院跡地に建設すべきです。	令和 2 年 1 月 29 日に公表した「新花巻図書館複合施設整備事業構想」についての経緯は、主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおりであり、駅前への建設に執着してきたものではありません。 また、仮に総合花巻病院跡地に図書館を建設することになったとしても、建設が早まったということはありませんし、一方、花巻駅前に建設を決めていたとするならば、JR 東日本との売買交渉を経た上で、設計及び建設が現時点において進んでいた可能性はあったものと考えております。 平成 29 年 8 月に定めた「新花巻図書館整備基本構想」は、平成 24 年 10 月に市民懇話会から提出された提言に基づいているものであり、ご意見のとおり基本構想にも「自然と調和し、明るくゆったりしたスペース」との記述はあります。自然やゆとりある空間については、主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり、病院跡地について、木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方があ一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。総合花巻病院跡地においても図書館を 2 階建てとすることを前提として芝生広場を設置し、樹木を植栽することは可能と考えますが、城跡の堀部分や北側は急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されているため、堀より下側の平地も含めて外庭などを設置する自由度はありません。 駅前の JR 所有地においても図書館を 2 階建てまたは 3 階建てとすることにより総合花巻病院跡地に図書館を 2 階建て整備する場合と同様の床面積を確保することができます。また、市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところです。しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内に子どもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。また、事業費は可能な限りコスト削減に努めることも記述されております。 主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおり、平成 28 年 6 月に策定した「花巻市立地適正化計画」では「生涯学園都市会館（まなび学園）周辺への『図書館（複合）の移転・整備事業』」と記載しております。 しかしながら、現花巻図書館は、公共交通機関が少ないため、車がある人や近くの人には利用できますが、生徒や学生、免許を返納した人など車での移動ができない人には利用しづらい場所にあることから、車のある方、車で来館される子ども連れの方、近所の方等、利用に偏りがありました。従ってそれ以外の層の方々に利用をいただくとの観点から、駅前における立地も内部的に検討するようになったものです。 平成 29 年 8 月に図書館建設にあたっての根幹となる構想「新花巻図書館整備基本構想」策定の段階では、総合花巻病院の跡地を含む「生涯学園都市会館（まなび学園）周辺への立地をあきらめたわけではありませんでしたが、駅前への立地の可能性も考えて、「新花巻図書館整備基本構想」には建設場所について特定の場所を定めず「候補地を数箇所選定した上で基本計画において場所を定める」としたものです。 花巻市議会新花巻図書館整備特別委員会の提言、②建設用地について「建設用地は市有地とすること。借地に建設することにより将来にわたる財政負担と、土地利用上における権利関係の不安要素は避けるべきであること。」については、主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおり、その時点で既に候補地として示していた花巻駅前の JR 用地を市有地にすることも含めた提言であり、さらに言えば、その時点では総合花巻病院の場所も市の土地とはなっていないところです。 建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものがあります。 市民会議については、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおりであり、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 市民説明会については、4 月 15 日大迫地域、4 月 16 日東和地域、4 月 17 日石鳥谷地域、4 月 19 日花巻地域の 4 か所で開催し、説明をしてきました。特に、花巻地域での説明会は 4 時間にもわたり、参加者の皆さんにもご負担をおかけしましたが、質問や意見をお持ちの皆さんからそれらを全てお聞きしてお答えしてきたところです。 なお、市民説明会の会議録については、市ホームページに掲載しておりますので、市民説明会でのそれぞれご意見ご質問を確認されたい方についてはご参照願います。

			https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/1014033/1023300.html ※花巻市ホームページ「新花巻図書館整備基本計画(案)に関する市民説明会について」
43	7 建設場所	図書館が新しくなるという話を耳にしてから、 計画が具体化するのを心待ちにしていました。よもや、これほどの時間がかかるとは、予想だにしていませんでした。ワークショップにも参加し、望む図書館を伝えてきました。乳幼児期から高齢期まで、人の一生に寄り添う場としての図書館であって欲しいです。人を真ん中に考えられている図書館を切に望んでいます。新花巻図書館整備基本構想の基本方針のとおりです。新花巻図書館のサービスについても大賛成です。一つだけ言いたいこと。図書館を「賑わい創出のための道具」にして欲しくありません。どこかの町の二番煎じは止めて、花巻ならではの図書館を創ることを考えて欲しいです。そのためにも、図書館は駅前以外の場所、花巻病院跡地がふさわしいと考えます。	ワークショップなど、これまでの経過については、主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおりです。 市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり、市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものです。 平成 29 年 8 月に定めた、新しい図書館建設にあたっての根幹となる「新花巻図書館整備基本構想」では、「幼児、子ども、高齢者、障がい者、すべての市民が気軽に利用できるように、親しみやすく使いやすい施設とします。自然や周辺に調和した明るくゆったりしたスペースとし、読書はもちろんのこと、くつろぎの場でもあり、交流の場ともなる施設とします。」とすべての市民が親しみやすく使いやすい図書館を目指しています。 また、賑わいという観点については、主な質問への回答 4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、賑わいや活性化という観点については、平成 29 年 8 月に定めた新花巻図書館整備基本構想において「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており、市民会議の皆さんが賑わいや活性化という観点を重視したことについては、新花巻図書館整備基本構想に即していると考えております。ヒアリングシートにおいても、「図書館を中心として活性化できると思う。」「図書館が建つことで人が集まり活性化することを望んでいる。」「花巻がもっと住みやすい街であってほしい。もっと変わってほしいという願いがある。」「街のシンボルになってほしい。」などのご意見をいただいております。
44	7 建設場所	図書館建設を最終的に駅前に決定したプロセスが雑です。即ち、市民会議の意見集約を最終的な理由にしている様ですが、その肝心の意見集約の中身が図書館建設が目的でなく、賑わいまちづくりの視点に重点が置かれてしまっています。「都市計画的視点」、「建築的視点」に分類された質問では、図書館本来の建設する目的から外れてしまいます。一体「誰のための図書館…?」これを駅前開発の活性化に利用するのは筋違いだと思います。駅前にはスポーツに関する総合商業施設を作ってください。花巻にお金が落ちます。(税収増) これだけの大きなプロジェクト(数十億)であり、市民の意見が色々あるので、住民投票による建設地決定がすっきりするだけでなく、民主的な方法と思います。この方法で決まれば、多くの市民が納得すると思います。納税者の意見が反映されていないと思われては、今後の行政施策に必ず影響すると思います。(以上)	駅前を選定した過程は、主な質問への回答 1【これまでの経緯】、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 市が定めた基本構想の基本方針では、「幼児、子ども、高齢者、障がい者、すべての市民が気軽に利用できるように、親しみやすく使いやすい施設とします。自然や周辺に調和した明るくゆったりしたスペースとし、読書はもちろんのこと、くつろぎの場でもあり、交流の場ともなる施設とします。」とすべての市民が親しみやすく使いやすい図書館としています。 賑わいという観点については、主な質問への回答 4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、賑わいや活性化という観点については、平成 29 年 8 月に定めた新花巻図書館整備基本構想において「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており、市民会議の皆さんが賑わいや活性化という観点を重視したことについては、新花巻図書館整備基本構想に即していると考えております。ヒアリングシートにおいても、「図書館を中心として活性化できると思う。」「図書館が建つことで人が集まり活性化することを望んでいる。」「花巻がもっと住みやすい街であってほしい。もっと変わってほしいという願いがある。」「街のシンボルになってほしい。」などのご意見をいただいております。 商業施設については、平成 30 年に UR 都市機構が行った調査では、花巻市の規模で駅前に総合商業施設を整備することは難しいとのことであり、そのことについては、県庁所在地である青森県青森市等において駅前での商業施設が難しかったことから想定できることを考えております。 また、住民投票については、主な質問への回答 14【住民投票について】のとおりであり、時間や経費を有するなど、課題があると考えております。
45	7 建設場所	提出するこの意見は、総会の議決を経ていないため本会としての総意ではないが、会員の多くの意見を踏まえて会の代表者として提出するものです。 意見交換を行った本会の会員および、本会が主催する「宮沢賢治カフェ」に参加された一般市民の方からは、市の案に賛同される方は一人もいませんでした。よって、市の計画案は撤回されるよう要望します。 先ずは、これまでの市の新図書館計画についての提案内容や説明方法等に少なからぬ不信感を持つ意見が多数ありました。市民協働参画を軽視しているのではないかとと思われる手続きや、反対意見に耳を傾けないと思われる姿勢がそれであります。 次に、駅前活性化や利便性、効率性を立地選定の理由とすることに違和感を持つ意見です。教育・文化施設特に市民の知の財産である市立図書館の建設場所をそのような理由で選定することに対して、そもそも花巻のまちづくり百年の計の観点から意見集約すべきではないのかという指摘です。 以上	市民の中にはいろいろなご意見をお持ちの方がいらっしゃることは認識しております。主な質問への回答 2【市民会議について】のとおりで、建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであります。 活性化についても、「図書館を中心として活性化できると思う。」「図書館が建つことで人が集まり活性化することを望んでいる。」「花巻がもっと住みやすい街であってほしい。もっと変わってほしいという願いがある。」「街のシンボルになってほしい。」などのご意見をいただいております。これらのご意見は市の将来を考えてのことと思い、ご指摘の百年の計の観点にも沿うものと思います。 市民会議では、自分と違う意見を聞くことが有意義だったとする意見も多く、「意見の変化があった」「自分にはない考え方で気づくこともあり、判断材料が増えた」「自身の意見に違いがあっても、全員が認め合う気持ちがあってよかった」など、参加者の皆さんが真剣に取り組んでいただいたと考えております。 その上で、さらに市民参画手続きについては、「花巻市市民参画・協働推進委員会」が認めた 3 つの方法で進めており、その一つであるパブリックコメントを実施したところです。 なお、駅前活性化については、主な質問への回答 4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、平成 29 年 8 月に定めた新花巻図書館整備基本構想において「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており、市民会議の皆さんが賑わいや活性化という観点を重視したことにつ

			いては、新花巻図書館整備基本構想に即していると考えております。ヒアリングシートにおいても、「図書館を中心として活性化できと思う。」「図書館が建つことで人が集まり活性化することを望んでいる。」「花巻がもっと住みやすい街であってほしい。もっと変わってほしいという願いがある。」「街のシンボルになってほしい。」などのご意見をいただいております。
46	7 建設場所	<「駅前立地」に至る経緯の記述について> ・「花巻市立地適正化計画」（平成２８年６月策定）によると、都市機能誘導区域内における事業として「生涯学園都市会館（まなび学園）周辺への『図書館（複合）』の移転・整備事業」が挙げられている。 ・一方、「新花巻図書館整備基本構想」（平成２９年８月）では「『都市機能誘導区域』に整備することとし…候補地を数箇所選定した上で、基本計画において場所を定める」としている。 以上の記述について、 ①わずか１年足らずの間に建設場所がまなび学園周辺から『数箇所』に拡大された理由は何か、②今回、対話型市民会議が「駅前立地」を決定する以前に市側は複数の建設候補地の中から、「駅前」を第１候補に挙げた経緯がある。事業主体である市側が当該地を立地の最有力候補地として、位置付けた理由は何か。 この２点について、市民が理解できるように「整備基本計画」の中に明記してほしい。	主な質問への回答１【これまでの経緯】のとおり、平成２８年６月に策定した「花巻市立地適正化計画」では「生涯学園都市会館（まなび学園）周辺への『図書館（複合）の移転・整備事業』」と記載しております。 総合花巻病院が現在地に移転した場合に、総合花巻病院跡地を利用する可能性もあることを考え、「生涯学園都市会館（まなび学園）周辺への『図書館（複合）の移転・整備事業』」と記載をしたことは事実です。上記のとおり、図書館の建設場所を考えた時に、現図書館は交通の便がよくなり利用者の年代割合に偏りがあるなど課題がみえ、これらの課題解決をするために検討を進め、駅前を候補地の一つとしたものであり、それらの検討をする上で、１年は短いものではないと考えます。 また、その時点で、花巻駅橋上化は決定しておらず、橋上化のために変更したものではありません。 主な質問への回答１【これまでの経緯】のとおり、令和４年度には、同試案検討会議において検討してきた図書館を建設する場所として、どの場所がいいか、６カ所の候補地について検討をしてきましたが、同試案検討会議においては最終的に花巻駅前のＪＲ用地がいいとする意見が多くなったところです。これにより、花巻駅前のＪＲ用地を候補地としたものです。
47	7 建設場所	新花巻図書館を「ＪＲ 花巻駅前」に選択！という発表は、もう議論の余地はないと言わんばかりの威圧的な市政の在り方を感じます。駅前に住宅付き図書館に対して市民の反対から始まり、何年にも渡る市民との話し合いや市民の訴えを踏まえた上での決論というには、あまりにも独断的だと思います。 これでは、本当に「駅前ありき」で、時間と税金を無駄に費やしたとしか言えません。駅前に造ることになれば、土地取得費やスポーツ店の解体費、さらに駐車料金の機械の取り替え等々の出費がかさむ事は必至です。すでに市の土地である花病跡地には少なくともその費用はかかりません。人口が減り、税収も減っているであろう今、より良い税金の使い方としては、花病跡地を選択するべきではないでしょうか。花巻の誇りである宮沢賢治が愛した自然や農業を今に受け継いでいるこの地にふさわしい図書館は駅前では実現できないと考えます。イーハトーブの象徴とすべき新図書館は、できれば木造で窓も開放できる、日差しがふりそそぐ広々としたスペース木陰でもくつろげる外庭など、老若男女がまた行きたいなと思える場所となるよう造って頂きたいです。	これまでの経緯は、主な質問への回答１【これまでの経緯】のとおりであり建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答２【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものです。 総合花巻病院跡地については、主な質問への回答６【総合花巻病院跡地について】のとおり無駄にはならないと考えており、この土地は立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。 図書館の建設場所は、長い目で見て非常に重要なことですから、市民との話し合いで現時点までかかってきたことについてはやむを得ないものと考えております。 宮沢賢治については、主な質問への回答７【宮沢賢治について】のとおり、双方の候補地ともゆかりがあると認識しております。 施設の木造については、主な質問への回答１３【木造について】のとおり、通常の木造建築は耐火建築物となりませんので、貴重な書籍などを保存する機能のある図書館として通常の木造建築は適当でないと考えますが、新花巻図書館についても、耐火の観点から問題のない範囲においてとはなりますが、コストの点で受け入れ可能な範囲で市内で伐採される木材を利用して、できるだけ内装の木質化を検討したいと考えています。 病院跡地の緑については、主な質問への回答８【病院跡地の緑について】のとおり木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。総合花巻病院跡地においても図書館を２階建てとすることを前提として芝生広場を設置し、樹木を植栽することは可能と考えますが、城跡の堀部分や北側は急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されているため、堀より下側の平地も含めて外庭などを設置する自由度はありません。 駅前のＪＲ所有地においても図書館を２階建てまたは３階建てとすることにより総合花巻病院跡地に図書館を２階建て整備する場合と同様の床面積を確保することができます。また、市は駅前のＪＲ所有地に２階建てまたは３階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところです。しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を３階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内に子どもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。
48	7	いつも花巻市の発展にご尽力いただき誠にありがとうございます。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、 主な質問への回答２【市民会議について】 のとおり市民間で対

	建設場所	この度、新図書館の設置計画につきまして慎重な検討をお願いしたく、意見書を提出させていただきます。 私は若い頃図書館司書の資格を取得し司書としてつとめた経験もございます。宮沢賢治、高村光太郎に縁のある花巻に居住できとても有難い想いもございます。報道等で新図書館の設置場所に関する計画を拝見し、地域の将来を憂慮し、反対の意見を表明させていただきます。 どうか今一度、花巻駅に土地を購入して設置する計画を再検討いただき、病院跡地での設置方向での計画に見直していただきたい。強く要望いたします。	話をして意見集約を図るということを考えたものです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。
49	7 建設場所	いつも花巻市のために尽力ありがとうございます。 さて早速ですが、この度の新図書館の計画に関し、駅前に土地購入で計画されているとのことですが、財政きびしい中でその費用は目的とする図書館の充実にあて、土地は市有地等の活用を行って、日本に他にない図書館としていただきたく再考お願いいたします。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものです。 総合花巻病院跡地については、主な質問への回答 6【総合花巻病院跡地について】のとおり、令和 6 年 3 月に市が約 3 億 2 千万円で購入し市有地とした土地であります。この土地は立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。
50	7 建設場所	ヒアリングシート集計結果について：重要視された項目に対する種々の意見はあまり決定的でない気がする。もっと確実性のある理由付けが欲しい。ただ単にアクセス、活性化、周辺環境などの意見は多かったほうにというだけでなく明確な理由付けを明らかにしてほしい。 基本方針に沿って計画されるものと思いますのでサービス内容などの充実はいくらでも修正しながら充実できると思いますが、建設場所については出来上がってしまってから変更はできないのですから、もっともっと練り上げる必要があると思います。この問題が起きてからなんか資料が出てくるたびに駅前への誘導がなされていると感じるのは私だけでしょうか。焦らずに未来に禍根を残さないような予算の使い方をしてより良い図書館の建設をしてほしい。私はヒアリングシートにあったアクセス・周辺環境・駐車場は病院跡地がいいと思っています。交通手段が車社会に重点が置かれ公共交通特にもバスの運行減少により駅前がアクセスがいいとは思えません。活性化はこれからどのように開発するかによって決められるでしょう。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであります。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 また、駅前への誘導がなされているようなことはありません。 いろいろのご意見をお持ちの方があります。アクセス・周辺環境・駐車場は病院跡地がいいと思うなどのご意見については、ご意見として承ります。
51	7 建設場所	『『基本計画』は『基本構想』(平成 29 年)に基づき具体的に示すもの～』であり、「その方針をそのまま生かします。」と述べています。 しかし、今回発表された『基本計画』の「建設場所」についての中でその基本方針に①利用しやすい場所②交通アクセスが良くてわかりやすい③市全域から行きやすい④十分な駐車場が確保できるの 4 点を挙げていますが、『基本構想』(平成 29 年)の中で 3 つの柱の 1 つとして掲げている「自然や周辺に調和した明るくゆったりとしたスペース～」という緑豊かな花巻ならではの自然環境を含むゆとりある空間の項目が入っていません。 駅前選定の理由として 4 点を挙げたのかも知れませんが、いずれにしても『基本構想』の精神をないがしろにしていることに間違いありません。 街中の大きなビルや商店街、JR の線路に挟まれた自然が全くない狭い空間に縮こまったように建つ図書館が次の時代を担う子ども達の豊かな心を育むことができるのでしょうか。 『基本構想』からも大きく逸脱している市の案は納得できません。 病院跡地こそ『基本構想』の精神にふさわしいと思います。	自然やゆとりある空間については、主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり、病院跡地について、木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要とする意見の方が一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。総合花巻病院跡地においても図書館を 2 階建てとすることを前提として芝生広場を設置し、樹木を植栽することは可能と考えますが、城跡の堀部分や北側は急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されているため、堀より下側の平地も含めて外庭などを設置する自由度はありません。 駅前の JR 所有地においても図書館を 2 階建てまたは 3 階建てとすることにより総合花巻病院跡地に図書館を 2 階建て整備する場合と同様の床面積を確保することができます。また、市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところです。しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内に子どもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 主な質問への回答 4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、賑わいや活性化という観点など、平成 29 年 8 月に定めた新花巻図書館整備基本構想において「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており、市民会議の皆さんが賑わいや活性化という観点を重視したことについては、新花巻図書館整備基本構想に即していると考えております。 建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対

			話をして意見集約を図るということを考えたものであり、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。
52	7 建設場所	意見 新図書館の基本方針で、すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館とあります。自然や周辺に調和した明るくゆったりとしたスペースとして読書はもちろんのことくつろぎの場でもあり、交流の場となる施設としますとあります。自然が豊かな場所であれば、病院跡地の方を強く希望します。 駅はアクセスが良いとありますが、今はバスが通っている地域が少なく、図書館を利用する人は車の方が多いかと思います。安心して止めれる場の方を望みます。 駅の駐車場は、電車を利用する人が利用してますしなはんやグランシェールでイベントがある時は満車になることもあります。駅の駐車場を増加するとありますが間隔が狭く感じます。安心して止めれる駐車場を希望します。 子どもたちにも夢のある場であって欲しいと思います。 今の子たちはゲームやまんがを好み本離れしています。 オガールには図書館の前に広場があり、いこいの場となってます。矢巾には、遊ぶ場も設置されています。 そのような場であれば、子どもたちも喜んで図書館に行こうと思います。駅には自然がないという意見から芝生広場をつくるとありますが、なはんでイベントがある時、物を搬送する場でもあり、イベントではキッチンカーが入る場でもあります。無理に設置しなくても良いのではないかと思います。 子どもは騒いでも良い場を造ると説明がありましたが、本を借りる場は静かにする場所ということは小さいうちから知らせていくことも必要かと思います。多目的広場で本を読んだり遊んだりする場であれば、声を出しても良いかと思いますが…。 以前市民説明会の時、病院跡地に図書館を建てる場所は安全な場所に建てるのですよねという質問に対してちゃんと調査して建てる場所は安全な場所に建設しますと市は答えてました。これから説明する時は、今話したことを市民にも市民会議でもちゃんと伝えて下さいと意見を話した方に市はわかりましたと答えてたのにもかかわらず市民会議の資料にも病院跡地の周りを赤く示し、危険地帯であると説明してました。市民会議に参加した人はそんな危険な場所に建てるのはと思ったかと思います。	自然やゆとりある空間については、主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり、病院跡地について、木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要とする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。総合花巻病院跡地においても図書館を 2 階建てとすることを前提として芝生広場を設置し、樹木を植栽することは可能と考えますが、城跡の堀部分や北側は急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されているため、堀より下側の平地も含めて外庭などを設置する自由度はありません。 駅前の JR 所有地においても図書館を 2 階建てまたは 3 階建てとすることにより総合花巻病院跡地に図書館を 2 階建て整備する場合と同様の床面積を確保することができます。また、市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところです。しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内に子どもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 駐車場については、主な質問への回答 9【駐車場について】のとおり危惧される方も多かったことから、「花巻駅前」では利用しやすい駐車場の確保に努めたいと考えております。 現在ある駅前の駐車場については現在のまなび学園駐車場と同じ間隔であり、狭いというご意見はいただいております。しかし、そのようなご意見がある場合には、現時点で高齢者等が優先的に利用できる図書館建物に隣接した 38 台の平面駐車場を検討しておりますが、台数を減らし間隔を広く取ることを検討します。 なお、当初市としては、駅前の駐車場については立体駐車場を検討してきましたが、高齢者の方などから立体駐車場は使いづらいというご意見があったことも踏まえ、立体駐車場の考えは取りやめ、全て平面での整備を検討しているところです。 たくさん子ども達にも来てもらえるように、子ども向け書架スペースを大きくする計画です。読み聞かせやイベントも開催できるようなスペースも考えています。 駅前は、芝生広場の設置を検討しています。しかしながら、現在の多目的広場を芝生広場にすることについてイベント等の開催に支障がある、キッチンカーの進入や、花巻まつりでの山車展示の継続などの意見もあるので、さらに市民の意見を聞きながら検討します。 なお、芝生広場で読書をしたい等のご意見がある場合、仮に 1 階に芝生広場をつくれなくても、建物のまわりに可動式のガーデンパラソルやテーブルなどを配置して親子で読書できるようにすることなどを考えています。 また、基本計画案に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」(P36) の設置を記載するなど、建物の中でも子どもたちや親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館を目指しています。 子どものころから図書館に来てもらうことは大切であり、従来のような声や音を出すことや、乳幼児を連れていくことがはばかられるような図書館ではなく、小さな子どもの親も遠慮せずに図書館に来てもらえるような施設を目指しています。もちろん静かに読書や閲覧をしたいという人たちのためにも、防音をした部屋を設けたいと考えており、オガールの図書館をはじめ、近年建設されている図書館は同様の配慮がされています。 総合花巻病院跡地に建設する場合の建物の配置は、急傾斜地崩壊危険区域及び土砂災害警戒区域に入らないように配置したことについては、市民会議においても「図書館の建物を整備することが想定されている北側の平坦地及び駐車場の整備が想定されている新たに土盛りされた南側は、「土砂災害特別警戒区域」、「土砂災害警戒区域」、「急傾斜地区域」、「誘発助長区域」及び「災害危険区域」には該当しないところであり、コンサルタントはそのことを踏まえて、図書館整備地及び駐車場整備地に想定したものである」と説明をしています。

		市民会議の時、傍聴席に参加しました。何も話す手も叩くなど言われました。私も市民の 1 人なのにどうして差別をつけるのか、そんなやり方に大きな疑問を感じました。 市民会議では、否定もしない、断定もしない、答えは 1 つと思わないというのが対話の心得とありました。 なのに何故建てるのなら、どちらがいいのか書かせたのか大きな疑問を感じました。4 回目の話し合いの前に市民会議に参加してた人から質問があり、私たちの意見が建設地決定に影響するのかという質問に対して山口覚教授も市側も市民会議でのことは、建設場所を決定することはないと答えてたのに、市民会議の意見を踏まえて駅の方に決定するとしたことに大きな疑問を感じます。 答えは 1 つと思わないということから、どちらでもよいという意見が多かったと思う、又活性化、アクセスは駅の方が多かったのですが、土地、駐車場、費用の方は、病院跡地の方が多かったのに市は、何故駅と判断したのか疑問を感じます。 署名を市民の意見として市側は考えないのは何故か大きな疑問を感じます。新図書館は、花巻独自の花巻らしい図書館を希望します。花が沢山咲き静かで、ゆったりとした場所に建てることを強く希望します。	市議会に見られるように会議の円滑な進行をはかるために傍聴者の方に発言を控えていただいたり、拍手を遠慮いただいたりすることはごく一般的なことと思います。市民会議の傍聴者から、市民会議参加者のグループワークに参加したり発言を希望されたりする方がありましたが、市民会議参加者が自分の考えを自由に述べあえることが必要であり、安心して対話ができるように市民会議参加者以外は中に入れないことにしたものです。なお、市民説明会においては、違う意見を「発言しにくい雰囲気があった」とのご意見もありましたので、そのようなことも配慮したものです。実際、市民会議参加者からは、安心して意見を述べることができた、との意見が多かったところです。 ファシリテーションの場では、お互いの考えを尊重し理解を深めるため、否定や断定をしないということが一般的に言われております。ファシリテーターはそのことを申し上げたものである思います。そのような対話を通じて図書館の建設候補地について参加者にどちらがいいか考えていただき、最終的に到達した個人の意見をヒアリングシートにそれぞれ記載いただいたものであり、それは他人の発言を否定したり、断定したりすることとは異なると思います。 市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 答えは一つと思わない、ということは、対話における心得のことであり、違う意見も尊重することをお話したものです。その上で、最後に参加者の考えを書いていただいたヒアリングシートでは、どちらでもいいとする意見が多かったところですが、それについて、自由記述欄を見ると消極的な意味ではなく、対話を重ねた上で導き出されたもので「どちらに建設してもいい図書館になる」という積極的な意見であるにとらえております。なお、ヒアリングシートの内容はホームページで公開しています。 https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/1014033/1022321.html ※花巻市ホームページ「新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議」 署名については貴重なご意見にとらえており、主な質問への回答 5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込んでおります。
53	7 建設場所	4 月 29 日「新図書館を語ろうシンポジウム」10 時~12 時(まなび学園)で開催。市民参加者 65 人。参加者の意見をまとめました。 1.市民会議の結果を受けて建設地を駅前に選定した件について。 ①「建設地はどちらでもいい」の意見が多かったが、10 の項目のうち 5 項目だけ取り出して駅前に決めたことに納得できない。改めて 10 項目全体を見直すべきではないか。 ②わずかな数の差で建設機を決めた事は、“数が欲しかった”当局の「手抜き」ではないか。市民会議は「市民の意見を聞いた」ポーズだけに思える。 ③「どのような理念で駅前に決めたのか」の説明がない。決めた人が説明する必要が	1. ①市民会議におけるヒアリングシートについては、主な質問への回答 4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、10 の「視点・分類」全体で見た場合においても、重要視された 5 分類の「視点・分類」については上位 2 分類の活性化及びアクセスについては「明らかに駅前」、それに次ぐ 2 分類の周辺環境及び安全については「どちらかといえば駅前」、駐車場及び土地については「どちらかといえば病院側」、それ以外の「視点・分類」の分類の、費用、他施設との連携、文化・歴史、防災については「どちらでもよい」を選んだ人が最も多かったところであります。 なお、「どちらでもいい」とする意見は、自由記述欄を見ると消極的な意味ではなく、対話を重ねた上で導き出されたもので「どちらに建設してもいい図書館になる」という積極的な意見であるにとらえております。 ②建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということ考えたものです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 また、市は市議会において、建設場所を決定するのは市であることを前提として、「市が判断するにあたって、そのような意見集約された結果を非常に重く尊重し、それを判断の大きな材料にしたいと考えております。」と答弁しており、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 ③どのようにして決めたかは、上記のとおりですが、市民会議の皆さんの「アクセス」や「活性化」の観点を重視すべきとの観点は、

	ある。 ④未来に禍根を残さないよう、決定の方法(どのように決定したか)を示してほしい。 ⑤わずか 65 人の意見や AI で決定するのは民主主義の冒涇(ぼうとく)だ。 ⑥市の人材ではなく、なぜ、外部の教授に運営を託したのか疑問なので説明がほしい 2.「どういう図書館をつくるか」を決めてから、建設地が決まるのではないか。 3.基本計画案における教育委員会の考えが見えない。教育委員会の考えが聞きたい。 4.文科省によれば、「図書館は生涯学習・社会教育を支援する場」となっている。 花巻市図書館運営方針では、「生涯学習推進」「(子供)読書活動推進」に重点を置いている。生涯学園都市会館(まなび学園)が隣接し、アクセスが良い駅前の子供にとっては危険なので、病院跡地が建設地に相応しいと考える。 5.駅前イベント文化が根付きはじめている。なはんプラザでコンサートなどがある とき駐車場が狭く車が置けない時がある。そのエリアに図書館をあえて入れ込む必要があるのか。 6.自然があり、静かでゆったりした施設で本を読みたい。貨物列車が増えて行くなか、振動や音がうるさいところや、3 階建てで移動しなければならない施設では本を読みたくない。	市が定めた基本構想に示す「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」「市民をはじめとする利用者にとって、利用しやすい場所にあるべき」などに即していると考えます。 ④建設候補地決定の経緯については、これまで記載している通りです。 ⑤市民会議の意見を参考にして最終的に市が建設場所を決定したものです。 なお、AI が決定しているわけではありません。参加者の意見をまとめるために補助的に AI を活用してものであり、そのまとめた意見についても、市民会議の皆さんに見ていただいて、修正や加筆作業もしていただいたものです。 ⑥ファシリテーターを大学の先生にお願いしたのは、市職員が司会をした場合、職員が誘導していると誤解をする人があり、それを根拠に市が既に決めていることに誘導している等の指摘をされることがあったため、第三者的な方をお願いしたものです。市民会議の参加者からは「山口教授の流し方も参加者に非常に配慮されていて、あたたかな意見交流がされた。」「ワークショップのやり方がよかった。」「ファシリテーターの進行為素晴らしかった。」「中立で素晴らしいとおもいました。」などがヒアリングシートに書かれていました。なおヒアリングシートに書かれた内容については、市ホームページで公開しています。 https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/1014033/1022321.html ※花巻市ホームページ「新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議」 2.どういう図書館をつくるかは、基本構想に記載されており、その内容はそのまま基本計画に反映しています。基本計画の大部分については、図書館の中身のことであり、基本計画の試案を検討する会議には、総合花巻病院跡地に建設を希望する団体の代表者も含めた関係団体の代表や図書館司書、学校図書館関係者なども参加して協議をしてきたものです。 なお、例えば宮沢賢治については、市民から、宮沢賢治の出身地にふさわしい図書館としてほしいなどの意見が多いことから、今後出版される図書資料はもちろん、未所蔵で購入可能な資料は古本も含め積極的に収集し、地域（郷土）資料スペースにおいて配架する予定ですが、宮沢賢治専用のスペースを設けることも検討します。 また、イーハトーブ館と役割分担をし、現在イーハトーブ館が保有している専門的な研究資料や絶版等入手困難な資料等は、引き続きイーハトーブ館で保有することとし、図書館で閲覧または貸出できるようシステムの構築を検討します。 さらに宮沢賢治については、本市ゆかりの作家なども含めて図書企画展示やイベントを開催することを基本計画のサービスの基本と種類に記載することとします。 3.教育委員会には、基本計画試案や試案検討会議の状況、建設候補地の検討、市民説明会の開催状況、意見集約の実施など進展に応じて、教育委員会協議会へ報告し協議の上で進めております。なお、令和 7 年 3 月 21 日には、教育委員の皆さんの意見を聞き、教育委員の了承を経て基本計画（案）とし、令和 7 年 5 月 19 日に開催される教育委員会議の議決をいただいて、基本計画となります。 4.安全については、市民会議のうち、特に重要な項目とされたものであり、その上で、安全については駅前の方が安全との意見が多かったところであります。その理由として、例えば「駅前の方が明るく交番がある」「人通りが多い」などがヒアリングシートに記載されているところであり、そのような見方は合理性があるものと考えております。 5.駐車場については、現状より 98 台駐車台数が増加することから、図書館で 90 台以上使用している場合以外の多くの場合においては、むしろイベントで使える駐車場が増える効果があるものと考えております。 なお、病院跡地については、主な質問への回答 6【総合花巻病院跡地について】のとおり、今後、公共施設で使うことを検討していますが、すぐにそのような公共施設に使わない場合には、病院跡地を駐車場またはイベント会場として活用することについて検討の余地があると考えており、その場合には、まち全体での駐車場の数は増えると考えています。 6.自然がある、については、主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおりであり、木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方があ る一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。
--	--	---

		7.郷土の歴史を大切にすることが新花巻図書館のビジョンで独自性のはず。宮沢賢治が教鞭をとった稗貫農学校(病院跡地)が建設地に相応しい。駅前「シグナルとシグナレス」などは、賢治の図書館を建てるには説得力に欠ける。 ◎4 月の説明会では、説明が不十分です。「市民の意見集約を図る」方針なら、市民が納得できる説明が必要です。	振動や音については、主な質問への回答 11【騒音について】のとおりですが、近年建設される図書館はグループで話ができるエリアや、音楽を流しているような図書館もあります。一方で、防音室のような、まわりからの音を遮断した静かな部屋も設ける例も多く、新しい図書館でも同様の静かな部屋の設置を計画に記載しています。 7.宮沢賢治については、 主な質問への回答 7【宮沢賢治について】のとおり、双方の候補地ともゆかりがあると認識しております。 なお、市民会議でヒアリングシートに記載された意見では、「図書館を建てる場合には、文化歴史は重要視しなくてもいいのではないか」「どちらも宮沢賢治のゆかりの地」「賢治は観光の武器にはなと思うが、図書館に関しては特別意識せずともよいと思う」などの意見があったところであります。また、ソフト面において賢治ゆかりの図書館としてほしいということについては、場所が花巻病院跡地または駅前により異なるものではないと考えます。 4 月の市民説明会については、4 月 15 日大迫地域、4 月 16 日東和地域、4 月 17 日石鳥谷地域、4 月 19 日花巻地域の 4 か所で開催し、説明をしてきました。特に、花巻地域での説明会は 4 時間にもわたり、参加者の皆さんにもご負担をおかけしましたが、質問や意見をお持ちの皆さんからそれら全てをお聞きしてお答えしてきたところです。 なお、市民説明会のほかに、本基本計画の策定にあたって、外部委員を含む「花巻市市民参画・協働推進委員会」で認められた「パブリックコメントの実施」「花巻市立図書館協議会による審議」の市民参画を実施しています。
54	7 建設場所	市民会議のため県外から教授を迎え市民 3, 5 0 0 人に参加案内を送付し、そのうち参加を申し込んだ 7 5 人による市民と行政の対話（しかし実際、参加したのは 6 5 人）により、とりまとめそれを参考にし駅前を建設候補地に選定したとありました。花巻市の人口は 8 9, 1 8 5 人に対し、6 5 人の方の意見を参考にしたと言う事ですが、その少人数の意見で決めれる内容なのでしょうか？大きな負担をかけることになりはしませんか？私は署名活動で一軒一軒回対話しながら活動をしました。今までの経過を説明し、協力する方に判断して頂きました。 その反応は「図書館に相応しい旧花巻病院跡地の計画で進んでいたのに何故 別の場所、駅前を購入する必要があるのか？当初その為に市が病院跡地を購入し、病院を移転までさせたのではなかったのか？」多くの方がそういう声でした。 また「今回の流れは市民への説明が不十分だし、とにかく解りにくい」と言う声が多かったです 市では若者達の声を重視していますが、今まで色々な面で花巻市を支えてきた高齢者の存在をどうお考えなのでしょうか。これは花巻市に住む同じ住民としてお互いに配慮すべき精神です。高齢者の方々は本を読む事が楽しみにしています。本を愛し図書館を利用する人々の声に重点を置いてあげるべきだと考えます。 そして 驚いたのは駅前だと病院跡地に比べ芝生広場が狭いとの意見により、図書館を 3 階建てにしてスペースの確保を検討と有りましたが、そうなると当初の見積もりの金額も増えていく事が明かです。比較材料として作成したものが正しくないと再度作成し、提示する必要がでてきます。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということ考えたものであり、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 署名については貴重なご意見ととらえており、主な質問への回答 5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込んでおります。 「図書館に相応しい旧花巻病院跡地の計画で進んでいた」ものではありません。これまでの経緯は、主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおり、当初図書館を建設するとの考えはありましたが、図書館を建設するために病院跡地を購入する必要があると考えたものではありません。 これまで、基本計画の策定状況や建設候補地比較調査の結果、市民会議の開催とその結果、基本計画の概要など、広報はなまきやホームページに掲載してきており、主な質問への回答 16【これまでの市民説明会について】のとおり市民説明会も開催してきました。 市では若者の声だけを重視しているわけではありません。高齢者で本を読む事を楽しみにしている人が多くいることも認識しています。ただ読書が好きな人は高齢者だけではなく、若い世代や子どもたちにも読んでほしい、たくさんの市民に来てほしいという観点で考えたものです。いろいろな意見がある中、できるだけ多くの皆さんの考えを聞き、それを参考にして建設候補地を選定したものです。 2 か所ある建設候補地の事業費等を比較検討するため、令和 6 年に、コンサルタントに委託し「新花巻図書館建設候補地比較調査」を行いました。その調査では、図書館を 3 階にする場合についても事業費の検討をしております。市は病院跡地と駅前を比較するため同じ 2 階建て説明してきたところですが、駅前については特に駅前地区の方々から 3 階建てとすべきとの意見も多く出ていますことから 3 階建ての可能性も検討したいと考えております。 「新花巻図書館建設候補地比較調査」において、基礎工事を除く図書館本体の整備費用は、他自治体の図書館の工事実績から、階数や構造別に平均単価を求め、さらに物価変動分を補正した上で、新花巻図書館の計画規模 4,500 m²を乗じて算出しておりますが、2 階建てと 3 階建てとした場合の平均的な単価の導出においてコンサルタントでは、「3 階建てのほうがやや高くなる結果を得たが、実際の平面プランや導入設備によって変動するため、現段階でその費用差を想定することは難しい」とのことから、同額としております。 その上で、基礎工事については、2 階建てを 3 階建てとした場合に面積当たりの重量が増えるため、基礎 1 か所当たりの工事費用は増額となる可能性があります。一方で、基礎箇所数が減少することから基礎工事費は、3 階建ての方が安価になると現時点では想定しております。

		新花巻図書館を旧花巻病院跡地か？それとも花巻駅前に建設か？に対して市長は「この種の選択は多数決の論理はなじまない」と発言された様ですが、納得して貰える様に説明をして、決めるのは市側だと仰るのでしょうか？ もし納得するまで説明責任を果たすとするならば、まだまだ丁寧な説明の時間が必要です。 最後に今回募集した意見書は全て公表をお願いします	また、3 階建ての場合は、駅前多目的広場にある既存融雪設備への影響を最小限に抑えることができるため、融雪設備の改修費用は、2 階建ての場合と比較し、約 6 千万円程度の削減ができると考えられています。 以上のことを踏まえ、図書館本体の階数の違いによる建築費への影響については、今後の設計のなかで、具体的に検討して参りたいと考えております。 市議会における多数決についての発言については、過去に住民投票をすべきとの質問があった際に、多数決でどちらかに決めればいいという状況ではない。若い人や高齢者も、声をだしてもらって意見交換をしたい旨をお話したものです。 これまでの検討経過については、広報はなまきや市ホームページで公開しておりますし、市民説明会については、4 月 15 日大迫地域、4 月 16 日東和地域、4 月 17 日石鳥谷地域、4 月 19 日花巻地域の 4 か所で開催し、説明をしてきました。特に、花巻地域での説明会は 4 時間にもわたり、参加者の皆さんにもご負担をおかけしましたが、質問や意見をお持ちの皆さんからそれら全てをお聞きしてお答えしてきたところです。 建設候補地については、それぞれご意見があると思いますが、これまで議論を重ねてまいりましたので、判断する時期に来ていると考えているところです。 なお、今回のパブリックコメントでいただいた意見はすべて公表しております。
55	7 建設場所	R7.4.19 まなび学園での市民説明会に初めて参加し、駅前への建設選定に対するの反対や疑問視するたくさんの市民の声を聞きました。私も駅前への建設は費用面、利便性等様々な観点から見ても適切ではないと考えます。 ①場所の選定にあたって、市側の対応が二転三転している事も市民は納得できない原因です。”多数決では選べない”と市長は話していたにも関わらず、今回の決定は市民会議 65 名の話し合いで駅前の評価が多かった為、市が駅前に決めたというのは、矛盾してはいないでしょうか？ ②駅前の場合、スポーツ用品店の移転費、駐車券機の導入・維持管理、防音対策、土地購入など市民の大事な税金を余分に投入することについても納得ができません。 ③電車利用者が図書館利用後、無料で長時間にわたり駐車場を利用する事例が散見された場合、本来図書館を利用したい人が遠い場所に止めざるをえなかったり、余程の場合は満車となり止めれないなどの支障もゼロではないと考えます。その利用者の区分はどのようにされる予定でしょうか？	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということ考えたものであり、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 これまでの経緯は、主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおりであり、二転三転しているものではありません。 市議会における多数決についての発言については、過去に住民投票をすべきとの質問があった際に、多数決でどちらかに決めればいいという状況ではない。若い人や高齢者も、声をだしてもらって意見交換をしたい旨をお話したものであり、矛盾しているものではありません。 概算事業費については、主な質問への回答 10【事業費について】のとおりです。図書館整備に要する概算事業費について、比較調査では総合花巻病院跡地の場合は約 36.3 億円、JR 花巻駅前については約 39.9 億円となっておりますが、国庫補助金や合併特例債を活用することを想定しております。その結果、建設時における財源としては、総合花巻病院跡地に建設する場合には、国の補助金最大 15 億円、合併特例債 20.2 億円、市の一般財源 1.1 億円の合計約 36.3 億円、JR 花巻駅前に建設する場合には国の補助金最大 15 億円、合併特例債 23.6 億円、一般財源 1.3 億円合計約 39.9 億円を想定しているところであります。 設計及び工事の時点で市がその一般財源から拠出する金額は総合花巻病院跡地に約 1.1 億円、JR 花巻駅前に建設する場合には土地購入代金を含めて 1.3 億円に留まります。残りは国の補助金及び市債である合併特例債を発行し資金を調達することになります。 合併特例債の返済期間は建物の償却期間などを勘案し決めることとなりますが、花巻市が今まで発行した合併特例債の多くの場合は市債発行から 3 年据え置き、その後 12 年間の返済期間とすることが多く、新花巻図書館建設についても同様となると見込まれます。 合併特例債の返済元本・金利の 70%は国からの交付税措置が受けられます。従って、市が市の財源で負担するのは設計及び建設時に一般財源から拠出する金額と合併特例債の元本・金利の合計額の 30%にとどまりますので国から補助金が制度上最大となる 15 億円になった場合、市が市の財源で負担する金額は、総合花巻病院跡地の場合は 7.2 億円、JR 花巻駅前の場合は、8.4 億円となります。 なお、総合花巻病院跡地の場合には当該土地購入代金約 3.2 億円を上記概算事業費に算入しておりませんが、総合花巻病院跡地を新図書館建設地として選択した場合、前述の通り、市の土地資産約 3.2 億円を新図書館建設事業に投じることとなることから土地購入代金 3.2 億円を概算事業費に算入することが比較の観点からは妥当と考えます。 土地購入代金を概算事業費に算入すると両者の差はほとんどなくなります。 なお、議会等でも再三申し上げているところですが、市はスポーツ用品店の移転費を負担するということは想定していないところです。 駐車場利用料は図書館利用者は無料としますが、それ以外の人は現在と同様に有料と考えております。図書館建物隣接地には高齢者や障がい者・子ども連れの方のために図書館専用の駐車場を設置する計画です。駐車場の配置計画等は具体的な設計段階で検討していきます。

		④さらには、駅前場合は3階建ても検討されているとのことについて、比較のための見積もりは2階建ての想定だったかと思います。3階建てにしたら何の為に見積もりを作成したか、意味が理解できません。 材料費・建設費等も高くなっている現状で、そのような多額の投資はこの先の少子化なども含めて、きちんとシミュレーションできているのでしょうか？市民の負担が大きくなりませんか？ ⑤全市民または純粋な図書館利用者へアンケートを実施し、立地場所も再度募集する事、あるいは国からの補助金に頼らない花巻らしい魅力ある図書館の建設を再度一から検討して欲しいです。私は緑豊かで賢治にもゆかりのあるぎんどう公園の側が良いと以前から思っています。文化会館の南側の広い駐車場へ新たな図書館を建て、図書館および文化会館用の駐車場を整備し、どちらにとっても良い形で建設する事もできなかったのでしょうか。”今の若葉町の場所でいい”という人の声も少なからず聞こえてきます。 ⑥また高齢者の方や障害のある方のご意見にもあった”自由に遠出ができない人にとっては図書館は日々の生活の一部であり楽しみ生きがいとなっていること”その意見を一番に尊重するべきだと考えます。静かな中ゆったりと時間を過ごし、本から知恵を貰い、時には心を癒やして貰おう、それが図書館の本来の目的ではないでしょうか。ティーンズがおしゃべりの為に集う場、観光客の為である事が図書館の在り方なののでしょうか？今一度図書館の在り方を確認して頂きたいと思います。活性化の前に、図書館を愛し新図書館を心から楽しみにしている、その市民の為の図書館であって欲しいというのが私の願いです。 ⑦宮沢賢治のイーハトーブは、”自然を大事にすること””すべての命を尊び敬うこと”を目指していたと思います。人工芝でつくられた緑ではそれを感じることはできません。駅前という立地は適さないのではないのでしょうか？花巻市の中央公園も人が利用している姿はほとんど見られない状態です。同じ事にならないのでしょうか？いずれも市民の大切な税金が使われているのですよね。残念でなりません。 市民説明会だけでは、時間がおしてしまい皆さん意見を出しきれなかったと思います。もっと、納得いく形で順序立てて丁寧なすすめ方でやるべきだと思います。これらを踏まえ、今一度、新図書館建設について見直しされることをお願い申し上げます。	図書館を3階建てにした場合については、令和6年に実施した建設候補地比較調査において、3階案についてすでに検討をしているため無駄にはなりません。市としては、病院跡地と比較するため同じ2階建てとしたが、駅前地区の方々から多目的広場をそのまま使いたい、そのため図書館は3建てとすべしとの意見も多くいただいていることも踏まえ3階建てにすることも検討の余地があると考えているところです。多額の投資となることは、駅前であっても病院跡地であっても変わりはありません。 市民会議については必要な情報を共有し、理解いただいた上で考えていただく必要があったものであり、主な質問への回答15【アンケートについて】のとおりアンケートはそのような情報を理解していただいた上で実施することは困難です。なお、今回提示した情報はホームページでも公開しておりますので、ご覧ください。 https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/1014033/1022321.html ※花巻市ホームページ「新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議」 現在の花巻図書館の場所は花巻農学校があった場所で緑も多く非常にいい場所だと思います。しかしながら公共交通機関が少ないため、自動車での利用者や近隣の人に利用が限られているのが現状です。 市全体の財政を考えた場合、令和6年度の決算見込では630億のうち市税は約115億にとどまります。そのような状況で市の事業の多くは国からの交付金や補助金で賄われており、仮に補助金に頼らず図書館の建設費を市税のみで賄った場合は、市民のための他の事業が実施できなくなります。図書館のような大規模な施設の建設には国の補助が不可欠であり、現在の花巻図書館の場所では立地適正化に関連する国の補助金を受けることができません。多くの市民が利用しやすい場所が求められ、また国の補助も考慮してこれまで図書館の建設候補地を検討してきたところです。 新しい図書館は、第一に市民のための施設です。若い人達に限らず、少しおしゃべりをしたい人たちもいる。静かに本を読みたい人たちもいる。そのような皆さんの需要にこたえることができるような、オープン的な部屋や防音に配慮した部屋などを設置することについては前述のとおりであり、たくさんの市民がそれぞれの目的で利用できる図書館を目指すものです。今まで利用していなかった方にも利用していただきたいと考えております。 宮沢賢治に関しては、主な質問への回答7【宮沢賢治について】のとおりですが、いろいろな考えや意見をお持ちの方がいると思います。それこそが宮沢賢治の多様性であり魅力だと思いますので、基本計画に基づき宮沢賢治出身地の図書館にふさわしい図書館となるよう事業を進めて行きたいと考えております。 市民説明会については、4月15日大迫地域、4月16日東和地域、4月17日石鳥谷地域、4月19日花巻地域の4か所で開催し、説明をしてきました。特に、花巻地域での説明会は4時間にもわたり、参加者の皆さんにもご負担をおかけしましたが、質問や意見をお持ちの皆さんからそれら全てをお聞きしてお答えしてきたところです。 なお、市民説明会のほかに、本基本計画の策定にあたって、外部委員を含む「花巻市市民参画・協働推進委員会」で認められた「パブリックコメントの実施」「花巻市立図書館協議会による審議」の市民参画を実施しています。 宮沢賢治については、主な質問への回答7【宮沢賢治について】のとおり、双方の候補地ともゆかりがあると認識しております。市民会議でも、参加者から候補地双方とも賢治にゆかりがあるのではないかと意見があり、双方の「賢治のゆかりの地」について、市民会議参加者に資料を配布したところです。 市民会議でヒアリングシートに記載された意見では、「図書館を建てる場合には、文化歴史は重要視しなくてもいいのではないか」「どちらも宮沢賢治のゆかりの地」「賢治は観光の武器にはなと思うが、図書館に関しては特別意識せずともよいと思う」などの
56	7 建設場所	<ゆかりの地について> 「花巻は賢治のまちであるから、賢治にゆかりのある場所に建設するべきという強い意見をお持ちの方々もいらっしゃいます。でもそれについては、市民会議の中でも図書館の場所と宮沢賢治ゆかりの場所であることは必ずしも結びつかないんじゃないかという意見の方もたくさんいらっしゃいました」（3月27日開催の定例記者会	

		での上田東一市長の発言) 「花巻駅前も賢治作品『シグナルとシグナレス』の舞台であり、『銀河鉄道の夜』のモチーフとなった岩手軽便鉄道や花巻電鉄の駅があった場所で賢治ゆかりの地でもあります」(3月28日開催の議員説明会での菅野圭生涯学習部長の発言) 「日ハ君臨シ カガヤキハ／白金ノアメ ソソギタリ／ワレラハ黒キ ツチニ俯シ／マコトノクサノ タネマケリ…」(花巻農学校「精神歌」)一。賢治は1921(大正10)年12月、花巻農学校(旧稗貫農学校)の教師となり、校歌を持たなかった生徒のためにこの歌を作詞した。まるで一編の詩編のような校歌は次第に市民の口の端にも上るようになり、いまでは“市民歌”として毎朝夕の7時、市役所屋上のスピーカーから市内全域に流されている。 “桑っこ大学”と揶揄(やゆ)されたその作詞の舞台こそがもうひとつの立地候補地の「旧花巻病院跡地」だった。真の意味での「ゆかりの地」とはこういう場所を指すのではないのか。上記の二人によると、あらゆる山野を渉猟(しょうりょう)した賢治にとってはその足跡の一つひとつが「ゆかりの地」ということになる。“こじつけ”もいいところである。「駅前立地」へ誘導するための姑息(こそく)な“底意”が透けて見えてくる。 「牽強付会」((けんきょうふかい)とは一。市側も対話型「市民会議」の意見集約の際に利用したという「AI」(人工知能=Copilot)に聞いてみた。「自分に都合がいいように、減茶苦茶な理屈をこじつけることです」という答えが返ってきた。ピッタリではないか。「整備基本計画」では駅前立地に至る経緯について、誤解を与えないよう丁寧に説明してほしい。	意見があったところであります。いずれ新花巻図書館は賢治のふるさとに相応しい内容をもつ図書館にしたいと考えておりますが、そのことは総合花巻病院跡地または駅前のいずれが建設場所となった場合も異なるものではありません。
57	7 建設場所	計画案に対する私の意見を以下に述べます。 1 どのような理念で新図書館を駅前に決めたのか、市当局の説明がありません。 市民会議の結果を踏まえて決めたと述べていますが、どういう理念を実現するために駅前に決めたのか、市当局自身の見解がありません。これは最も大切な「建設の理念」が明確でない所にその原因があると思います。 市当局は2017年に決定された「基本構想の理念」に立ち返って考え直すべきだと思います。そこでは「新図書館は賢治ら先人が育んできた学びの精神を子どもらに継承する施設」を目指すと言われています。基本計画では、この最も大切な理念を軽視しています。 子どもたちに本の面白さを発見させ、学びの精神を育てるには、図書館そのものが子どもらにとって魅力ある施設でなければなりません。周囲の環境、施設のデザイン、広場や遊具なども重要ではないでしょうか。駅前には緑もなく、狭く、この理念を実現するには最悪だと思います。 2 「納税者の立場」を尊重した税執行の姿勢が見られません。 花巻病院跡地は昨年3億2千万円を支払い市有地となりました。これほどの血税を投入した土地を図書館として有効活用しないのは一体なぜなのか。 さらにコンサルタントの事業費予測によれば、駅前では土地購入費やスポーツ店撤去、駐車場や広場造成等、3億3千万円程余計にかかります。これは市民一世帯当たり8,500円もの負担になります。駅前の土地購入は税金の無駄遣いだ多くの市民は感じているのではないのでしょうか。	1 どのような図書館をつくるかは、平成29年8月に定めた「新花巻図書館整備基本構想」に基本方針として記載されており、その内容はそのまま基本計画(案)に反映しています。 また、同基本構想には、建設場所に関する方針として、「図書館は、市民をはじめとする利用者にとって、利用しやすい場所にあるべきです。交通アクセスが良くわかりやすく、市全域から行きやすい場所で、十分な駐車場も確保できる場所が望ましいと考えます。また、図書館は市街地再生に資する施設としてまちづくりや都市計画とも整合したものとする必要があります。」とお示ししています。 なお、駅前の多目的広場に芝生広場を設置し、自由にくつろげるスペースも検討していますが、様々な用途に使用できるよう芝生広場の設置を反対する意見もありますのでこの点については設計段階でさらに検討します。いずれにせよ、設計段階で子育て世代等、市民の意見を伺う機会を設け、子どもたちが来たくするような施設を目指します。 2 総合花巻病院跡地については、主な質問への回答6【総合花巻病院について】のとおり、令和6年3月に市が約3億2千万円で購入し市有地とした土地であります。この土地は立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。 なお、主な質問への回答10【事業費について】のとおり、概算事業費について、比較調査では総合花巻病院跡地の場合は約36.3億円、JR花巻駅前については約39.9億円となっておりますが、国庫補助金や合併特例債を活用することを想定しております。その結果、建設時における財源としては、総合花巻病院跡地に建設する場合には、国の補助金最大15億円、合併特例債20.2億円、市の一般財源1.1億円の合計約36.3億円、JR花巻駅前に建設する場合には国の補助金最大15億円、合併特例債23.6億円、一般財源1.3億円合計約39.9億円を想定しているところであります。 設計及び工事の時点で市がその一般財源から拠出する金額は総合花巻病院跡地に約1.1億円、JR花巻駅前に建設する場合には土地購入代金を含めて1.3億円に留まります。残りは国の補助金及び市債である合併特例債を発行し資金を調達することになります。

		3 「賢治の里の図書館」だという意識が欠けています。 せっかく 50 年ぶりに建て替えるのだから、花巻にしかないような図書館を建設して欲しい。多くの市民はそう願っているのではないのでしょうか。 花巻にしかないもの、それはやはり「賢治の里」だと思います。賢治は花巻の誇りであり、彼の作品や生き方に共感して全国から賢治を訪ねて来る若者もたくさんいます。 花巻病院跡地は賢治が初めて勤めた農学校のあったゆかりの地であり、賢治の思想形成に関わった場所でもあります。「交通の利便性」だけでこの遺産を切り捨てていいのでしょうか。	合併特例債の返済期間は建物の償却期間などを勘案し決めることとなりますが、花巻市が今まで発行した合併特例債の多くの場合は市債発行から 3 年据え置き、その後 12 年間の返済期間とすることが多く、新花巻図書館建設についても同様となると見込まれます。 合併特例債の返済元本・金利の 70%は国からの交付税措置が受けられます。従って、市が市の財源で負担するのは設計及び建設時に一般財源から拠出する金額と合併特例債の元本・金利の合計額の 30%にとどまりますので国から補助金が制度上最大となる 15 億円になった場合、市が市の財源で負担する金額は、総合花巻病院跡地の場合は 7.2 億円、JR 花巻駅前の場合は、8.4 億円となります。 なお、総合花巻病院跡地の場合には当該土地購入代金約 3.2 億円を上記概算事業費に算入しておりませんが、総合花巻病院跡地を新図書館建設地として選択した場合、前述の通り、市の土地資産約 3.2 億円を新図書館建設事業に投じることとなることから土地購入代金 3.2 億円を概算事業費に算入することが比較の観点からは妥当と考えます。 土地購入代金を概算事業費に算入すると両者の差はほとんどなくなります。 3 宮沢賢治については、主な質問への回答 7【宮沢賢治について】のとおり、双方の候補地ともゆかりがあると認識しております。市民会議でも、参加者から候補地双方とも賢治にゆかりがあるのではないかと意見があり、双方の「賢治のゆかりの地」について、市民会議参加者に資料を配布したところです。 市民会議でヒアリングシートに記載された意見では、「図書館を建てる場合には、文化歴史は重要視しなくてもいいのではないか」「どちらも宮沢賢治のゆかりの地」「賢治は観光の武器にはなると思うが、図書館に関しては特別意識せずともよいと思う」などの意見があったところであります。「花巻にしかないような図書館」はどのような内容の図書館を建設することであるかと考えるとそのような意見も一定の合理性があるものと考えます。
58	7 建設場所	4/29（火、祝）花巻まなび学園で開催された未来図書館シンポジウムに初参加。多くの方々が、各々の立場から熱い想いと意見が飛び交っていた。新図書館は緑に囲まれた木造建築が良い。それに相応しい場所は旧花巻病院跡地。JR 貨物列車が増えて騒音と電磁波、狭い駐車場。騒音対策でトリプルガラスだと費用も掛かる。年々着実に人工が減って行く中税金、借金で市民の負担は増えて欲しくない。市の所有地である花病跡地に自然の風が感じられ季節をイメージすると、駅前は全くのアウト。市長、担当職員の方々は良識ある決定をして欲しいと願って居ります。後世に残る汚点にはならないで欲しい。大好きな花巻市に相応しい図書館、ワクワクする学びの杜を旧花巻病院跡地に希望します。	緑については、駅前についても芝生広場を設置することも考えてきたところです。 病院跡地についても主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。 振動や音については、主な質問への回答 11【騒音について】のとおり、近年建設される図書館はグループで話ができるエリアや、音楽を流しているような図書館もあります。一方で、防音室のような、まわりからの音を遮断した静かな部屋も設ける例も多く、新しい図書館でも同様の静かな部屋の設置を計画に記載しています。全国的に見ても多賀城市立図書館、名取市図書館、酒田市立中央図書館、南相馬市立中央図書館、土浦市立図書館など、線路に近い図書館は多くあります。 那須塩原市の図書館は東北本線黒磯駅前にあり、新幹線の高架が近接しています。また福島県白河市の図書館も、駅に近く東北本線に接していますが、線路側にガラス窓があって閲覧席が設けられています。これらの図書館に問い合わせたところ、騒音については問題ととらえておらず、専門家の意見では設計段階で工夫することは十分可能だとの見解もあります。 花巻駅西口の変電設備の電磁波については、主な質問への回答 12【電磁波について】のとおり、WHO（世界保健機関）が電磁界の健康リスクについて専門家による検証を行い、それに基づき、中立的な国際組織である国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が平成 22 年（2010 年）に策定した、電磁波からの人体防護に関するガイドラインでは、一般の人への制限値を 200 マイクロテスラとしています。変電設備の磁界の強さは東北電力ネットワークによると花巻駅西側の変電設備も含めて一番強い箇所で 9 マイクロテスラ程度とのことで、ガイドラインで定められた 200 マイクロテスラと比較して大きく下回っており、変電所施設周辺については健康に影響するレベルではないということになります。さらに電磁波は東北電力ネットワークによると、距離の二乗から三乗に反比例し、距離に応じて急激に弱くなる性質があり、駅前の候補地では限りなくゼロに近いものになると説明されています。
59	7 建設場所	統計手法を正しく用いて下さい！ 1．調査対象の「ばらつき」を少なくする為、調査対象の数を増やす⇒この意味では 3 5 0 0 人全員を調査対象にし、データを採取すれば、妥当でした。 重大な瑕疵は、①その中から特定の日時を指定し参加可能者を絞り込み、7 5 名に決めた事⇒参加出来ない人を除いた、ばらつきは膨大であって。無視できない！ ②さらに、出席できた 7 5 名に教示した項目と内容は、複数の中立立場の専門家の判断があったか？ 県内の大学の図書館学や統計学の教授・講師の判断を入れずに、緑	市民会議については、統計手法を用いたものではありません。 このような方法は、主な質問への回答 3【市民会議の人数について】のとおり、市民参画の先進地として知られ市民会議の実績が多い東京都三鷹市で実施されている手法で、効果があると評価されているものです。 花巻市においても、市民の意見が分かれて集約が難しかったことから、その手法を参考にしたものです。

	もゆかりも無い遠方の教授の進行役&提供資料だけでは、誤った判断に導く要素は無かったのか？中立的立場からの検証が行われなければ、主催者側の都合の良い一方的な情報を与えた事を否定できないのでは？ ③先に行われていた、各種の委員会で提起された問題・実情は判断要素の評価項目に正しく反映され、提示されていたか？ 提示しなかった項目はあれば、なぜか？（大学教授が選別をかけて、項目から削除したのは 有／無し？） ④建設場所の評価項目は過不足ないか⇒項目を増やすことで、判断が入れ替わる恐れがないか、検証が必要である。→設定した１０項目では結果に誤りが起こる割合が高いのでは？ ④既に図書館設置の検討が行われた他市町村の比較検討項目に比べ、偏っていないか？ ⑤評価項目・費用に耐用年数を過ぎた駐車場の解体費が入っているか？ ⑥建築計画の自由度は項目に入っているか？、 ⑦駐車場の利用には高齢者の運転特性による 難易度がどの位数値として把握されているか？（車間幅、狭い所、暗い所、立体駐車場の不便性 等々） ⑧日常的な立ち寄り性の期待 ・敷地内の他の施設を含めた検討のなかでの発揮可能性は？ ⑨周辺環境の項目には、騒音が入ってなければ、別項目として設けるべき！ JR 線に隣接する建物の為、列車の騒音が無視されたのは意図的で不自然！ ⑩「病院側」と言うのよりは、「学び学園」「子供センター？」「**体育館」隣接地であり、利用者が併用出来る旨を、理解され説明あったか？ ⑪都市計画視点の①～⑩の項目について、それぞれの具体的な詳細内容を出来る限り数値で捉え、それに基づいての判断が出来れば、誤りが少ないはず。教示者&配付資料だけでは偏った判断に陥らないか？ ⑫、実際の現地視察があったか？（条件の悪い、夏場の JR 騒音） JR 側だと、自然な風（春～初夏、晩夏～初秋）を窓を開け取り入れにくい！。 JR 側だと エアコン使用で窓を閉め切るのか？ 騒音レベルの数値比較は？SDGS に反する！ ⑬アクセスの利便性について、７５名の何人が現在、年間どの図書館を利用しているか？新図書館が「駅前/学び学園」 夫々において、７５名の利用は各位、其々何日の増/減を見込まれるか？その結果をもって、新図書館の利用者数は 駅前／病院跡地 夫々予想値は？（根拠？）予想出来ないなら、７５名に絞った集計から結論を導いた事は誤り」ではないか？ 現図書館の現利用者からの、アクセス方法は”車利用が大部分&未成年は自転車”で通う割合が大多数ではないのか？” 電車&バスの利用者の図書館利用者の実数は把握してあるのか？⇒駅前交通アクセス方法は多岐だけど、図書館の利用者数は極わずかではないのか？ 現図書館利用者から“アクセス方法”を入手し、相関関係の調査が必須と考える！ ⑭悪意をもって、意図する目的の為に 統計手法を使い、誤った結論を導き出し、それに基づき、行政行為が行なわれ場合、「行政訴訟対象となり」 裁判所に行政行為の「適法・違法を審査」され、瑕疵の程度が甚だしく、正規の手続きで取り消されるまで有効とされるにはあまりに不合理な場合、取り消すまでもなく当然に無効とされます。 大学教授と市の責任者は当事者である事を理解しているか？ -- 以上！ 本メールを受領した旨の、返信をお願いいたします。 返信なき場合は、FAX&電話にて催促いたします！	
--	--	--

60	7 建設場所	駅前建設を前提とした新花巻図書館整備基本計画(案)、その根拠とした既成事実を作るためだけに行われた市民会議、基本計画を説明するための市民説明会の中での聞くに耐えられない担当市役所職員の発言の数々、これから使われようとしている税金の行方を含め納得できる材料がひとつもありませんでした。 市長を含め新図書館整備計画に関わる市職員の方々は市民が発信している思いに真剣に目を向け耳を傾ける事をお願いします。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、 主な質問への回答2【市民会議について】 のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、既成事実をつくるために行ったものではありません。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。
61	7 建設場所	・第4回市民会議（2/15）の1ヶ月後、唐突に市公表（3/15）に当該会議でヒアリングシートによる参加者(65人)の考えをグラフ化して、市はJR花巻駅前を建設候補地として選択した。この10項目で、「明らかに駅前がよい」が5項目「明らかに病院側がよい」が5項目と拮抗している。加えて、「アクセス」では当市の実態とかけ離れ新図書館を利用する人の大半はマイカーを使用すると推測される。次に「活性化」は、市全体の活性化という視点では不透明。そして、「周辺環境」での駅前と病院側は僅差である。 ・花巻市の総人口に対するヒアリングシートの記入者(65人)の比率は0.00073%は検討項目の重要性以前の問題であり、多くの市民の賛同を得たことにはなり得ない。一市民として再度「JR花巻駅前」と「総合花巻病院跡地」を出発点に戻し、より多くの市民が納得できる方向性(ヒアリングシート10項目の実情に即した展開)を再検討(熟議)することが最重要課題と考える。 ・100年先を見据え、駐車場が広く閑静且つ緑地も多く「学び・文化を育む施設」として「すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館」や「生涯学習の重要性」に鑑み、学び学園に隣接した病院側は理想郷である。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 今回実施した市民会議は、 主な質問への回答3【市民会議の人数について】 のとおり、市民会議は、できるだけ多くの市民の方に参加いただきたいところではありましたが、人数が多すぎた場合にファシリテーターの進行がうまくいかず、他の参加者の発言を「否定しない」、「断定しない」など参加者が遠慮なく発言できる雰囲気こそなわれるおそれもあるとの考えから、メインファシリテーターをお願いした山口教授のアドバイスまた他市の先進事例を参考にして、50人から100人の参加を得た市民会議とすることを目指したところです。それを踏まえ、15歳以上の市民の中から無作為で抽出した合計3,500人に案内を郵送し、その中から参加を希望された方で市民会議を実施いたしました。参考にした事例は、市民参画の先進地として知られ市民会議の実績が多い東京都三鷹市の事例であり、令和元年の事例では、三鷹市対象者数約158,900人に対して、無作為抽出で1,800人に案内し、114人から参加申し込みがあり、抽選で100人に絞り会議を行っています。但し実際の出席者は82人でした。この選出100人は対象者人口に対して0.06%、実際の出席者82人は0.05%です。同市の平成30年の事例では、対象者数約158,000人に対して、無作為抽出で1,800人に案内し、142人から参加申し込みがあり、抽選で80人に絞り会議を行っています。但し実際の出席者は62人でした。この選出80人は対象者人口に対して0.05%、実際の出席者62人は0.04%です。 本市、今回の対象者15歳以上の市民は、令和6年3月末段階で（外国人も含めて）81,235人であり、その0.06%だと約48.7人となります。 結果的には、75人から申し込みいただき、これは対象人口の0.09%の数字であり、実際に参加してヒアリングシートを書いていた人数65人は対象人数の0.08%という三鷹市に比べても遜色のない率になっています。 病院跡地についても 主な質問への回答8【病院跡地の緑について】 のとおり木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。
62	7 建設場所	市では、駅前に決めたようだが、建設にかかる費用が安い方に決めるべきである。市議会から提案されている「市有地に建設すべき」との提案がある。この意図するところは「財政上、現在の市が所有する場所に建設すべきであり、図書館のために新たに土地を購入すべきでない」ということだろう。これに私も同意する。さらに、市有地としてしまえば、市税としての固定資産税分が納税されなくなり、その分の将来の市税が減ることになる。市税の増加が見込まれないのに、今回の図書館建設用地をJRから購入するのは問題であり、そもそも駅前が建設候補地にすべきではなかったのではないか。 改めて指摘しておくが、なぜ、JRの用地を購入の理由が分からない。有益な公共物を建築するときには、誘致合戦が行われるのは必然であり、図書館というその意義からも利益の得られる人たちから様々な行動が起こされただろうことが想像できる。今回の計画は、真に開かれ広く市民に公開されているか疑問である。	市議会の提言は、駅前のJR用地を含めて、「建設用地は市有地とすること。借地に建設することにより将来にわたる財政負担と、土地利用上における権利関係の不安要素はさけるべきであること。」ということであり、駅前のJR用地の購入を否定するものとはとらえておりません。 また、提言のあったその時点においては、総合花巻病院跡地も市有地ではなく、平成29年3月6日に「総合花巻病院の移転整備に関する協定」及び令和3年1月11日の変更協定に基づき、東側人工地盤以外の、総合花巻病院跡地については、令和5年3月末までに建物等の解体、土壤汚染除去及び解体後の整地が順調に完了し、令和6年3月に3億2千万円で市が購入したものです。 その上で、総合花巻病院跡地とJR花巻駅前の2か所が最終的な候補地と絞られてきたことから、令和6年に実施した建設候補地比較調査では、それぞれの候補地に建設した場合の事業費を試算し広報等で公表するとともに、市民説明会も開催いたしました。 建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、 主な質問への回答2【市民会議について】 のとおり、市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。

63	7 建設場所	市民会議の結果を踏まえて候補地を決定したとありますが、ヒアリングシートの 10 の項目ごとの回答結果を得たとあります。しかし、前提条件として、事業費が1 億円以上も多くかかるとの調査結果が出ているのに、それでも尚且つ駅前を候補地として選定されたことに対して、客観的妥当性がみいだせません。又、なはんプラザ前の融雪装置のある広場は花巻の大きな特徴であり良さでもあります。これを無くさないでください。別紙	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 事業費は、主な質問への回答 10【事業費について】のとおり、図書館整備に要する概算事業費について、比較調査では総合花巻病院跡地の場合は約 36.3 億円、JR 花巻駅前については約 39.9 億円となっておりますが、国庫補助金や合併特例債を活用することを想定しております。その結果、建設時における財源としては、総合花巻病院跡地に建設する場合には、国の補助金最大 15 億円、合併特例債 20.2 億円、市の一般財源 1.1 億円の合計約 36.3 億円、JR 花巻駅前に建設する場合には国の補助金最大 15 億円、合併特例債 23.6 億円、一般財源 1.3 億円合計約 39.9 億円を想定しているところであります。 設計及び工事の時点で市がその一般財源から拠出する金額は総合花巻病院跡地に約 1.1 億円、JR 花巻駅前に建設する場合には土地購入代金を含めて 1.3 億円に留まります。残りは国の補助金及び市債である合併特例債を発行し資金を調達することになります。 合併特例債の返済期間は建物の償却期間などを勘案し決めることとなりますが、花巻市が今まで発行した合併特例債の多くの場合は市債発行から 3 年据え置き、その後 12 年間の返済期間とすることが多く、新花巻図書館建設についても同様となると見込まれます。 合併特例債の返済元本・金利の 70%は国からの交付税措置が受けられます。従って、市が市の財源で負担するのは設計及び建設時に一般財源から拠出する金額と合併特例債の元本・金利の合計額の 30%にとどまりますので国から補助金が制度上最大となる 15 億円になった場合、市が市の財源で負担する金額は、総合花巻病院跡地の場合は 7.2 億円、JR 花巻駅前の場合は、8.4 億円となります。 なお、総合花巻病院跡地の場合には当該土地購入代金約 3.2 億円を上記概算事業費に算入しておりませんが、総合花巻病院跡地を新図書館建設地として選択した場合、前述の通り、市の土地資産約 3.2 億円を新図書館建設事業に投じることとなることから土地購入代金 3.2 億円を概算事業費に算入することが比較の観点からは妥当と考えます。 土地購入代金を概算事業費に算入すると両者の差はほとんどなくなります。 新しい図書館の年間運営費については、図書購入費も含めて約 2 億円を見込んでおります。これについては、今後の財政状況によっては減額をするなど検討が必要な時期もでてくる可能性はありますが、多くの市民に利用していただける施設にするべきだという観点は重要だと考えます。 多目的広場についてはイベント等の開催に支障があるとの意見もあるので、建物を 3 階建てにすることや芝生広場を屋上等に設置することなどについて設計段階で検討します。
64	7 建設場所	新らしい図書館の建設場所が駅前になったことが非常に残念でなりません。全国から賢治ファンが訪れる自然豊かな所に立ててほしい。市有地があるのになぜ土地の高い駅前に立てたいのか、わかりません。市長さんの市民に耳を傾けるといった言葉はどこにいったのか？	総合花巻病院跡地については、主な質問への回答 7【宮沢賢治について】のとおり、宮沢賢治については、双方の候補地ともゆかりがあると認識しております。宮沢賢治に関しては、いろいろな考えや意見をお持ちの方がいると思います。資料の充実、宮沢賢治イーハトーブ館の資料も検索や閲覧ができるように検討するなど、ソフト面でも宮沢賢治出身地ならではの図書館となるよう基本計画案に記載しているところであり、そのことは総合花巻病院跡地または駅前に立地するかによって異なるものではありません。 また、主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり、病院跡地について、木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。 6【総合花巻病院跡地について】のとおり、総合花巻病院跡地については、この土地は立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。 現時点において具体的な活用法についての考えは固まってはいるところではありますが、市議会においては、新しい市役所の用地としての活用、子育て施設としての活用などの可能性も考えられることを示したところです。
65	7 建設場所	・建設経費について：まだ流動的な状況ですので最終的計画にのっとった予算を提示していただきたい。 ・駅前に建設については 3 階も考えるとあるが、そもそも現在の図書館が新しくする理由の中に狭すぎるという理由があり現在の場所に建設するには無理があるということでした。その時出た話で 3 階建てはどうかということに対して不便でありエレベーター等の設備型経費的にも大変であるという理由であったのに新図書館ではどうして 3 階建ての話が出るのでしょうか。そうであれば現在の場所への建設も考えてもよかったのにも思ってもみたり。	今回のパブリックコメントは、「新花巻図書館整備基本計画（案）」について実施したものであり、今後設計等を進めた段階で、予算については提示できるものと考えております。 宮沢賢治ゆかりの地を重視するのであれば、主な質問への回答 7【宮沢賢治について】のとおり、宮沢賢治ゆかりの地を重視するのであれば、現在の花巻図書館の場所こそが稗貫農学校が県立花巻農学校として移転した場所であり宮沢賢治が教鞭をとった約 3 年間の後も宮沢賢治の教えを大事し生徒を育ててきた花巻農学校及びは花巻農業高校が長くあった場所であり、その意味では宮沢賢治が教鞭をとった時期も 1 年 4 カ月程度にとどまった総合花巻病院跡地よりゆかりがある場所とも言える場所です。 しかしながら、現花巻図書館は、公共交通機関が少ないため、車がある人や近くの人には利用できますが、生徒や学生、免許を返納した人など車での移動ができない人には利用しづらい場所にあり、また、現在の花巻図書館の場所に建設する場合は、立地適正化計画に関わる国補助の対象にならない場所にあります。これらの理由などから、現在の花巻図書館の場所は新花巻市が発足した後に時

			期をおかず開始された新図書館整備検討においても新図書館建設候補地とはされなかったところです。 また、新しい図書館は2階建てにする場合にでも3階建てにする場合でもエレベーターを設置しバリアフリーとする計画です。
66	7 建設場所	2 署名用紙の取り扱いについて 一般市民の声として集められた7000人以上の方達の声は、どのように反映されているのでしょうか。 市民会議を4回実施したとのことですが、平均47人ほどの参加者の意見の集約は、署人数の1/10にも充当しない数ではないでしょうか。 市民会議の結果を踏まえてという市の選択にも大きな疑問の残るものであります。 3 50年先、その後々まで負のある場所への建設は、やめていただきたい。	署名については貴重なご意見ととらえており、主な質問への回答5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込んでおります。 建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前のJR用地としたところです。
67	7 建設場所	1 図書館は未来世代への贈り物です。 建ってしまえば図書館は50年は使います。建物ならば改築、増築などで来ますが、場所はおいそれとは変更できません。50年後の未来世代からも、いい場所だと感謝される場所だと思います。 自然の雄大な景色を眼前にし、また触れ合うことも出来る病院跡地ではないでしょうか。駅は今後ますます貨物列車多くなり、振動と騒音が激しくなります。最悪の場所です。 2 図書館は賢治精神を伝える拠点の一つです。 何処の図書館とも違う花巻の図書館にしたいと思います。賢治の精神はこれから五十年、百年と伝えてゆかなければなりません。病院跡地はゆかりの地です。花巻農学校は、賢治が賢治らしくなった場所です。病院跡地こそその場所です。そこで教鞭を取り実践を始めた場所です。花巻の図書館に相応しい場所です。 3 時代に相応しい図書館を作りましょう。 紙の本離れが激しい。小学生もタブレットを使う時代です。本がたくさんある図書館というだけでは時代のニーズに応えられません。現代ではとりわけ重要なのはいやしの空間での本との出会いや触れあいです。だから、自然環境が重要になります。 自然環境のいい、病院跡地にすべきです。	緑や自然については、芝生広場を設置することも考えてきたところです。 病院跡地については、主な質問への回答8【病院跡地の緑について】のとおり木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。 振動や音については、主な質問への回答11【騒音について】のとおり、近年建設される図書館はグループで話ができるエリアや、音楽を流しているような図書館もあります。一方で、防音室のような、まわりからの音を遮断した静かな部屋も設ける例も多く、新しい図書館でも同様の静かな部屋の設置を計画に記載しています。 宮沢賢治については、主な質問への回答7【宮沢賢治について】のとおり、宮沢賢治については、双方の候補地ともゆかりがあると認識しております。 なお、宮沢賢治ゆかりの地を重視するのであれば、現在の花巻図書館の場所こそが稗貫農学校が県立花巻農学校として移転した場所であり宮沢賢治が教鞭をとった約3年間の後も宮沢賢治の教えを大事し生徒を育ててきた花巻農学校及びは花巻農業高校が長くあった場所であり、その意味では宮沢賢治が教鞭をとった時期も1年4カ月程度にとどまった総合花巻病院跡地よりゆかりがある場所とも言える場所です。 しかしながら、現花巻図書館は、公共交通機関が少ないため、車がある人や近くの人には利用できますが、生徒や学生、免許を返納した人など車での移動ができない人には利用しづらい場所にあり、また、現在の花巻図書館の場所に建設する場合は、立地適正化計画に関わる国補助の対象にならない場所にあります。これらの理由などから、現在の花巻図書館の場所は新花巻市が発足した後に時期をおかず開始された新図書館整備検討においても新図書館建設候補地とはされなかったところです。 宮沢賢治に関しては、いろいろな考えや意見をお持ちの方がいると思います。資料の充実、宮沢賢治イーハトーブ館の資料も検索や閲覧ができるように検討するなど、ソフト面でも宮沢賢治出身地ならではの図書館となるよう基本計画案に記載しているところであり、そのことは総合花巻病院跡地または駅前に立地するかによって異なるものではありません。 病院跡地については、主な質問への回答8【病院跡地の緑について】のとおり木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。 木々や緑がたくさんあることは、気持ちも良くゆっくりとくつろぐためにはいい空間だと思います。ただし、図書館は蔵書と司書が大切であり、利用者は主に図書館内で読書をはじめとした活動が多いと考えます。従って、図書館にとっては、必ずしも外の自然環境が必須条件とはならないのではないかと考えます。
68	7 建設場所	新図書館の場所について 駅前の場所では、不安があります。 まず費用のことです。 令和2年12月の市議会議長から市長宛の提案に 建設用地は市有地とすること 財政負担や権利関係の不安を避けることとあります。 これは市民の思いそのものです。 なぜ財政負担のない市有地の病院跡を利用しないのか、その理由が市からは示されていません。 今、花巻市は国保税を上げるなど、市民の生活をますます圧迫しようとしています。	これまでの経緯は、主な質問への回答1【これまでの経緯】のとおりですが、「借地に建設することにより将来にわたる財政負担と、土地利用上における権利関係の不安要素は避けること」との提言を踏まえ、借地による財政負担、すなわち50年間等の長期間を考えた場合において累積して支払う賃料が土地の購入費用等より大きくなることによる財政負担を避けること。そして借主としての権利は借地借家法により十分に守られることとならないといえ、土地所有者に比べてその権利が制約されることなどを考え、土地の定期借地ではなく、土地を購入し、市が土地の所有者となることとし、JR東日本から当該土地を購入することとしております。 総合花巻病院跡地については、主な質問への回答6【総合花巻病院について】のとおり、令和6年3月に市が約3億2千万円で購入し市有地とした土地であります。この土地は立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。 また、事業費は、主な質問への回答10【事業費について】のとおり、図書館整備に要する概算事業費について、比較調査では総合

		その市民の税金を使ってかたや図書館建設には病院跡地よりも財政負担が大きい方の駅前に決めるのか納得がいきません。 それから環境のことも不安です。いくらアクセスが良いとしても、環境がよくなければ、もう図書館へは行きたいとは思わなくなります。 あの狭い駅前に3階建ての図書館を建てて、駐車場も立体にして、列車の音などが頻繁に聞こえる場所が心のやすらぐ図書館になるでしょうか。 自然に恵まれた花巻にふさわしい病院跡地があるのですから、そこを活用しないのはもったいなさすぎだと思います。 目先の利権にとらわれず、もっともっと長い先まで考えて、市民によろこばれる図書館にしてほしいです。	花巻病院跡地の場合は約36.3億円、JR花巻駅前については約39.9億円となっておりますが、国庫補助金や合併特例債を活用することを想定しております。その結果、建設時における財源としては、総合花巻病院跡地に建設する場合には、国の補助金最大15億円、合併特例債20.2億円、市の一般財源1.1億円の合計約36.3億円、JR花巻駅前に建設する場合には国の補助金最大15億円、合併特例債23.6億円、一般財源1.3億円合計約39.9億円を想定しているところであります。 設計及び工事の時点で市がその一般財源から拠出する金額は総合花巻病院跡地に約1.1億円、JR花巻駅前に建設する場合には土地購入代金を含めて1.3億円に留まります。残りは国の補助金及び市債である合併特例債を発行し資金を調達することになります。 合併特例債の返済期間は建物の償却期間などを勘案し決めることとなりますが、花巻市が今まで発行した合併特例債の多くの場合は市債発行から3年据え置き、その後12年間の返済期間とすることが多く、新花巻図書館建設についても同様となると見込まれます。 合併特例債の返済元本・金利の70%は国からの交付税措置が受けられます。従って、市が市の財源で負担するのは設計及び建設時に一般財源から拠出する金額と合併特例債の元本・金利の合計額の30%にとどまりますので国から補助金が制度上最大となる15億円になった場合、市が市の財源で負担する金額は、総合花巻病院跡地の場合は7.2億円、JR花巻駅前の場合は、8.4億円となります。 なお、総合花巻病院跡地の場合には当該土地購入代金約3.2億円を上記概算事業費に算入しておりませんが、総合花巻病院跡地を新図書館建設地として選択した場合、前述の通り、市の土地資産約3.2億円を新図書館建設事業に投じることとなることから土地購入代金3.2億円を概算事業費に算入することが比較の観点からは妥当と考えます。土地購入代金を概算事業費に算入すると両者の差はほとんどなくなります。 振動や音については、主な質問への回答11【騒音について】のとおり、近年建設される図書館はグループで話ができるエリアや、音楽を流しているような図書館もあります。一方で、防音室のような、まわりからの音を遮断した静かな部屋も設ける例も多く、新しい図書館でも同様の静かな部屋の設置を計画に記載しています。 自然についても、主な質問への回答8【病院跡地の緑について】のとおり木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。 駐車場は立体駐車場をご心配のようですが、立体駐車場ではなく、平面での駐車場を計画案としています。 「目先の利権」の意味は分かりかねますが、市としては特定の方の利権を考えて計画案を策定したものではありません。
69	7-3 建設候補地の選定	駅前のスポーツ店敷地はいかにも狭隘です。 図書館本体を設計する場合に建設家が自由度がなくて困るのではないのでしょうか。 その点も含めて考えると総合花巻病院跡地の広い空間に建設するべきです。 お考えを聞かせてください。	令和6年に実施した建設候補地比較調査において、どちらの候補地においても、延床面積4,500㎡の本体と駐車場需要推計値である120台の駐車場を配置することができ、設計等の自由度を下げるものとは考えておりません。 なお、駐車場について危惧される方も多かったことから、「花巻駅前」では主な質問への回答9【駅前駐車場について】のとおり、利用しやすい駐車場の確保に努めたいと考えております。参照願います。 また具体的なデザインについてのご意見は設計段階で伺い、参考といたします。
70	7 建設場所	・新花巻図書館の候補地を決める際に市民75名だけからの聞き取りを市民全体の相違と勘違いして決めている。 ・花巻病院跡地の前の道路は、現在新しい道路工事の予定があり、交通の利便性や歩道が整備され、車でのアクセスが容易になります。 また、周辺に公園や小学校、障害学習支援施設や市の施設が多数ありそこから歩いて行ける場所です。 私は花巻病院跡地に新花巻図書館を設置して欲しいです。 図書館は観光施設ではない、社会人や学生、子供らが利用する場所です	市民会議は、主な質問への回答3【市民会議の人数について】のとおり、市民参画の先進地として知られ市民会議の実績が多い東京都三鷹市で実施されている手法で、効果があると評価されているものです。 総合花巻病院跡地南側の道路は、大通りから総合花巻病院跡地までの間、現在歩道設置の整備をしておりますが、融雪装置は多額になるため設置できず、冬期間に駅から歩く方には負担になると考えております。また、東側の花巻小学校入口から武徳殿までについては、地権者の意向により安全な歩道の設置はすぐにはできない状況にあります。 もちろん図書館は市民利用を第一に考えておりますが、宮沢賢治出身地の図書館として宮沢賢治に関する資料を豊富にそろえる計画ですので、市外の人にも利用してほしいと考えております。
71	7 建設場所	何故、鉄道のうるさい所に建てるのか？ しかも1億5千万円に出して。更にスポーツ用品店他解体工事や駐車場の整備等、1億以上はかかるでしょう。 市は、なにがなんでも駅に建たいようであるが、市長は鉄道会社やスポーツ用品店と何か特別な約束でもしているのですか？ 無駄な事は止めてください。	振動や音については、主な質問への回答11【騒音について】のとおり、近年建設される図書館はグループで話ができるエリアや、音楽を流しているような図書館もあります。一方で、防音室のような、まわりからの音を遮断した静かな部屋も設ける例も多く、新しい図書館でも同様の静かな部屋の設置を計画に記載しています。 事業費については、主な質問への回答10【事業費について】のとおり、図書館整備に要する概算事業費について、比較調査では総合花巻病院跡地の場合は約36.3億円、JR花巻駅前については約39.9億円となっておりますが、国庫補助金や合併特例債を活用することを想定しております。その結果、建設時における財源としては、総合花巻病院跡地に建設する場合には、国の補助金最大15億円、合併特例債20.2億円、市の一般財源1.1億円の合計約36.3億円、JR花巻駅前に建設する場合には国の補助金最大15億円、合併特例債23.6億円、一般財源1.3億円合計約39.9億円を想定しているところであります。 設計及び工事の時点で市がその一般財源から拠出する金額は総合花巻病院跡地に約1.1億円、JR花巻駅前に建設する場合には土地

			購入代金を含めて 1.3 億円に留まります。残りは国の補助金及び市債である合併特例債を発行し資金を調達することになります。 合併特例債の返済期間は建物の償却期間などを勘案し決めることとなりますが、花巻市が今まで発行した合併特例債の多くの場合は市債発行から 3 年据え置き、その後 12 年間の返済期間とすることが多く、新花巻図書館建設についても同様となると見込まれます。 合併特例債の返済元本・金利の 70％は国からの交付税措置が受けられます。従って、市が市の財源で負担するのは設計及び建設時に一般財源から拠出する金額と合併特例債の元本・金利の合計額の 30％にとどまりますので国から補助金が制度上最大となる 15 億円になった場合、市が市の財源で負担する金額は、総合花巻病院跡地の場合は 7.2 億円、JR 花巻駅前の場合は、8.4 億円となります。 なお、総合花巻病院跡地の場合には当該土地購入代金約 3.2 億円を上記概算事業費に算入しておりませんが、総合花巻病院跡地を新図書館建設地として選択した場合、前述の通り、市の土地資産約 3.2 億円を新図書館建設事業に投じることとなることから土地購入代金 3.2 億円を概算事業費に算入することが比較の観点からは妥当と考えます。土地購入代金を概算事業費に算入すると両者の差はほとんどなくなります。 なお鉄道会社やスポーツ用品店と特別な約束をしているようなことは全くありません。
72	7 建設場所	花巻病院跡地を市で 3 億以上に出費して購入してあるのに、何故他に買って建てるのか？我々の血税を無駄な出費に使う位い、市の財政は豊かなんですか？ 駅周辺は絶対反対します。	総合花巻病院跡地については、主な質問への回答 6【総合花巻病院跡地について】のとおり、令和 6 年 3 月に市が約 3 億 2 千万円で購入し市有地とした土地であります。この土地は立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。
73	7 建設場所	駅周辺に建てる事は、絶対反対します。 まなび学園と病院跡地は敷地も広く、宮沢賢治のゆかりの地です。 手狭な駅周辺に、わざわざ更に出費し建てる意味がわかりません。 個人の家庭だったら、広い土地があるのにわざわざ出費して買う事はしないです。 駅は反対です。	宮沢賢治については、主な質問への回答 7【宮沢賢治について】のとおり、双方の候補地ともゆかりがあると認識しております。市民会議でも、参加者から候補地双方とも賢治にゆかりがあるのではないかと意見がありました。 宮沢賢治に関する資料については、市民から、宮沢賢治の出身地にふさわしい図書館としてほしいなどの意見が多いことから、今後出版される図書資料はもちろん、未所蔵で購入可能な資料は古本も含め積極的に収集し、地域（郷土）資料スペースにおいて配架する予定ですが、宮沢賢治専用のスペースを設けることも検討します。 また、イーハトーブ館と役割分担をし、現在イーハトーブ館が保有している専門的な研究資料や絶版等入手困難な資料等は、引き続きイーハトーブ館で保有することとし、図書館で閲覧または貸出できるようシステムの構築を検討します。 病院跡地の敷地については、主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり、敷地東側の城跡の堀部分や北側は急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されているため、建物の建築場所は斜面から離れる必要があります。 総合花巻病院跡地については、主な質問への回答 6【総合花巻病院跡地について】のとおり、立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。
74	7 建設場所	駅周辺に作ることは、反対。 病院跡地でよい。まなび学園も隣接しており、土地に広く、図書館としてふさわしい。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 駅前においても、サークル活動や学習活動も行われているなはんプラザが隣接しています。 病院跡地の敷地については、主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり、敷地東側の城跡の堀部分や北側は急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されているため、建物の建築場所は斜面から離れる必要があります。
75	7 建設場所	①市は花巻駅前を建設候補地として、市民会議の結果を踏まえて選択した事への疑問 市花巻駅前を建設候補地として市民会議の結果を踏まえて選択したと発表したことに疑問がある。4 回の市民会議の最後にヒアリングシートで参加者の考えを確認したとしている。1 0 項目についてどちらの場所の方が良いと思うか 5 つに分かれたところにポイントを入れる作業。このポイントの集計によって市民会議のヒアリングシートの結果、駅前を建設候補地として選択して基本計画を策定したいとしています。本当に市民会議のヒアリングシートの集計の結果は駅前として良いのでしょうか？ひとつひとつの項目を見ると、一番多いのはどちらでも良いの 186 ポイントだ。圧倒的に駅前が指示されたわけではない。その中身は活性化やアクセスについて駅が良いとポイントが多い様だが、深く考えると何のどここの活性化？誰にとってのアクセス、アクセスとは何か？深い話し合いがなされたとは思わない。又、防災、安全についても、駅前のポイントが多いが、市民会議に配られた資料の中に病院跡地の崖	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 ファシリテーターをお願いした山口教授には、市は市民会議の結果がどちらの方向になってもそれを尊重する、したがって中立的な立場でファシリテーションをしていただきたいとはっきりお願いしており、実際、山口教授は中立的な立場から司会進行をしていただいたと考えております。また、4 回目の市民会議が終了した後に出席者の方々に記載いただいた「市民会議ヒアリングシート 確認 1～5 自由記述 まとめ」の特に【確認 4】においても「山口先生や職員の方の熱意がとても伝わってきました」、「山口先生の流し方も参加者に非常に配慮されていて、あたたかな意見交流が展開された」、「ワークショップのやり方が良かった」、「ファシリテーターの進行が素晴らしかった」など、山口教授の進め方を高く評価する意見が多かったところです。

	や、法面の部分が赤く示されいかにも危険だというイメージ操作がなされたと感じる。 それぞれの場所のメリットデメリットを出し、どうしたらそのメリットデメリットを変えられるか、深い考えもなく思いつきで、本当にそんな事できるの？まったく関係なく勝手に伝え合う、言いっぱなしに過ぎない会議であったと感じる。ファシリテーターの東京から来た山口先生が、対話の心得をにこやかな笑顔で、話に耳を澄ませ、否定も断定もしない、答えは一つと思わない等何度も市民会議の前に言った。4回目の会議の前に「この会議の結果で場所が決まるわけではありません」と言った。 しかし市民会議の結果は市が、駅前建設の決め手として使われた。市側の意図的な作為を感じる。 ②市民が集う知性と文化と情報の泉となる理想の図書館を創ろう！ 花巻市は新花巻図書館整備基本構として(令和7年3月) 基本方針 市民一人ひとりの生活や活動を支援することを基本的に考えながら、先人が育んできた「学びの精神」を受け継ぎ、図書館が次世代を担う子どもの読書活動を支援し豊かな心を育てる施設として、また情報を地域や産業の創造に結びつける施設として、まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指す。次の3つを基本方針とする。 ①郷土の歴史と独自性を大切にし、豊かな市民文化を創造する図書館 ②すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館 幼児、子ども、高齢者、障がい者、すべての市民が気軽に利用できるよう親しみやすく使いやすい施設、自然や周辺に調和した明るくゆったりとしたスペース、読書はもちろんのこと、くつろぎの場でもあり、交流の場ともなる施設。 ③暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ知の情報拠点としての図書館 この市が示した基本方針に市民が望んでいる図書館の姿の答えがある。病院跡地周辺には、小学校、幼稚園、子ども支援センター、生涯学園都市会館ある。これらの施設に隣接して広々とした病院跡地。この土地こそが今考えられる次世代の子どもたちに残してあげられる最高の新花巻図書館だと考える。上町までは歩いて8分。図書館からまちが元気になる。マルカン大食堂、おもちゃ美術館、市民も観光客もまちあるきで経済活性化、まちが再生される。 市はこの素晴らしい基本方針を大切に、何を大切に誰の声に耳を傾けて行政を行うべきか深く考えてほしい。 ゆったりとした広い土地には理想とする新図書館の可能性が溢れている。広々とした土地では図書館の魅力的な建築を見ることができ、駐車場から図書館までのアプローチも木々や緑に囲まれた豊かな自然を感じられる空間をデザインすることができる。 利用者の視点を大切に館内にはさまざまな工夫が必要となる。又図書館で働くスタッフも、図書館職員としてしっかり採用され、図書館司書を配置する様望む。 高台にある場所は遠くまで見渡すことができ風を感じることができる。人間は息をして生きている。胸の奥までこの空気や空の色を感じながら吸い込みはき出し生きる実感を持ち、そして安らぎと希望を感じる。	主な質問への回答4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、市民会議では、参加者の皆さんがメリットやデメリット、デメリットの解決策について話し合う中で多角的な視点から建設候補地について考察していただいたものと考えております。市民会議では、平成29年8月に定めた基本方針についてもご説明しております。会議の中で求められた疑問等については、市から資料をお示したところでありますが、両候補地について客観的な資料を出したと考えております。なお、それらの資料についてはホームページで公表しております。 https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/1014033/1022321.html ※花巻市ホームページ「新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議」 主な質問への回答8【病院跡地の緑について】のとおり、病院跡地について、木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。総合花巻病院跡地においても図書館を2階建てとすることを前提として芝生広場を設置し、樹木を植栽することは可能と考えますが、城跡の堀部分や北側は急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されているため、堀より下側の平地も含めて外庭などを設置する自由度はありません。 駅前のJR所有地においても図書館を2階建てまたは3階建てとすることにより総合花巻病院跡地に図書館を2階建て整備する場合と同様の床面積を確保することができます。また、市は駅前のJR所有地に2階建てまたは3階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところです。しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を3階建てとすることを望む声もでているところでありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内に子どもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 なお、総合花巻病院跡地に建設した場合の建物配置計画によれば、北側には土砂災害警戒危険区域等があるため斜面から距離をとる必要があり景観は期待できないと考えております。また、東側に隣接する花巻小学校は2階建て一部3階建てであり、その屋根や周辺の林により、図書館2階からも早池峰山や東側の山並みは見えないと考えております。
--	---	--

		③新花巻図書館を病院跡地に建設することを希望します。 花巻市は図書館の建設場所を二ヶ所の候補地を示した。 それぞれ駅前がよいと思う人、病院跡地がよいと思う人、それぞれの意見があることは十分に理解できる。しかし何度か市の説明を聞くうち何故だか市は駅前建設の方向に意図して動いているように感じる。 2ヶ所候補地があると言いながら、実は駅の橋上化、駅舎建設、駅前図書館と3ヶ所の建設計画は最初からセットで内々に決定されていたのではないですか？線路とグランシェールとなはんプラザと駅舎のコンクリートに囲まれた狭い敷地に建設された3階建ての図書館を次世代の子どもたちに残したくありません。 花巻の図書館って気持ちいいよね。花巻の誇りだよね。何度でも行ってみたい場所だよ。と言われるように病院跡地建設を希望します。 上田市長さん新花巻図書館の建設について今一度市民の声に耳を傾けて下さい。よろしくお願いします。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものです。 ことについては、上記のとおりです。 主な質問への回答1【これまでの経過】のとおり、丁寧に説明をした上で市議会にも予算を諮り事業を進めてきたものです。従って、駅前建設の方向に意図して動いていたものではありません。 駅の橋上化事業は、決まっていたものではなく、市民の意見を聞きながら進めてきており、駅の橋上化事業は事業化が進んだところ です。 図書館の建設については、JR 東日本は、当初駅前の候補地を売却したくないとの意向でありましたが、市議会特別委員会の建設用地について「建設用地は市有地とすること。借地に建設することにより将来にわたる財政負担と、土地利用上における権利関係の不安要素は避けるべきであること。」との提言を受けて、市が駅前 JR 所有地に図書館を建設したいとの考えを固めるのであれば当該 JR 所有地の売却条件について協議に応じるとの方向を示したところです。このことについては、市議会の答弁等で何度も説明してきた ところ です。 その後市民のご意見等をお聞きする中で、病院跡地と花巻駅前に候補地が絞られ、双方に建設した場合の事業費を積算するためには、JR 東日本から譲渡に係る売買価格等の条件を聞く必要があります、そのような条件がわからないと病院跡地または駅前のどちらかに決めることはできないということから。市からお願いして JR 所有地に図書館の建設をするかどうかが固まる前に譲渡する場合の売買価格等の条件を提示いただいたものです。 ですから、JR 東日本もまだ市として建設場所が決まっていないことを承知の上で、土地を譲渡する場合の条件を提示したものであります。 市は市として花巻駅前を建設地として決めていないことを JR 東日本にお示しし、JR 東日本もそのことを十分理解して売買価格等の条件を提示したものです。 新花巻図書館の建設場所が総合花巻病院跡地になる可能性がある段階で、JR 東日本に対してその可能性を隠し JR 東日本と駅前土地の購入を「内々決定する」こと、または JR 東日本がそのような可能性がある中で市と駅前土地を譲渡することを「内々に決定する」ことはあり得ないことです。「内々に決定」云々は全く根拠のない推測であることを改めてはっきり申し上げます。
76	7 建設場所	・イニシャルコスト、ランニングコストと共に、想定以上の見えないコストを考えれば、少子化が見込まれる現況からは、病院跡地が望ましい。 ・商業地的な場所よりも文教的な要素が濃いという点でも病院跡地が好ましい。 ・場所（立地条件）以上に、1人当たりの貸出冊数をいかに上げるかが図書館としての最大の課題なのに、そこがいずれの立場から見えないのは残念。	基本計画案では、「5-8 利用者の視点に立った図書館運営」に現時点で想定される運営経費を試算しておりますが、建設候補地による違いはないものと考えております。 他市の図書館事例を確認したところ、岩手県内においても、八幡平市や平泉町、陸前高田市や岩手県立図書館なども都市計画用途地域で商業地域に整備している例があります。 1人あたりの貸出冊数について、基本計画案では、人口1人当たりの貸出冊数目標ですが、令和5年度の花巻市立図書館の人口1人当たり貸出冊数は3.3冊（4館全体の数値）、新花巻図書館は、全国の公立図書館の貸出密度上位館の数値を参考にし、オープンから10年後には、1人当たりの貸出冊数を11.7冊に引き上げることを目標とし記載しています。 なお、蔵書については、現在は文学の分野が多いところですが、その他の分野の書籍も子ども向けの図書も同様に購入を進めることやレファレンスサービスの充実も記載しており、多くの市民に利用される図書館を目指していきます。
77	7 建設場所	① 市民会議4回の意見集約に疑問、不信感、市民の声を蔑ろにしています。再度選定項目の重要な見直しの必要性をお願いします。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 主な質問への回答4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、ヒアリングシートでは、市民会議の話し合いの中で出されたメリット・デメリットとそれらの分類を項目立てした10の「[視点・分類]のうち、重要と思うものについて、1位から5位まで順番をつけて書いてください。理由もお書きください。」という質問があります。それについて、市民会議の皆さんの選択は、アクセス、活性化、安全、周辺環境、駐車場、費用、他施設との連携、土地、文化・歴史、防災、の順番になりました。 重要視された上位5分類ごとに候補地の選択で最も人数が多かったものとその人数は、一番上位からアクセス「明らかに駅前」42

		人、活性化「明らかに駅前」27人、安全「どちらかといえば駅前」25人、周辺環境「どちらかといえば駅前」21人、駐車場「どちらかといえば病院側」24人となっています。以上から、上位から4分類で駅前が評価されているということです。 上位5位に位置付けられた駐車場については、病院跡地が評価されていることから、駐車場の整備にあたって利用されやすい駐車場の確保に努めます。 なお、参加者が重要視した「視点・分類」の6位以下は、費用については「どちらでもよい」27人、他施設との連携については「どちらでもよい」26人、土地については、「どちらかといえば病院側」16人、文化・歴史については「どちらでもよい」30人、防災については「どちらでもよい」28人、となっております。 10の「視点・分類」全体で見た場合においても、重要視された5分類の「視点・分類」については上位2分類の活性化及びアクセスについては「明らかに駅前」、それに次ぐ2分類の周辺環境及び安全については「どちらかといえば駅前」、駐車場及び土地については「どちらかといえば病院側」、それ以外の「視点・分類」の分類の、費用、他施設との連携、文化・歴史、防災については「どちらでもよい」を選んだ人が最も多かったところであります。 参加者からのヒアリングシート【確認4】及び【確認5】においては、「色々な方々のご意見を聞くことができて良かったです（特に若い方々のお話が聞けて良かった）。」や、若い世代からも「年代が違う人の意見も聞けたのは良かった」などの意見があり、「ワークショップのやり方が良かった。」「市民会議をやってよかったと思う。」「ファシリテーターの進捗が素晴らしかった。」「できるだけ多くの意見を集約し、市が決定する判断材料にするという位置づけは好感が持てました。」「判断材料になればと思う。」などの感想が寄せられ、尊重すべき意見が得られたと認識しております。 自分と違う意見を聞くことが有意義だったとする意見も多く、「意見の変化があった」「自分にない考え方で気づくこともあり、判断材料が増えた」「自身の意見に違いがあっても、全員が認め合う気持ちがあってよかった」など、参加者の皆さんが真剣に取り組んでいただいたと考えております。それらの資料についてはホームページで公表しております。 https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/1014033/1022321.html ※花巻市ホームページ「新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議」
	② 駅前を建設地に決定されたのはどのような理念で決定されたのか説明が全く無い。 花巻中央図書館としての位置づけとして50年とも60年もの長い年代の期間として将来の子供達への理想とする誇れる図書館を望みます。 ③ 花巻病院跡地の本来の市有地を最大限活かして下さい。 花巻 宮沢賢治の里に相応しい新図書館を願い10,282筆の署名簿の提出しましたが、その後の対応は聞いておりません。どうなるのか必ずお返事を下さい。文書で返事を下さいます様お願いします。	市民会議の皆さんの「アクセス」や「活性化」の観点を重視すべきとの観点は、市が定めた基本構想に示す「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」「市民をはじめとする利用者にとって、利用しやすい場所にあるべき」などに即していると考えます。 新しい図書館は今後長期にわたって使われるものと考えており、基本計画（案）の基本方針において、「先人が育んできた「学びの精神」を受け継ぎ、図書館が次世代を担う子どもの読書活動を支援し豊かな心を育てる施設として、また情報を地域や産業の創造に結びつける施設として、まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」、3つの基本方針を示しています。 総合花巻病院跡地については、主な質問への回答6【総合花巻病院について】のとおり、令和6年3月に市が約3億2千万円で購入し市有地とした土地であります。この土地は立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。 署名については貴重なご意見ととらえており、主な質問への回答5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込んでおります。 また、主な質問への回答7【宮沢賢治について】のとおり、宮沢賢治については、双方の候補地ともゆかりがあると認識しております。 なお、宮沢賢治ゆかりの地を重視するのであれば、現在の花巻図書館の場所こそが稗貫農学校が県立花巻農学校として移転した場所であり宮沢賢治が教鞭をとった約3年間の後も宮沢賢治の教えを大事し生徒を育ててきた花巻農学校及びは花巻農業高校が長くあった場所であり、その意味では宮沢賢治が教鞭をとった時期も1年4カ月程度にとどまった総合花巻病院跡地よりゆかりがある場所とも言える場所です。 しかしながら、現花巻図書館は、公共交通機関が少ないため、車がある人や近くの人には利用できますが、生徒や学生、免許を返納した人など車での移動ができない人には利用しづらい場所にあり、また、現在の花巻図書館の場所に建設する場合は、立地適正化計画に関わる国補助の対象にならない場所にあります。これらの理由などから、現在の花巻図書館の場所は新花巻市が発足した後に時期をおかず開始された新図書館整備検討においても新図書館建設候補地とはされなかったところです。

			宮沢賢治に関しては、いろいろな考えや意見をお持ちの方がいると思います。資料の充実、宮沢賢治イーハトーブ館の資料も検索や閲覧ができるように検討するなど、ソフト面でも宮沢賢治出身地ならではの図書館となるよう基本計画案に記載しているところであり、そのことは総合花巻病院跡地または駅前に立地するかによって異なるものではありません。
78	7 建設場所について	みんなの未来図書館シンポジウム 2025.4.29 参加者アンケートの意見から図書館へのパブリックコメント ・建設場所について、市議会特別委員会の提言「決定に当たってはその経過及び理由を明確に示し、市民の理解が得られるように努めること」を守っていないから、下記の意見が多くある。 ・どんどん市の都合で決まっていく、駅前を強引に決めたりするのに納得いきません。市民の税金をどんどん使うのも納得いきません。全市民へ、立地場所や図書館で何が大切なのか、アンケートをとってほしかった。 ・市民の声が届かない市政のやり方にすごく怒りを感じます。住民の意見を市長は聞くべき！建設予定地の選定プロセスは明確にしてほしい。 ・市当局の駅前決定に対する理由に納得できない。結論ありきで決められたように感じられる。 ・市民があやふやでよくわからない状況なのに決まってしまうのは良くないと思いました。 ・10300 筆の署名を受け取り、重く受け止めているのであれば、もっと市民の声を取り入れてほしい。駅から徒歩で来れる病院跡地が景観の面においても望ましいのではないか。 ・未来を見据えると、病院跡地をぜひ選んでいただきたい。勝手に一方的に決めようとしていませんか？このような形で駅前に決定すれば、市民の不満が、納得する説明と姿勢を見せないと汚点となるでしょう。	シンポジウム参加者アンケートの意見については次のとおりです。 建設候補地の選定にあたっては、主な質問への回答 16【これまでの市民説明会について】のとおり、令和 2 年 12 月 17 日付けで、花巻市議会新花巻図書館整備特別委員会から新花巻図書館整備にあたっての提言がありましたが、それ以降、新花巻図書館整備基本計画を作成するにあたり丁寧に市民説明会等を開催してきました。また、市広報や市ホームページでも新花巻図書館の検討状況等もお知らせしてきました。 なお、市民参画についても、「花巻市市民参画・協働推進委員会」が認めた 3 つの方法で進めており、その一つである市民説明会を開催しましたが、4 月 15 日大迫地域、4 月 16 日東和地域、4 月 17 日石鳥谷地域、4 月 19 日花巻地域の 4 か所で開催し、説明をしてきました。特に、花巻地域での説明会は 4 時間にもわたり、参加者の皆さんにもご負担をおかけしましたが、質問や意見をお持ちの皆さん全てそれらをお聞きしてお答えしてきたところです。 これまでの経緯については、主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおり、市議会や市民の皆さまにご説明して、必要な場合は予算を市議会に議決いただき事業を進めてきたところです。 アンケートについては、主な質問への回答 15【アンケートについて】のとおり、情報が不十分な場合適切な判断ができず、逆に多すぎてもそれを理解するのに時間を要するなど、判断が難しい質問に答えることは困難であると考えています。建設候補地を考えてもらう上では、必要な情報を共有し、理解いただいた上で考えていただく必要があったものであり、アンケートはそのような情報を理解していただいた上で実施することが困難と考えております。 選定プロセスについては、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおりですが、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 上記同様ですが、主な質問への回答 1【これまでの経緯】、2【市民会議について】のとおり、結論ありきで進めてきたものではありません。 上記のとおり、建設候補地の選定にあたっては、主な質問への回答 16【これまでの市民説明会について】のとおり、丁寧に市民説明会等を開催してきました。また、市広報や市ホームページでも新花巻図書館の検討状況等もお知らせしてきました。 なお、市民説明会を、4 月 15 日大迫地域、4 月 16 日東和地域、4 月 17 日石鳥谷地域、4 月 19 日花巻地域の 4 か所で開催し、説明をしてきました。特に、花巻地域での説明会は 4 時間にもわたり、参加者の皆さんにもご負担をおかけしましたが、質問や意見をお持ちの皆さん全てそれらをお聞きしてお答えしてきたところです。 署名については貴重なご意見ととらえており、主な質問への回答 5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込んでおります。 総合花巻病院跡地南側の道路は、大通りから総合花巻病院跡地までの間、現在歩道設置の整備をしておりますが、融雪装置は多額になるため設置できず、冬期間に駅から歩く方には負担になると考えております。 なお、総合花巻病院跡地に建設した場合の建物配置計画によれば、北側には土砂災害警戒危険区域等があるため斜面から距離をとる必要があり景観は期待できないと考えております。また、東側に隣接する花巻小学校は 2 階建て一部 3 階建てであり、その屋根や周辺の林により、早池峰山や東側の山並みは見えないと考えております。 主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおり進めて来たものであり、一方的に決めてきたものではありません。建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものです。 上記のとおり、建設候補地の選定にあたっては、主な質問への回答 16【これまでの市民説明会について】のとおり、丁寧に市民説明会等を開催してきました。また、市広報や市ホームページでも新花巻図書館の検討状況等もお知らせしてきました。 なお、市民説明会を、4 月 15 日大迫地域、4 月 16 日東和地域、4 月 17 日石鳥谷地域、4 月 19 日花巻地域の 4 か所で開催し、説

		・市民会議の結果の扱い方がおかしい。駅前建設の根拠にされた。(「どちらでもよい」という項目について) 教育委員会(福祉課の代表など)の判断を聞きたい。 ・JR とのやりとりの黒塗り文書を公にしてほしい。花巻の危機を感じる。(暮らしにくい町) ・将来のまちづくりの視点がなく、駅前と決めていることに失望せざるを得ない。禍根を残す。 ・駅前は「利権」があるのですか？市民にその疑問に答えてほしいです。 ・私も市民会議に参加しましたが、市長は一度も顔を出さず、反論や排除しない方法で、自分の気持ちは伝えられませんでした。病院跡地に皆さんが集めた署名は無駄にたくありません！市長は理解していますか？ ・民主主義は花巻にあるのか、税金をムダ遣いしない、 ・病院跡地、まなび学園用地がありながら、何故無駄な金を使うのか？個人の家庭なら、まったく考えられない。我々のお金、税金を無駄に使うな。 ・住民が減少しているのに借金をする必要がない。	明をしてきました。特に、花巻地域での説明会は4時間にもわたり、参加者の皆さんにもご負担をおかけしましたが、質問や意見をお持ちの皆さん全てそれらをお聞きしてお答えしてきたところです。 市民会議での「どちらでも良い」については、主な質問への回答4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、各視点・分類において、病院側が良いか、駅前が良いか、どちらの場所の方が良いと思うかを尋ねた質問での回答であり、双方の場所について甲乙つけがたい場合の回答と理解しております。 教育委員会には、基本計画試案や試案検討会議の状況、建設候補地の検討、市民説明会の開催状況、意見集約の実施など進展に応じて、教育委員会協議会へ報告し協議の上で進めております。なお、令和7年3月21日には、教育委員の皆さんの意見を聞き、教育委員の了承を経て基本計画(案)とし、令和7年5月19日に開催される教育委員会議の議決をいただいて、基本計画となります。 情報公開文書については、主な質問への回答17【情報公開文書について】をご参照ください。 主な質問への回答1【これまでの経緯】のとおり進めて来たものであり、一方的に決めてきたものではありません。建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものです。 1－2 新花巻図書館整備の必要性において、「近年の人口減少により市街地の停滞が大きな課題となっています。市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」と記載しているほか、4 新花巻図書館整備の基本方針において、「情報を地域や産業の創造に結びつける施設として、まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」とも記載しており、駅前の建設候補地はこれらの記載にも即しているものと考えております。 利権については、意味がわかりかねますが、駅前に建設することによって何か利権を得ることはありません。 市民会議は、対話による意見集約を図ったもので、市民会議に出席した方からは、自分とは違う意見を聞くことができて良かった、有意義な会議だった、など前向きな意見が多くありました。 署名については貴重なご意見ととらえており、主な質問への回答5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込んでおります。 建設候補地の事業費については、主な質問への回答10【事業費について】のとおり、図書館整備に要する概算事業費について、比較調査では総合花巻病院跡地の場合は約36.3億円、JR花巻駅前については約39.9億円となっておりますが、国庫補助金や合併特例債を活用することを想定しております。その結果、建設時における財源としては、総合花巻病院跡地に建設する場合には、国の補助金最大15億円、合併特例債20.2億円、市の一般財源1.1億円の合計約36.3億円、JR花巻駅前に建設する場合には国の補助金最大15億円、合併特例債23.6億円、一般財源1.3億円合計約39.9億円を想定しているところであります。 設計及び工事の時点で市がその一般財源から拠出する金額は総合花巻病院跡地に約1.1億円、JR花巻駅前に建設する場合には土地購入代金を含めて1.3億円に留まります。残りは国の補助金及び市債である合併特例債を発行し資金を調達することになります。 合併特例債の返済期間は建物の償却期間などを勘案し決めることとなりますが、花巻市が今まで発行した合併特例債の多くの場合は市債発行から3年据え置き、その後12年間の返済期間とすることが多く、新花巻図書館建設についても同様となると見込まれます。 合併特例債の返済元本・金利の70%は国からの交付税措置が受けられます。従って、市が市の財源で負担するのは設計及び建設時に一般財源から拠出する金額と合併特例債の元本・金利の合計額の30%にとどまりますので国から補助金が制度上最大となる15億円になった場合、市が市の財源で負担する金額は、総合花巻病院跡地の場合は7.2億円、JR花巻駅前の場合は、8.4億円となります。なお、総合花巻病院跡地の場合には当該土地購入代金約3.2億円を上記概算事業費に算入しておりませんが、総合花巻病院跡地を新図書館建設地として選択した場合、前述の通り、市の土地資産約3.2億円を新図書館建設事業に投じることとなることから土地購入代金3.2億円を概算事業費に算入することが比較の観点からは妥当と考えます。土地購入代金を概算事業費に算入すると両者の差はほとんどなくなります。 また、新花巻図書館の年間運営費は図書購入費も含めて約2億円を見込んでおります。これについては、今後の財政状況によっては減額をするなど検討が必要な時期もでてくる可能性はありますが、多くの市民に利用していただける施設にするべきだという観点は重要だと考えます。
--	--	---	--

	・建設候補地の選定で、駐車場などについて ・車社会である中、交通の利便性は駅前は良くないと思う。駅前は使いづらい。子どもを連れて安全ではない。 ・駅前図書館建設場所としては最もふさわしくない。うるさい、緑がない、落ち着かない、駐車場の問題。そもそも駅は市の金で東西道路をつくる計画が進んでいる。それとの関係はどうなっているのか。駅前再開発計画との関係も必要だ。 ・人口減少が著しい中、または車社会の中、ゆったりとした駐車場があり、広い敷地環境の中に、図書館の他に施設ができるようにしていけたら良いと思う。 ・希望の立地は花巻病院跡地です。駅からの便が自分のいる東和から遠い。バス便悪いので整備してほしい。 ・新図書館整備基本方針に最もふさわしいのは、病院跡地であるとの意見 ・文化学習の核施設ともいえる図書館は、花巻市生涯学習都市会館（まなび）に隣接した場所こそふさわしいと思います。少子高齢化が進む中であって、「若者」だけの意見を重視せず、高齢者の声も聞いてほしいと思います。	現在の花巻図書館は、公共交通の利便性が高くないため、車の利用者や近所の方でないと行きづらいという課題があり、新しい図書館は多くの皆さんに利用される図書館を目指しているところです。 市民会議においても、交通事故についての危険性の意見があり、警察署にお願いし資料をいただきました。それについては、交差点によって違いはありますが、双方の候補地で大きく差があることはない状況であり、そのような市民会議においての疑問に対して提供した資料については、ホームページに掲載しています。 https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/1014033/1022321.html ※花巻市ホームページ「新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議」 うるさいことについては、主な質問への回答 11【騒音について】のとおり、近年建設される図書館はグループで話ができるエリアや、音楽を流しているような図書館もあります。一方で、防音室のような、まわりからの音を遮断した静かな部屋も設ける例も多く、新しい図書館でも同様の静かな部屋の設置を計画に記載しています。 緑については、芝生広場の設置も検討しています。主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり、病院跡地について、木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。総合花巻病院跡地においても図書館を２階建てとすることを前提として芝生広場を設置し、樹木を植栽することは可能と考えますが、城跡の堀部分や北側は急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されているため、堀より下側の平地も含めて外庭などを設置する自由度はありません。 また、駐車場については、主な質問への回答 9【駐車場について】のとおり、駐車場について危惧される方も多かったことから、「花巻駅前」では利用しやすい駐車場の確保に努めたいと考えております。 花巻駅橋上化・東西自由通路との関係については、主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおり、平成 29 年 8 月に図書館建設にあたっての根幹となる構想「新花巻図書館整備基本構想」策定の段階では、総合花巻病院の跡地を含む「生涯学園都市会館（まなび学園）周辺への立地と及び駅前への立地の可能性も考えて、「新花巻図書館整備基本構想」には建設場所について特定の場所を定めず「候補地を数箇所選定した上で基本計画において場所を定める」としたものです。 図書館の建設場所を考えた時に、現図書館は交通の便がよくなり利用者の年代割合に偏りがあるなど課題がみえ、これらの課題解決をするために検討を進め、駅前を候補地の一つとしたものであり、その時点で、花巻駅橋上化は決定しておらず、橋上化のために花巻駅前を候補地にしたものではありません。 なお、駅前再開発計画との関係とは、ご質問の趣旨が分かりかねますが、市としては図書館と J R 花巻駅橋上化・東西自由通路を整備することは、まちの活性化という観点などから望ましいと考えております。 駐車場については、主な質問への回答 9【駐車場について】のとおりですが、どちらも車両の駐車幅は同じです。必要な場合は幅を広くすることも検討します。 図書館の施設配置については、病院跡地は東側の堀跡や北側に急傾斜崩壊危険区域や土砂災害崩壊危険区域があるため、他に施設を建設するスペースはありません。 駅前の方が、バスや電車、公共交通機関が充実していると考えます。 建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということ考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 駅前においても、サークル活動や学習活動、様々なイベントを行っているなはんプラザが隣接しています。 若者だけの意見を重視したわけではなく、市民会議に申し込みいただいた方は、10 代 11 人、20 代 12 人、30 代 12 人、40 代 8 人、50 代 10 人、60 代 16 人、70 代以上 6 人、合計 75 人であり、40 代と 70 代以上は若干少ないものの、60 代が最も多く、各年代とも同程度の人数の皆さんにお申込みいただいたと考えております。従って市民会議においては、広い世代の皆さんの意見を聞くことができたと考えております。
--	--	---

	・静かな所でゆったりとした所にほしい。子どもも年配者も集える所に。 ・利便性だけでなく、子ども、親子にもやさしい立地環境を希望します。図書館は静かな環境が必要！ ・自然豊かで静かな場所に新図書館を強く望みたいです。 ・生涯学習の隣接、江戸時代から古城跡地、遠望景観、どう考えてもここしか図書館設置場所はない。 ・基本方針の中の「学び、文化を育む施設」として「すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館」や生涯学習の重要性に鑑みれば、まなび学園に隣接した病院側は理想郷である。 ・環境・理念からいっても駅前是不適。広い場所、駐車場が必要。そして図書館は本だけでなく、講演会や音楽会もやれる場になってほしい。車イスで出かけることのできるような場所であってほしい。 ・施設について ・本を読める、楽しめる図書館を望みます。 ・せっかくお金をかけて新設するのだから、待合的機能より、のんびりと読書や、学習できる所にしてほしい。 ・これからつくる図書館ではバリアフリーが絶対です。自然豊かな花巻の地、宮沢賢治ゆかりの地に立つ図書館は、木造（全てでなくても）ゆったりくつろげるスペースを望みます。緑もなく狭い駅前は憩いの場にはふさわしいとは思えません。 ・建物も木造イメージした…とありますが、本物の木造建築にしてほしい！場所も建物もいかさまではあまりにも市民をバカにしていると思います。 ・病院跡地は見晴らしが良くて心地いい場所です。高校生のアンケートもですが、回	静かな所については、上記及び主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおりですが、子どもも大人も、あらゆる年代の方々に利用してもらう図書館を目指しています。 静かな環境については、主な質問への回答 11【騒音について】のとおり、近年建設される図書館はグループで話ができるエリアや、音楽を流しているような図書館もあります。一方で、防音室のような、まわりからの音を遮断した静かな部屋も設ける例も多く、新しい図書館でも同様の静かな部屋の設置を計画に記載しています。 自然豊かについては、駅前については芝生広場の設置も検討しています。主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり、病院跡地について、木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。総合花巻病院跡地においても図書館を2階建てとすることを前提として芝生広場を設置し、樹木を植栽することは可能と考えますが、城跡の堀部分や北側は急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されているため、堀より下側の平地も含めて外庭などを設置する自由度はありません。 病院跡地の上部平坦地は花巻城の区域ではありませんが、東側の谷部分は花巻城の堀跡です。その病院跡地の東側斜面の北側一部については、花巻城跡調査保存検討委員会から保存が求められており建物等を建設することはできません。また、病院跡地に建設した場合の建物配置計画によれば、東側に隣接する花巻小学校は2階建て一部3階建てであり、その屋根や周辺の林により、病院跡地からは早池峰山や東側の山並みは見えないと考えております。 駅前においても、なはんプラザがあり、サークル活動や学習の場にも使われています。市民会議においては、双方の候補地の条件やメリット、デメリットを出し、お互いに対話しながら図書館の場所についてどちらがいいか考えていただいたものです。 駐車場については、主な質問への回答 9【駐車場について】のとおり、駐車場について危惧される方も多かったことから、「花巻駅前」では利用しやすい駐車場の確保に努めたいと考えております。 基本計画（案）においては、多目的に活用できる多目的ギャラリーを設置することを記載しておりますが、駅前であれば、なはんプラザにコムズホールもありますので、講演会や音楽会などの開催も図書館と連携して可能になると考えます。 4 新花巻図書館整備の基本方針には、◆すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館として、「読書はもちろんのこと、くつろぎの場でもあり、交流の場ともなる施設とします。」と記載しております。 基本計画案には、静かに学習、閲覧をするための部屋として、防音に配慮した、学習スペースの設置についても記載しております。 6 新花巻図書館の施設と規模には、（1）ユニバーサルデザイン（バリアフリーへの対応）を記載しております。 また、主な質問への回答 7【宮沢賢治について】のとおり宮沢賢治については、双方の候補地ともゆかりがあると認識しております。 宮沢賢治に関しては、いろいろな考えや意見をお持ちの方がいると思います。資料の充実、宮沢賢治イーハトーブ館の資料も検索や閲覧ができるように検討するなど、ソフト面でも宮沢賢治出身地ならではの図書館となるよう基本計画案に記載しているところであり、そのことは総合花巻病院跡地または駅前に立地するかによって異なるものではありません。 木造については、主な質問への回答 13【木造について】のとおり、通常の木造建築は耐火建築物となりませんので、貴重な書籍などを保存する機能のある図書館として通常の木造建築は適当でないと考えます。耐火の観点から問題のない範囲においてとはなりますが、コストの点で受け入れ可能な範囲で市内で伐採される木材を利用して、できるだけ内装の木質化を検討したいと考えています。 見晴らしについては、花巻小学校が東側にあり、東側の山並みなどを眺めることは難しいと考えます。
--	---	---

		覧板で家庭の意見、若者からパパママ世代、高齢者までアンケートをしてはどうか、市民参加の図書館づくりを願うばかりです。 ・花巻市のこれから 30 年、50 年、100 年先をよく考えて、後ほど後悔しないようにすることと思います。花巻市にしかない図書館を考える。	アンケートについては上記のとおりですが、主な質問への回答 15【アンケートについて】のとおり、情報が不十分な場合適切な判断ができず、逆に多すぎてもそれを理解するのに時間を要するなど、判断が難しい質問に答えることは困難であると考えています。 宮沢賢治をはじめとした多くの先人を輩出した本市の図書館として、特徴ある図書館をなると考えており、そのことについては、基本計画（案）に記しております。 建物の設計については、本基本計画（案）に即して設計者に考えていただくことになります。
79	7 建設場所	わざわざ建設費用が高い駅前に設置するというのは納得できない。自然環境がよく、ホッとできる場所に建設してほしい。電磁波などの影響のない、病院跡地の方がいい。なはんプラザなどを利用するときには有料駐車場で、図書館利用の時は無料にすること、ゲートや無料券の発券など、運営費がかかるのでくない。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 駅前についても、緑や自然については、芝生広場を設置することも考えてきたところです。 なお、病院跡地についても主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。 花巻駅西口の変電設備の電磁波については、主な質問への回答 12【電磁波について】のとおり、WHO（世界保健機関）が電磁界の健康リスクについて専門家による検証を行い、それに基づき、中立的な国際組織である国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が平成 22 年（2010 年）に策定した、電磁波からの人体防護に関するガイドラインでは、一般の人への制限値を 200 マイクロテスラとしています。変電設備の磁界の強さは東北電力ネットワークによると花巻駅西側の変電設備も含めて一番強い箇所で 9 マイクロテスラ程度とのことで、ガイドラインで定められた 200 マイクロテスラと比較して大きく下回っており、変電所施設周辺については健康に影響するレベルではないということになります。さらに電磁波は東北電力ネットワークによると、距離の二乗から三乗に反比例し、距離に応じて急激に弱くなる性質があり、駅前の候補地では限りなくゼロに近いものになると説明されています。 病院跡地においても無断駐車を避けるにはゲートの設置が必要であり、病院跡地については、東側の堀に続く斜面や堀部分の草刈りなどの維持管理経費も必要になります。
80	7-3 建設候補地の選定	新図書館について今の今まで関係のないような立場でしたが、昨年の秋頃から最近まで、新花巻図書館を考える会の方からお話しをいただいてシンポジウムに登壇して自分の考え(京都や尾道など地元の文化を知って歩きたくなるような町づくりが為されているところを見てきた上で、合併で大きくなった花巻をみたときに自然と花巻病院跡地が良いと思ったこと等)や初めて入った議員会館での市議との話し合いの場や、それこそ初めて生で見た今年の 3 月の市議会などを通して参加してみて、新しい花巻図書館についての市長・市側と市民団体側の話し合いを見てきました。おかしなところも見てきました。特に、場所についてですが、市民会議に 4 回参加した当演劇部の部員(県外出身者)の感想も聞いた上で、それまでの話し合いの場には地元メディアは皆無、不在でしたし、市議会での市長の話ではまだ答えは出さないといいながら、まもなくして地元の岩手日日に市の方針いわゆる場所が決定したという旨の記事が一面に出され、そのあとの市の広報もすばやく出されました。時間的に、おかしいです。納得できません。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものです。 令和 7 年 3 月議会の一般質問における答弁の段階では、市民会議の結果の分析を進めていたところであり、まだ答弁において建設場所についての方向性はあるもののそのことを確定的に述べることができない状態でした。3 月 6 日に「新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議結果について」の議員説明会を開催しましたが、議員説明会の説明資料は当日の朝にようやく完成した状況でした。市民会議終了後その結果の分析及び議員説明会資料の作成はもっと早くできるとの見通しで当初議員説明会ももっと早く開催することも検討しておりましたが、準備の遅れに備え、その開催を 1 週間以上延期することとしたものでしたが、このことについては見通しの甘さがあったものと反省しております。 議員説明会では、市民会議の意見を参考にして建設候補地を花巻駅前の JR 用地とすることを説明しました。その後、市民にもできるだけ早くお知らせするために、広報はなまきの原稿を調整の上、3 月 10 日に校了し、同日に印刷業者にデータで送付しています。なお、現在、市の広報はなまきの原稿については、市役所内（広報情報課）で原稿を編集しデータを印刷業者に送付していることから、3 月 15 日の広報として十分間に合うものです。
81	7 建設場所	・他施設との連携は、跡地の隣に生涯学習施設と子どもセンターが入っているまなび学園があることは、凄いメリットである。赤ちゃんのブックスタートから、高齢者はまなびと図書館で現役引退後の生涯学習ができ、元気に健康でいると医療費削減にもなる。親が老後も楽しく暮らせるまちは、U ターンや移住者・定住者を増やすことにつながる。 ・市の駅前決定に異議あり。市民が 1 年かけて説明して集めた跡地の署名（全国約 10300 筆、花巻市民約 7000 筆）よりも、無作為で集めた 65 名の市民会議を重視するのはおかしい。更に市民会議の 10 項目をよく分析すれば、「どちらでもいい」が多く、「病院跡地」と「駅前」は半々になる。むしろ花巻らしさや特性を重視すれば、「跡地」の方が多い。これは市が駅前に誘導する間違った分析と思う。図書館は商業施設でないから、「活性化」を図書館で駅前の活性化は難しく、まちづくり全体で見	ご意見として承ります。駅前においても、なはんプラザがあり、様々な事業で連携がとれると考えております。 建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものです。 署名については貴重など意見ととらえており、主な質問への回答 5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込んでおります。 市民会議のヒアリングシートについては主な質問への回答 4【市民会議とヒアリングシート】のとおりですが、「どちらでもいい」とする意見は、自由記述欄を見ると消極的な意味ではなく、対話を重ねた上で導き出されたもので「どちらに建設してもいい図書館

	れば、商店街や市街地を散策する観光と賑わいを創出する活性化は跡地の方にある。	になる」という積極的な意見であるととらえております。 重要視された上位 5 分類ごとに候補地の選択で最も人数が多かったものとその人数は、一番上位からアクセス「明らかに駅前」42 人、活性化「明らかに駅前」27 人、安全「どちらかといえば駅前」25 人、周辺環境「どちらかといえば駅前」21 人、駐車場「どちらかといえば病院側」24 人となっています。以上から、上位から 4 分類で駅前が評価されているということです。 上位 5 位に位置付けられた駐車場については、病院跡地が評価されていることから、駐車場の整備にあたって利用されやすい駐車場の確保に努めます。 なお、参加者が重要視した「視点・分類」の 6 位以下は、費用については「どちらでもよい」27 人、他施設との連携については「どちらでもよい」26 人、土地については、「どちらかといえば病院側」16 人、文化・歴史については「どちらでもよい」30 人、防災については「どちらでもよい」28 人、となっております。 10 の「視点・分類」全体で見した場合においても、重要視された 5 分類の「視点・分類」については上位 2 分類の活性化及びアクセスについては「明らかに駅前」、それに次ぐ 2 分類の周辺環境及び安全については「どちらかといえば駅前」、駐車場及び土地については「どちらかといえば病院側」、それ以外の「視点・分類」の分類の、費用、他施設との連携、文化・歴史、防災については「どちらでもよい」を選んだ人が最も多かったところであります。 賑わいや活性化という観点については、平成 29 年 8 月に定めた新花巻図書館整備基本構想において「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており、市民会議の皆さんが賑わいや活性化という観点を重視したことについては、新花巻図書館整備基本構想に即していると考えております。ヒアリングシートにおいても、「図書館を中心として活性化できると思う。」「図書館が建つことで人が集まり活性化することを望んでいる。」「花巻がもっと住みやすい街であってほしい。もっと変わってほしいという願いがある。」「街のシンボルになってほしい。」などのご意見をいただいております。 なお、「「活性化」を図書館で駅前の活性化は難しく、まちづくり全体で見れば、商店街や市街地を散策する観光と賑わいを創出する活性化は跡地の方にある」とのご意見はご意見として承ります。
	・駐車場について。駅前で駐車場がゲート式は使いづらい。なはんプラザのイベント時は満車になり、図書館利用者が使えなくなる。障がい者などの駐車スペースを近くにして、健常者でも子ども連れや高齢者は道路を渡って行くことになるのか？図書館から遠くなると使いづらい。図書館非利用者が図書館で無料券だけもらう対策はどうするのか。ゲート式は、維持費や修理費が発生するのも余計な税金の無駄遣い。跡地ならばゲートなしで、花巻まつりや花火大会の市民の駐車場にも利用できる。今までイトーヨーカドーの駐車場を市の行事で満車にして、買物客が停められない状況だった。市は民間におんぶにだっこで何も駐車場対策をとってないのかという質問に、仮に図書館が跡地になっても祭りなどの駐車場は市民に使用させないという回答はひどすぎる。何も市民のことを考えていないんだとガッカリである。	駐車場については、主な質問への回答 9【駐車場について】のとおり、「花巻駅前」では利用しやすい駐車場の確保に努めたいと考えております。 駅前に図書館を建設した場合においても、高齢者の方が駐車しやすいという観点を考え、立体駐車場ではなく平面駐車場とするとともに、特に図書館の建設予定地に近いところには、高齢者、障がいのある方、乳幼児連れの方々の優先駐車場を設けることとしていくところであり、駐車場の利用について不便のないように考えております。 駐車台数の目安ですが、前述した比較調査において、新花巻図書館に必要な駐車台数の目安はおよそ 120 台としています。現在の駐車スペースですが、 JR 花巻駅東口には、花巻駅南第 1 駐車場 60 台、第 2 駐車場 121 台、合計 181 台の駐車スペースがあり、また、調査したところ日常的に 60 台程度の空きがあります。そこで整備にあたっては、現在の JR 東日本所有地である図書館建物隣接地におよそ 38 台の駐車場を整備する予定としており、また、なはんプラザ南側の第 2 駐車場は、JR 線路に隣接する市道の一部を廃止し、60 台の駐車スペースを増設することにより、第 2 駐車場は 181 台に増設する予定としております。図書館の駐車スペースとしては、図書館建物隣接地 38 台、第 2 駐車場増設分 60 台、第 1 駐車場及び第 2 駐車場の空き 60 台を合わせ、合計 158 台の駐車スペースを確保することになります。現状より 98 台駐車台数が増加することから、図書館で 90 台以上使用している場合以外の多くの場合においては、イベントで使える駐車場が増える効果があると考えております。なお、図書館建物隣接地の最大 38 台分を高齢者、障がい者、乳幼児連れの方々が優先的に利用できるようにし、その他の図書館利用者も無料で駐車場を利用できるシステムを導入したいと考えております。 「ゲート式は、維持費や修理費が発生するのも余計な税金の無駄遣い。跡地ならばゲートなしで、花巻まつりや花火大会の市民の駐車場にも利用できる。今までイトーヨーカドーの駐車場を市の行事で満車にして、買物客が停められない状況だった。市は民間におんぶにだっこで何も駐車場対策をとってないのかという質問に、仮に図書館が跡地になっても祭りなどの駐車場は市民に使用させないという回答はひどすぎる。」については、どのような意味かわかりかねる部分はございます。 主な質問への回答 6【総合花巻病院跡地について】のとおり、総合花巻病院跡地については、立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。 跡地を図書館の建設場所にしない場合に、跡地の具体的な活用どうするかについての考えは固まってははいないところでありますが、市議会においては、新しい市役所の用地としての活用、子育て施設としての活用などの可能性も考えられることを示したところ です。

		当該土地を活用するについては、市民の皆様はその活用方法についてご意見を聞く必要がありますが、それぞれの公共施設建設の必要性に応じ建設すべき時期などが異なることから、決定までに相当長い時間がかかることも予想されるところであります。 仮に当該土地をどのように利用するか決定するまで長期の期間が必要だとなる場合には、それまでの期間について、花巻市中心部において不足している駐車場あるいはイベント会場として臨時的に活用することも考えられると思います。
	・新花巻図書館整備基本構想の基本方針、「郷土の歴史と独自性を大切にし、～」「すべての市民が使いやすい」「自然や周辺に調和した明るくゆったりしたスペース」「市民の生涯学習を支援」は駅前よりも跡地が全く適している。駅前には緑がないから芝生というが、なはんプラザのイベント時や消防車が入れないので困ると聞いている。ならば屋上庭園にするというが、緑豊かな花巻でわざわざ屋上に庭園を造るなんて考えられない。その経費・維持費もかかる。 ・駅前には狭いので3階建ての案も出ているようだが、フラットな1階で本が読めるようにしたい。あの狭い駅前のコンクリートの空間で3階建ては圧迫感がある。	市は駅前のJR所有地に2階建てまたは3階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を3階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にどもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。なお、病院跡地についても主な質問への回答8【病院跡地の緑について】のとおり木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。 建設候補地の事業費等を比較検討するため、令和6年に、コンサルタントに委託し「新花巻図書館建設候補地比較調査」を行いました。その調査では、図書館を3階にする場合についても事業費の検討をしております。 当該調査において、基礎工事を除く図書館本体の整備費用は、他自治体の図書館の工事実績から、階数や構造別に平均単価を求め、さらに物価変動分を補正した上で、新花巻図書館の計画規模4,500㎡を乗じて算出をしておりますが、2階建てと3階建てとした場合の平均的な単価の導出においてコンサルタントでは、「3階建てのほうがやや高くなる結果を得たが、実際の平面プランや導入設備によって変動するため、現段階でその費用差を想定することは難しい」とのことから、同額としております。 その上で、基礎工事については、2階建てを3階建てとした場合に面積当たりの重量が増えるため、基礎1か所当たりの工事費用は増額となる可能性があります。一方で、基礎箇所数が減少することから基礎工事費は、3階建ての方が安価になると現時点では想定しております。 また、3階建ての場合は、駅前多目的広場にある既存融雪設備への影響を最小限に抑えることができるため、融雪設備の改修費用は、2階建ての場合と比較し、約6千万円程度の削減ができると考えられます。 以上のことを踏まえ、図書館本体の階数の違いによる建築費への影響については、今後の設計のなかで、具体的に検討して参りたいと考えております。 なお、病院跡地においても1階建ての配置を検討いたしましたが、そのような場合は十分な駐車スペースがとれなかったところ です。
	・周辺環境について。実際に駅で具合が悪くなる人がいる電磁波の問題を何度も言っているが、基準値以下というデータばかりを出してきても、化学物質過敏症や敏感な少数弱者のことは考えていないようで、図書館利用者から除外されている。幼児、子ども、障がい者も気軽に利用できる図書館を目指すならば、電磁波のリスクがある駅前はやめてほしい。	花巻駅西口の変電設備の電磁波については、主な質問への回答12【電磁波について】のとおり、WHO（世界保健機関）が電磁界の健康リスクについて専門家による検証を行い、それに基づき、中立的な国際組織である国際非電離放射線防護委員会（ICNIRP）が平成22年（2010年）に策定した、電磁波からの人体防護に関するガイドラインでは、一般人への制限値を200マイクロテスラとしています。変電設備の磁界の強さは東北電力ネットワークによると花巻駅西側の変電設備も含めて一番強い箇所です。9マイクロテスラ程度とのことで、ガイドラインで定められた200マイクロテスラと比較して大きく下回っており、変電所施設周辺については健康に影響するレベルではないということになります。さらに電磁波は東北電力ネットワークによると、距離の二乗から三乗に反比例し、距離に応じて急激に弱くなる性質があり、駅前の候補地では限りなくゼロに近いものになると説明されています。変電所施設周辺については健康に影響するレベルではなく、駅前の候補地では限りなくゼロに近いものになるとのことです。
	・列車の振動や騒音の問題も何度も指摘したが、防音の部屋をつくるという回答だけ。その防音室以外は多少うるさくてもいいということか？図書館全体が静かに本を読める空間ではない。なはんプラザで勉強したが列車の音や振動がうるさくて集中できないと、今春東北大医学部に合格した高校生の親から聞いた。駅前に反対する高校生も多いという。貨物列車の通過が増えて、警笛音がかなりうるさいと線路際の住民は言う。	振動や音については、主な質問への回答11【騒音について】のとおり、近年建設される図書館はグループで話ができるエリアや、音楽を流しているような図書館もあります。一方で、防音室のような、まわりからの音を遮断した静かな部屋も設ける例も多く、新しい図書館でも同様の静かな部屋の設置を計画に記載しています。全国的に見ても多賀城市立図書館、名取市図書館、酒田市直立中央図書館、南相馬市立中央図書館、土浦市立図書館など、線路に近い図書館は多くあります。 那須塩原市の図書館は東北本線黒磯駅前にあり、新幹線の高架が近接しています。また福島県白河市の図書館も、駅に近く東北本線に接していますが、線路側にガラス窓があって閲覧席が設けられています。これらの図書館に問い合わせたところ、騒音については問題ととらえておらず、専門家の意見では設計段階で工夫することは十分可能だとの見解もあります。 子どもが騒ぐことを恐れ、子ども連れの方が図書館に来ることを遠慮する、どうしても大きな声を出してしまう方が遠慮する、ゆっくり仲間とおしゃべりすることも遠慮する、そのような図書館ではなく、子どもや障がい者、高齢者まで、たくさんの人に活用し

		・北上図書館も水沢図書館も緑豊かな環境で窓から緑の景観が見える気持ちがいい図書館なのに、新花巻図書館を駅前につくれば、窓は開けられない閉塞的空間で、基本方針の「読書はもちろんのこと、くつろぎの場」にならない。 ・以上のメリットデメリットから、病院跡地が花巻の図書館に最適地である。多額の予算で比較調査までして跡地が安いことがわかったのに、更に市民会議でアンフェアな結果分析をした市当局のやり方に不信感を募らせている。 ・なぜこれだけデメリットの多い駅前につくりたいのか。その明確な理由を市長の口から聞きたい。言えない利権が絡んでいるのではとみんな不審に思っていることを知らぬふりしている？市民会議に責任を押し付けていないか。	ていただく図書館を目指すものです。ただし静かに本を読みたい人のための部屋も、しっかり防音した部屋を準備したいというものです。 駅前についても、緑や自然については、芝生広場を設置することも考えてきたところです。 病院跡地についても主な質問への回答 8【病院跡地の緑について】のとおり木々などの緑があるのは東側の花巻小学校の林や、隣接するまなび学園北側の林であり、市民会議に参加した皆さんの意見としては、緑や自然が必要だとする意見の方がある一方、市内には緑や自然が多いので図書館には自然が必要とはいえないのではないかなどのご意見もありました。 振動や音については、上記のとおりですが、主な質問への回答 11【騒音について】に記したとおり、駅前に整備された図書館も多く、福島県白河市の図書館も、駅に近く東北本線に接していますが、線路側にガラス窓があって閲覧席が設けられています。問い合わせたところ、騒音については問題ととらえていないということです。 参加者からのヒアリングシートにおいては、「色々な方々のご意見を聞くことができてよかったです（特に若い方々のお話が聞けて良かった）。」や、若い世代からも「年代が違う人の意見も聞けたのは良かった」などの意見があり、「ワークショップのやり方がよかった。」「市民会議をやってよかったと思う。」「ファシリテーターの振興が素晴らしかった。」「できるだけ多くの意見を集約し、市が決定する判断材料にするという位置づけは好感が持てました。」「判断材料になればと思う。」などの感想が寄せられ、尊重すべき意見が得られたと認識しております。 上記のとおり、市民会議で出された意見は市が定めた「基本構想」に合致していると考え、建設候補地を選定したものです。利権が絡んでいるという意味が理解できませんが、そのようなことは一切ありません。
82	7 建設場所	花巻市で計画されている新しい図書館については JR 駅前と旧花巻病院の候補地があり、旧花巻病院跡地への立地を求める声が多いにもかかわらず（署名が 1 万筆以上）、JR 駅前に建てようとする動きに大きな違和感を感じます。 駅前になんでも集めようとする発想はすでに時代遅れです。 今後 50 年、100 年先のことを考えたときに、早池峰山を望むことができ、車でのアクセスが良く、広々とした空間の中にある図書館の方が大きな可能性と夢をもっていると感じます。 その図書館を中心に周辺には新しいお店もできるかもしれません。 人が散策できるエリアになるかもしれません。 さまざまなマルシェ、イベントが開催できるかもしれません。 県外から人が来て交流人口が増えるかもしれません。 小さな子供がいる私家族はそこに行きたいと胸を躍らせます。 しかし駅前にはそのポテンシャルがありません。場所が良くありません。 それでも駅前にこだわり続けるなら、これは上田市長の視野の狭さ、「今ここのだけ」良ければいいという発想であると認識します。 人口がどんどん減り、大型店も撤退し、ますます寂しくなる街中。 宮沢賢治ゆかりの地として、もっと思慮深く、芸術性を備えた、文化、文学の街としてどこの誰もが「花巻は素晴らしい」と惚れるような場所を作って欲しいものです。 旧花巻病院跡地にはその可能性は秘められています。 駅前は残念ながらその可能性はありません。 どうぞ一つの意見として真剣に受け止めていただければ幸いです。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 署名については貴重な意見ととらえており、主な質問への回答 5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込んでおります。 市民会議では、参加者の皆さんがメリットやデメリット、デメリットの解決策について話し合う中で多角的な視点から建設候補地について考察していただいたものと考えております。市民会議では、平成 29 年 8 月に策定された「新花巻図書館整備基本構想」に定める基本方針を説明し、その基本方針が今回策定された「新花巻図書館整備基本計画」案に基本方針として記載されて いることについてもご説明しております。会議の中で求められた疑問等については、市から資料をお示ししたところでありますが、両候補地について客観的な資料を出したと考えております。なお、それらの資料についてはホームページで公表しております。 https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/1014033/1022321.html ※花巻市ホームページ「新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議」 市民会議では、皆さんがどちらの候補地が望ましいか自由に意見を述べるなど対話を繰り返す中で、それぞれ個人の意見を最終的にヒアリングシートに記載していただいたものであり、それを参考にして市が候補地を選定したものです。 ファシリテーターも第三者的な立場の方として山口教授をお願いし、中立的な立場から司会進行をしていただいたと考えております。 参加者からのヒアリングシートにおいては、「色々な方々のご意見を聞くことができてよかったです（特に若い方々のお話が聞けて良かった）。」や、若い世代からも「年代が違う人の意見も聞けたのは良かった」などの意見があり、「ワークショップのやり方がよかった。」「市民会議をやってよかったと思う。」「ファシリテーターの進行が素晴らしかった。」「できるだけ多くの意見を集約し、市が決定する判断材料にするという位置づけは好感が持てました。」「判断材料になればと思う。」などの感想が寄せられ、尊重すべき意見が得られたと認識しております。 自分と違う意見を聞くことが有意義だったとする意見も多く、「意見の変化があった」「自分にない考え方で気づくこともあり、判

			断材料が増えた」「自身の意見に違いがあっても、全員が認め合う気持ちがあってよかった」など、参加者の皆さんが真剣に取り組んでいただいたと考えております。 なお、病院跡地に建設した場合の建物配置計画によれば、東側に隣接する花巻小学校は2階建て一部3階建てであり、その屋根や周辺の林により、病院跡地からは早池峰山や東側の山並みは見えないと考えております。
83	7 建設場所	新花巻図書館整備基本計画案について、先月市はJRから土地を買う花巻駅前の方に建設すると発表しましたが、市長さんは旧花巻病院跡地の方へ集めた約10,300筆の署名にはきちんと目を通さず私も参加しましたが市民会議へ出た75人くらいの意見で予算の為に決めてしまったことに納得がいきません。大切な市民一人一人の声に耳を傾けてはくれないのでしょうか。 会議の中では反論しない、相手を非難しない等の約束で自分の気持ちはなかなか伝えられないような状態でした。結果は「どちらでもよい」と答えた人が多かったはずです。その後2つを検討すると言っていたのに何故すぐに病院跡地よりも高い花巻駅前の方へ建設すると決めたのでしょうか？スポーツ用品店の解体費用等含め土地を新たに購入するのは税金の無駄遣いになるのではないですか？市有地でもある花巻病院跡地に建てられない理由を説明して下さい。議員さんの中にも全員が駅前に賛成ではなかったし、どちらでもいいという意見はどうでもいいということにも受けとられます。自民党、社民党、公明党の派の方達が反対していると聞きましたが両方の会議の内容を確認したり、しっかり検討したのでしょうか？議員さんの皆さんにもお願いします。子供達のためにも50年後のことを考えどうか真剣に考えて下さい。 新花巻図書館は中央館としての役割を担う施設として市内全館との連携を取る為に多くの本や資料を収集し大切に保管できるスペースが広く必要です。基本方針に基づき、子供や高齢者、障害者全ての市民が親しみやすくバリアフリーで使いやすい自然や周囲に調和した子供たちも安心して本を読んだり学んだりゆったりとした心癒せる場所でなければなりません。それは駅前で可能でしょうか？無料券配布等せずとも駐車場等問題なく使用できる病院跡地の方がよいと私は思います。また駅前に建設しても町の活性化には直接繋がるとは思えません。利用したい人は電車を利用すると限らないし殆んど車を使って行くことでしょう。観光客が訪れても歴史を感じとれる花巻城址、宮澤賢治や高村光太郎にゆかりのある場所の方がよいのではないのでしょうか？盛岡や紫波等他とは違う是非花巻にふさわしい図書館にしてほしいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。 新花巻図書館について 先月、市はJRから土地を買う駅前の方に建設すると発表しましたが市長が旧花巻病院跡地の方へ集めた10,300筆の署名にきちんと目を通さずに私も参加しましたが市民会議へ集まった75人くらいの意見で決めてしまったことに納得がいきません 市民ひとりひとりの声に耳を傾けてはくれないのでしょうか 会議の中では反論したり相手を非難せずという約束で自分の気持ちは伝えられないような状態でした その後2つを検討すると言っていたのになぜすぐに病院跡地より高い駅前の方へ建設すると決めたのでしょうか？結果はどちらでもよいが多かったはず… 市有地でもある花巻病院跡地に建てれない理由を説明して下さい！ 駅前に建設しても町の活性化にはつながると言えない、観光客が訪れても花巻城跡でもある賢治や光太郎にゆかりのある場所の方がよいのではないのでしょうか？ 議員の皆さんどうか責任を持って真剣に考えてください	頂いた署名については、市長がすべての署名者を確認したわけではありませんが、署名は見えております。署名については貴重なご意見ととらえており、主な質問への回答5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込んでおります。 反論しない、非難しない、これは対話における心構えとして説明したと認識しており、参加者からは、違う意見をきくことができたことが良かった、年代や性別の違う人たちの話を聞くことができ良かった、話しやすい環境をつくってもらい楽しかった、などの意見もありました。事業費についてもご説明した上で、市民会議参加者は考えていただいたものと認識しております。どちらでもいいという意見は、どっちの場所でもいい図書館ができるという意味であり、そのように考えているとの意見も多くありました。 市議会議員の皆さんは、新花巻図書館の整備、人づくり、まちづくりにとって重要な事業であることは認識されていると思いますし、皆さん真剣に取り組んでいると認識しております。 建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前のJR用地としたところです。 主な質問への回答4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、市民会議では、参加者の皆さんがメリットやデメリット、デメリットの解決策について話し合う中で多角的な視点から建設候補地について考察していただいたものと考えております。市民会議では、平成29年8月に策定された「新花巻図書館整備基本構想」に定める基本方針を説明し、その基本方針が今回策定された「新花巻図書館整備基本計画」案に基本方針として記載されていることについてもご説明しております。会議の中で求められた疑問等については、市から資料をお示ししたところでありますが、両候補地について客観的な資料を出したと考えております。なお、それらの資料についてはホームページで公表しております。 https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/1014033/1022321.html ※花巻市ホームページ「新花巻図書館の建設候補地に関する市民会議」 市民会議では、皆さんがどちらの候補地が望ましいか自由に意見を述べるなど対話を繰り返す中で、それぞれ個人の意見を最終的にヒアリングシートに記載していただいたものであり、それを参考にして市が候補地を選定したものです。ファシリテーターも第三者的な立場の方として山口教授をお願いし、中立的な立場から司会進行をしていただいたと考えております。 参加者からのヒアリングシートにおいては、「色々な方々のご意見を聞くことができて良かったです（特に若い方々のお話が聞け

		他の真似でなく花巻にふさわしい図書館にしてほしいと思います。	て良かった。)」や、若い世代からも「年代が違う人の意見も聞けたのは良かった」などの意見があり、「ワークショップのやり方がよかった。」「市民会議をやってよかったと思う。」「ファシリテーターの進行が素晴らしかった。」「できるだけ多くの意見を集約し、市が決定する判断材料にするという位置づけは好感が持てました。」「判断材料になればと思う。」などの感想が寄せられ、尊重すべき意見が得られたと認識しております。 自分と違う意見を聞くことが有意義だったとする意見も多く、「意見の変化があった」「自分にない考え方で気づくこともあり、判断材料が増えた」「自身の意見に違いがあっても、全員が認め合う気持ちがあってよかった」など、参加者の皆さんが真剣に取り組んでいただいたと考えております。
84	7 建設場所	・市議会の整備特別委員会提言①決定に当たってはその経過及び理由を明確に示し、市民の理解が得られるように努めること。この提言をきちんと守って下さい。今はこれに反しています。	主な質問への回答 16【これまでの市民説明会について】のとおり、令和２年 12 月 17 日付けで、花巻市議会新花巻図書館整備特別委員会から新花巻図書館整備にあたっての提言がありましたが、それ以降、新花巻図書館整備基本計画を作成するにあたり以下のとおり、市民説明会等を開催しております。 ・R3.4～R7.3：基本構想に基づく具体的なサービスや機能を検討するため、図書館利用団体代表者や図書ボランティア、総合花巻病院跡地への建設を希望する市民団体代表者、図書館司書などで構成する「新花巻図書館整備基本計画試案検討会議」を設置し、基本計画試案を検討 ・R4.10～12：新図書館のサービスや機能、花巻駅前を建設候補地とし、建設候補地選定にあたり、JR 東日本と同社所有地を購入する場合の売買条件確認をしたい旨の市民説明会開催 ・R6：建設候補地比較調査の実施 ・R6.11：建設候補地比較調査の結果について市民説明会を 4 地区で開催 ・R6.11～R7.2：比較調査結果資料を用いて、「対話」を通じてお互いの意見や考え方を共有する市民会議を全 4 回開催 ・R7.4 市民参画（パブリックコメント・市民説明会・花巻市立図書館協議会での審議） なお、これまでの検討経過については、広報はなまきや市ホームページで公開しております。 https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/1014033/1023426.html ※花巻市ホームページ「新花巻図書館整備について」 また、基本計画についての市民説明会は、4 月 15 日大迫地域、4 月 16 日東和地域、4 月 17 日石鳥谷地域、4 月 19 日花巻地域の 4 か所で開催し、説明をしてきました。特に、花巻地域での説明会は 4 時間にもわたり、参加者の皆さんにもご負担をおかけしましたが、質問や意見をお持ちの皆さん全てそれらをお聞きしてお答えしてきたところです。
85	7 建設場所	市は、新花巻図書館の建設地に駅前を選定した。この選定をめぐる市の説明について {請願} 署名実行委員会は、今、使っていない市有地（旧花巻病院跡地）に建設することを求める請願書を市に提出した。今、使っていない市有地に建設すれば、新たに土地を購入する必要はない。必要のない駅前の土地の購入は、税金の無駄使いである という請願である。市がこの請願の意見を採用しないのであれば、駅前の土地を購入することが、税金の無駄使いではないことを説明しなければならない。ところが、市は、税金の無駄使いではないことを説明しない（できない）。税金の無駄使いではないことを説明しない ということは、言外に市は、税金の無駄使いであることを認めていることになる。市は旧花巻病院跡地が、「新花巻図書館建設地とならなくとも、土地の価値はそのまま残り将来の活用が考えられることから無駄になるものではない」と説明するが、「活用する」あてもないのに購入した旧花巻病院跡地を活用するチャンスが新花巻図書館の建設である。「土地の価値がそのまま残る」はウソでしょう。人口減少日本一の岩手県。土地の価値は残らない と考える人が多数意見。{民主主義} 市は、市主催の「市民会議」の多数意見が駅前を選定したので、駅前に決めた という。意見の内容がどうであれ、少数意見を大事にしつつ、多数意見を採用するのが民主主義である。したがって、75 人の「市民会議」の意見と 6181 人の請願の意見があれば、多数意見である請願の旧花巻病院跡地を選定することが民主主義である。市は、駅前を選定するという目的に都合がよい「市民会議」の多数意見を採用し、都合が悪い請願にたいしては、少数意見を採用した。市のこのような、市の都合に合わせ	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。

	て多数意見を採用したり、少数意見を採用する行為は、明らかに民主主義を否定する行為である。と同時に、意図的に市民を誘導するものであることが立証されるなら、地方公務員法違反になると思う。 {「市民会議」の多数意見について} 市は、重要項目を決めて、重要項目ごとに駅前がよいか、旧花巻病院跡地がよいか、意見を聞きまとめた結果、「駅前を選定」が多数意見になった　と説明する。この説明には、全く説得力がない。その理由は以下の通りである。（別紙） 1、重要項目を、なにを根拠に決めたのか　の説明がない。 私の第一感は、本を読まない人たち、図書館を利用しない人たちがきめたものだなというもの。 図書館の場所選定にあたって、何が重要であるか　図書館を利用する人たち（教師。図書館の職員。学者。など）の意見を聞いてみたい。 2、アクセスが重要項目である　と市が言う。 ゲームセンターじゃあるまいしアクセスは重要項目ではない。車で図書館に行くのであるから、駅前に行くのと、旧花巻病院跡地に行くのと差は、5分以下である。 3、活性化が重要項目である　と市は言う。　図書館は、生産性とか効率化とは無縁のものである。　カネ儲けや、お祭り騒ぎをする場ではない。　本を読み、学び、考えて精神活動を活性化させるには、駅前でないほうがよい。 4、安全が重要項目である　と市は言う。安全は、どちらが安全か比べるものではない。図書館であれ、学校であれ、コミセンであれ、安全でなければならない。電車の事故は駅前だし、車の事故の確率は旧花巻病院跡地に比べると駅前の方が10倍高い？犯罪にまきこまれる確率も駅前のほうが、高い。 {疑われる違法行為} 1、「市民会議」の多数意見が、駅前を選定したという結果になるように、市が意図的に重要項目を決めたのであれば、違法行為になると思う。 2、75人とか6181人という数字は、間違っている　と指摘されている。　市が、駅前を選定したことを正当化する目的で、意図的に数字を改ざんしたことが立証されるならこれも違法行為になる　と思う。 (別紙) <table><tr><th colspan="7">市民会議 65 人の意見（まとめ）</th></tr><tr><th></th><th>明らかに跡地</th><th>跡地</th><th>どちらでも良い</th><th>駅前</th><th>明らかに駅前</th><th>合計</th></tr><tr><td>活性化</td><td>4</td><td>6</td><td>12</td><td>16</td><td>27</td><td>65</td></tr><tr><td>文化</td><td>11</td><td>16</td><td>30</td><td>5</td><td>3</td><td>65</td></tr><tr><td>連携</td><td>7</td><td>14</td><td>26</td><td>13</td><td>5</td><td>65</td></tr><tr><td>周辺環境</td><td>8</td><td>11</td><td>15</td><td>21</td><td>10</td><td>65</td></tr><tr><td>アクセス</td><td>3</td><td>1</td><td>9</td><td>10</td><td>42</td><td>65</td></tr><tr><td>安全</td><td>3</td><td>3</td><td>15</td><td>25</td><td>19</td><td>65</td></tr><tr><td>防災</td><td>2</td><td>5</td><td>28</td><td>19</td><td>11</td><td>65</td></tr></table>	市民会議 65 人の意見（まとめ）								明らかに跡地	跡地	どちらでも良い	駅前	明らかに駅前	合計	活性化	4	6	12	16	27	65	文化	11	16	30	5	3	65	連携	7	14	26	13	5	65	周辺環境	8	11	15	21	10	65	アクセス	3	1	9	10	42	65	安全	3	3	15	25	19	65	防災	2	5	28	19	11	65	市民会議の意見については、主な質問への回答 4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおりですが、市民会議の話し合いの中で出されたメリット・デメリットとそれらの分類を項目立てした 1 0 の「視点・分類」のうち、重要と思うものについて、1 位から 5 位まで順番をつけて書いてください。理由もお書きください。」という質問があります。順番は、重要と考えた人の人数が多い「視点・分類」のことです。参加者の皆さんが新しい図書館について真剣に考えていただいた成果と考えております。 平成 29 年に市民からの意見も踏まえて策定した「基本構想」において、建設場所に関する方針として「図書館は、市民をはじめとする利用者にとって、利用しやすい場所にあるべきです。交通アクセスが良くわかりやすく、市全域から行きやすい場所で、十分な駐車場も確保できる場所が望ましいと考えます。」としています。 上記同様に、「基本構想」においては、「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており、基本構想に即していると考えております。 市民会議においても、自動車による事故の件数についての意見があり、花巻警察署の双方の候補地周辺交差点における事故数を確認し、市民会議に資料を提示しています。駅前の方が事故件数が 10 倍多いなどということは全くありません。 「視点・分類」については、参加者の皆さんから出てきた分類に基づいており、その分類と名称、分類された意見についても、参加者の皆さんから確認してもらい意見について場合によっては追加修正をしてもらってきたものです。 75 名の参加希望者があった中、都合により参加できなかった方もありました。最終的には 65 人の方にヒアリングシートを書いていただいたものです。署名については、市民で自署の人は、市で確認した人数が 6,181 人だということです。 市民会議 65 人の意見（まとめ）は上記のとおり、ヒアリングシートでは、市民会議の話し合いの中で出されたメリット・デメリットとそれらの分類を項目立てした 10 の「視点・分類」のうち、重要と思うものについて、1 位から 5 位まで順番をつけて書いてください。理由もお書きください。」という質問があります。それについて、市民会議の皆さんの選択は、アクセス、活性化、安全、周辺環境、駐車場、費用、他施設との連携、土地、文化・歴史、防災、の順番になりました。 重要視された上位 5 分類ごとに候補地の選択で最も人数が多かったものとその人数は、一番上位からアクセス「明らかに駅前」42 人、活性化「明らかに駅前」27 人、安全「どちらかといえば駅前」25 人、周辺環境「どちらかといえば駅前」21 人、駐車場「どちらかといえば病院側」24 人となっています。以上から、上位から 4 分類で駅前が評価されているということです。 上位 5 位に位置付けられた駐車場については、病院跡地が評価されていることから、駐車場の整備にあたって利用されやすい駐車場の確保に努めます。 なお、参加者が重要視した「視点・分類」の 6 位以下は、費用については「どちらでもよい」27 人、他施設との連携については「どちらでもよい」26 人、土地については、「どちらかといえば病院側」16 人、文化・歴史については「どちらでもよい」30 人、防災については「どちらでもよい」28 人、となっております。 10 の「視点・分類」全体で見た場合においても、重要視された 5 分類の「視点・分類」については上位 2 分類の活性化及びアクセスについては「明らかに駅前」、それに次ぐ 2 分類の周辺環境及び安全については「どちらかといえば駅前」、駐車場及び土地については「どちらかといえば病院側」、それ以外の「視点・分類」の分類の、費用、他施設との連携、文化・歴史、防災については「どちらでもよい」を選んだ人が最も多かったところであります。
市民会議 65 人の意見（まとめ）																																																																	
	明らかに跡地	跡地	どちらでも良い	駅前	明らかに駅前	合計																																																											
活性化	4	6	12	16	27	65																																																											
文化	11	16	30	5	3	65																																																											
連携	7	14	26	13	5	65																																																											
周辺環境	8	11	15	21	10	65																																																											
アクセス	3	1	9	10	42	65																																																											
安全	3	3	15	25	19	65																																																											
防災	2	5	28	19	11	65																																																											

		<table><tr><td>土地</td><td>15</td><td>16</td><td>10</td><td>11</td><td>13</td><td>65</td></tr><tr><td>駐車場</td><td>19</td><td>24</td><td>14</td><td>4</td><td>4</td><td>65</td></tr><tr><td>費用</td><td>14</td><td>7</td><td>27</td><td>12</td><td>4</td><td>64</td></tr><tr><td>計</td><td>86</td><td>103</td><td>186</td><td>136</td><td>138</td><td>649</td></tr></table> この 65 人の「市民会議」の意見（まとめ）から、「市民会議」は、駅前を選定していないことが分かる。市は、「市民会議」の多数意見が「駅前選定」である　と見せかけるために重要項目を持ち出した。市が決めた 5 ツの重要項目がなければ、「市民会議」の多数意見が「駅前選定」である　という説明はできない。たとえば、文化、安全、防災、駐車場、費用の 5 項目を重要項目にすると、「市民会議」の多数意見は、駅前ではなく、どちらかといえば跡地になる。（どちらでもよい：114。明らかに跡地：49。明らかに駅前：41。）市が持ち出した重要項目に、なぜ重要なのかについての合理的な理由がなければ、市はウソを言って市民を「駅前選定」に誘導したことになる。市が決めた 5 ツの項目が、なぜ重要なのか　についての説明が求められ、その説明が合理的であるかどうか（ウソかウソでないか）第三者の判断を求めることになる。	土地	15	16	10	11	13	65	駐車場	19	24	14	4	4	65	費用	14	7	27	12	4	64	計	86	103	186	136	138	649	参加者からのヒアリングシートにおいては、「色々な方々のご意見を聞くことができてよかったです（特に若い方々のお話が聞けて良かった）。」や、若い世代からも「年代が違う人の意見も聞けたのは良かった」などの意見があり、「ワークショップのやり方がよかった。」「市民会議をやってよかったと思う。」「ファシリテーターの進行が素晴らしかった。」「できるだけ多くの意見を集約し、市が決定する判断材料にするという位置づけは好感が持てました。」「判断材料になればと思う。」などの感想が寄せられ、尊重すべき意見が得られたと認識しております。 自分と違う意見を聞くことが有意義だったとする意見も多く、「意見の変化があった」「自分にない考え方で気づくこともあり、判断材料が増えた」「自身の意見に違いがあっても、全員が認め合う気持ちがあってよかった」など、参加者の皆さんが真剣に取り組んでいただいたと考えております。 賑わいや活性化という観点については、平成 29 年 8 月に定めた新花巻図書館整備基本構想において「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており市民会議の皆さんが賑わいや活性化という観点を重視したことについては、新花巻図書館整備基本構想に即していると考えております。ヒアリングシートにおいても、「図書館を中心として活性化できると思う。」「図書館が建つことで人が集まり活性化することを望んでいる。」「花巻がもっと住みやすい街であってほしい。もっと変わってほしいという願いがある。」「街のシンボルになってほしい。」などのご意見をいただいております。
土地	15	16	10	11	13	65																									
駐車場	19	24	14	4	4	65																									
費用	14	7	27	12	4	64																									
計	86	103	186	136	138	649																									
86	7 建設場所	<対話型「市民会議」の構成について> Ω数字（その 1）～3， 5 0 0 人 VS.7 5 人 市側の説明によると、無作為抽出した 1 5 歳以上の市民 3， 5 0 0 人に対し、対話型「市民会議」への参加を打診した結果、 7 5 人から参加したい旨の回答があった。回答率は 2 % 余りで、この数字だけを見るとスタート時から図書館問題への関心の低さがうかがわれた。 Ω数字（その 2）～7 5 人の内訳（性別、世代間） 会議構成は若年層（ 1 0 代～3 0 代）が 3 5 人、中高年層（ 4 0 代～6 0 代）が 3 4 人に対し、高齢者層（ 7 0 代以上）は 6 人。性別は女性 3 8 人、男性 3 7 人。応募した 7 5 人がまるで、“神技”みたいに世代別と性別ごとに截然（せつぜん）と区分けされていることに驚かされる。本当に 7 0 台の応募者は 6 人しかいなかったのか。男女比率がほぼ均等に二分されているのは単なる偶然なのか。 Ω数字（その 3）～7 5 人の会議への出欠状況 実際の会議出席者は最初から構成人員（ 7 5 人）を大きく下回った。第 1 回（令和 6 年 1 1 月 1 7 日）： 6 5 人、第 2 回（同 1 2 月 2 1 日）： 6 4 人、第 3 回（令和 7 年 1 月 2 6 日）： 5 7 人、第 4 回（同 2 月 1 5 日）： 5 3 人 さらに、会議への出席頻度は全 4 回のすべてが 4 2 人、3 回が 1 9 人、2 回が 6 人、1 回が 2 人で、実に 6 人が参加を申し出ておきながら、出席はゼロだった。さらに、第 4 回目の会議では出席者 5 3 人に対し、立地場所の選択をするヒアリングシートの記入を求めたが、この日の会議に欠席し、過去 2 回の出席実績のある 1 2 人分は郵送によって加算された。統計学上の原則に従えば、ヒアリングシートに記入する資格があるのは全会議に出席した 4 2 人に限定されなければならない。 以上の数字の羅列から垣間見えてくるのは恣意的に“民意”を作り上げようとする強引な手法である。たとえばー 1）応募した 7 5 人がそのまま、おあつらえ向きの構成になっていること自体が不自然である。実際は 7 5 人を超える応募者があったのではないか。その中から市側が改めて世代別や性別ごとの選抜をしたのではないか。現に市側から「(参加を打診する) オファーがあった」という匿名の情報が私の手元に寄せられている。 2）毎回の出席者が構成人員を下回り、全会議（ 4 回）の出席者がやっと半数を上回る 4 2 人に止まった時点で、この会議の正当性は統計学上の“蓋然性“の点からも無効とすべきであった。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議に申し込みいただいた方は、10 代 11 人、20 代 12 人、30 代 12 人、40 代 8 人、50 代 10 人、60 代 16 人、70 代以上 6 人、合計 75 人であり、40 代と 70 代以上は若干少ないものの、60 代が最も多く、各年代とも同程度の人数の皆さんにお申込みいただいたと考えております。男女比についても偶然ほぼ均等になったところです。 第 4 回目に出席していただいて、ヒアリングシートを書いていただいた人数が 51 人です。 2 回以上参加の方と 4 回目に途中退席された方 2 名を含む 16 人に郵送し、返信があったのが 14 名です。会議欠席の場合も資料はお送りしております。欠席者にもお送りして意見を聞きたいということについては会議の中でお話しています。 主な質問への回答 4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、市民会議では、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 市民会議に参加を希望された方は、75 人であり、それを超える応募者があったものではありません。参加を打診するようなことは、全くありません。 参加者からのヒアリングシートにおいては、「色々な方々のご意見を聞くことができてよかったです（特に若い方々のお話が聞けて良かった）。」や、若い世代からも「年代が違う人の意見も聞けたのは良かった」などの意見があり、「ワークショップのやり方がよかった。」「市民会議をやってよかったと思う。」「ファシリテーターの進行が素晴らしかった。」「できるだけ多くの意見を集約し、市が決定する判断材料にするという位置づけは好感が持てました。」「判断材料になればと思う。」などの感想が寄せられ、尊重すべき意見が得られたと認識しております。																												

	3)市側が意見集約をする際の一般的な手法として「まちづくり市民アンケート」がある。無作為抽出した15歳以上の市民2,500人が対象で、昨年度は4割近い984人(39・4%)が回答した。「有意性」の高いこの手法をなぜ、採用しなかったのか。 4)「病院跡地」への立地を求める署名数は市側で精査した結果、市内在住者の自筆署名数は6,181人(総数では10,269人)に上った。市民アンケートを実施した場合、統計学上から見ても「駅前立地」を上回るのには目に見えている。この手法を採用しなかったのはその「結果」をあらかじめ予測したからではなかったのか。 5)上記の署名数「6,181」という数字をどのように評価しているのか。「新花巻図書館整備基本計画」(案)の中にこの数字に込められた想いが具体的にどう反映されているか。「(賢治)ゆかりの地」論の詭弁性については、5回目のパブリックコメントですでに言及済みである。 以上5点については多くの市民も同じような疑問を抱いている。この疑問を払拭するように「整備基本計画」の記述を書き改めてほしい。 <意見集約の「信憑性」について> 市側は「駅前立地」に至った意見集約の根拠について、①重要視された分類の上位五つは「アクセス」(56人)、「活性化」(51人)、「安全」(42人)、「周辺環境」(40人)、「駐車場」(34人)となった、②この結果から、「活性化」「アクセス」については「明らかに駅前が良い」、「周辺環境」「安全」については「どちらかといえば駅前がよい」と4分類において駅前が評価され、総合花巻病院跡地については「駐車場」についてののみ「どちらかといえば病院側がよい」と評価されたことが分かった一としている。 以下に疑問点を列挙する。市民の多くも同じような疑問を抱いており、「新花巻図書館整備基本計画」(案)においては、その点に留意して記述するように要望する。 1)ヒアリングシートの「10分類」の指標是对話型「市民会議」の総意を反映する形で作成されたのか。メインファシリテーターである山口寛・慶応義塾大学教授の助言はあったのか。あるいは同種のひな型を参考にしたのか。 2)上位五つの選択は会議参加者に委ねたとのことであるが、AIによる解析によると、そのほとんどが「知のインフラ」とも呼ばれる図書館立地にはなじまない指標となっている。むしろ、商業施設やアミューズメント施設などを対象とした意見集約といった方が的確かもしれない。逆に言えば、会議参加者の側に「図書館と何ぞや」という根本的な認識が希薄だったことの証左とも言える。こうした「図書館」認識について、メインファシリテーターや市側の担当者による助言・指導はなかったのか。 3)意見集約に当たって、なぜ上位五つの分類だけを適用したのか。むしろ、「他施設との連携」や「文化・歴史」「防災」など下位の方が図書館立地の適否を判断する上で重要な指標であると考えるが、それを除外した理由は何か。分類指標に順列を付けることを統計学上では「順序バイアス」と呼ばれ、今回の場合も「駅前立地」へ有利に働くような順列になっていると思われる。ただ、こうした腹の探り合いは余り生産的ではないので、この場では駅前立地の決め手とされた「4分類」の指標がいかに図書館との“親和性”に欠けているのか―以下に具体的な検証を試みたい。 ●そのひとつの「周辺環境」について、AIは「駅前是人通りが多く、夜でも明るくて安心できる」(令和7年3月15日号「広報はなまき」)とその理由を回答している。周辺環境あるいは立地環境は図書館のような文化施設の場合、とりわけ重要視される指標である。そのケーススタディとして、以下の事例を取り上げたい。 岩手の地で「石と賢治のミュージアム」(一関市)を立ち上げるなど、賢治を“実践”したことで知られる吉成信夫さんは「公募」によって、岐阜市立図書館の館長を20	自分と違う意見を聞くことが有意義だったとする意見も多く、「意見の変化があった」「自分にはない考え方で気づくこともあり、判断材料が増えた」「自身の意見に違いがあっても、全員が認め合う気持ちがあってよかった」など、参加者の皆さんが真剣に取り組んでいただいたと考えております。 なお署名については貴重なご意見ととらえており、主な質問への回答5【署名について】のとおり、署名に記された請願事項について求められるご希望の多くを計画の中に盛り込でおります。 上記のとおりですが、建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、市民間で対話をして意見集約を図るということ考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 なお「視点・分類」については、参加者の皆さんから出てきた分類に基づいており、その分類と名称、分類された意見についても、参加者の皆さんから確認してもらい、意見について場合によっては追加修正をしてもらってきたものです。従って、ファシリテーターの助言やひな型があったものではありません。 「視点・分類」の順位については、参加者の皆さんが、図書館の建設場所を考える上で重要と考えたものです。市民会議においては、平成29年に策定された新花巻図書館整備基本構想について配布し説明もしています。上記のとおり、自分と違う意見を聞くことが有意義だったとする意見も多く、「意見の変化があった」「自分にはない考え方で気づくこともあり、判断材料が増えた」「自身の意見に違いがあっても、全員が認め合う気持ちがあってよかった」など、参加者の皆さんが真剣に取り組んでいただいたと考えております。 なお、AIについては、意見を集約する際に補助的に用いたものであり、AIが出した意見については、次回の市民会議の場において、参加者の皆さんにも確認いただき、追加加筆もしてきたものです。 平成29年に市民からの意見も踏まえて策定した「基本構想」において、建設場所に関する方針として「図書館は、市民をはじめとする利用者にとって、利用しやすい場所にあるべきです。交通アクセスが良くわかりやすく、市全域から行きやすい場所で、十分な駐車場も確保できる場所が望ましいと考えます。」としています。 上記同様に、「基本構想」においては、「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており、基本構想に即していると考えております。 なお、図書館の建設場所を考えた時に、現図書館は公共交通機関が少なく利用者の年代割合に偏りもあるなど課題がみえ、これらの課題解決をするために検討を進め、駅前を候補地の一つとしたものであり、その時点で、花巻駅橋上化は決定しておらず、橋上化のために花巻駅前を候補地にしたものではありません。
--	--	--

		15年から5年間務めた経験がある。その業績が認められ、2022年には先進的な活動に贈られる最高賞「ライブラリーオブザイヤー」に輝いた。 「みんなの森／ぎふメディアコスモス」の中にその図書館はある。岐阜駅から北へ約2キロメートル、岐阜城がそびえる金華山のふもとにその施設は位置している。設計したのは著名な建築家の伊東豊雄さん。「岐阜駅―長良川―金華山をつなぐ緑の拠点をつくることで、街に緑のネットワークが広がっていくことを期待したい」と設計の動機を語っている。メディアコスモスは開館9カ月半で、来館者100万人を達成した。図書館を含むこの複合施設を軸にした雄大な「周辺環境」が誘客に貢献しているのは言うまでもない。 一方、当市の建設候補地のひとつだった「病院跡地」も霊峰・早池峰を眺望できる位置にあり（残念ながら、花巻城址はがれきの荒野と化して、見る影もないが）、広い敷地にも恵まれている。メディアコスモスもそうであるように図書館という建造物は「世界の美しい図書館5選」などのセレクションに見られるように、その造形美も試される文化施設である。駅舎やホテルなどに囲まれたビル群の中に造形美を求めるのはそもそも、無理である。「人通りが多く、夜でも明るい」というだけでは余りにもみすばらしくはないか。これでは図書館が泣いてしまう。 ●さらに、AIは「安全」について「駅前は交番が近く、明るく夜も安全」（同上「広報はなまき」）と回答している。一方で、会議参加者の一部からは「病院跡地」について、土砂災害や急傾斜地崩壊などの“災害リスク”を懸念する声も出されたが、議論を深めた形跡はうかがえない。「安全」の解釈の天地の隔たりにびっくりさせられる。言うまでもなく、建物本体の「安全」の確保は周辺環境に劣らずに重要な指標である。図書館の立地予定地は病院跡地の一部とされたが、市側は確たる証拠を示さずにその安全性は担保されていると述べるに止めた。しかし、当該地全体が市有地である以上、そうした災害リスクを除去することこそが行政の使命である。この際、図書館のような公共建造物の安全性の確保の議論こそが急務ではなかったのか。「交番が近いから…」とはこれまた、余りにも短絡すぎないか。 ●「アクセス」と「活性化」の指標はいずれも通常の「賑わい創出」には欠かせない指標である。公共交通と図書館との相乗効果による駅前活性化は他都市でもよく見られるパターンである。しかし当市の場合、「病院跡地」という有力候補地があったにも関わらず、最初から「図書館は駅前でなければならない」という特殊な事情があった。裏を返せば、今回の意見集約は図書館の駅前立地の適否を判断することよりも「駅前立地」そのものの“お墨付き”を取り付けるのが狙いだったということである。結論を急ごう。 「駅橋上化事業（東西自由通路）の見返りが図書館の駅前立地だった。この二つの巨大プロジェクトによって、『受益』する利害関係者にとっては最初から、『駅前』以外の選択肢はなかった」一。反論がある場合は4月23日付で提出したパブリックコメント「『駅前立地』に至る経緯の記述について」に対して、誠意ある回答を寄せてほしい。	
87	7-3 建設候補地の選定	市民会議で駅前の方が評価されている結果を踏まえ市としては「花巻駅前」を建設候補地とするとの記述があります。 市民会議での評価ではなく、市自身の考えを聞きたいです。 市は、いかなる理由で総合花巻病院跡地ではなく駅前、しかもスポーツ店跡地を候補地として選択するのか、明確に答えて欲しいです。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前のJR用地としたところです。 市民会議に参加された皆さんが重視した、アクセス、活性化、安全、周辺環境、駐車場の視点は、市民参画の手続きをとり、平成29年に市が定めた新花巻図書館整備基本構想に合致していると考えており、駅前の候補地を選定したものです。

88	7 建設場所	花巻病院跡地に建設することに賛成です。ランドマーク的存在のマルカンから一直線上に市役所、まなび学園と官公庁があるので、その並びにあるのが自然。せっかく土地もある。なぜ更に税金を投入し土地を買って建てる必要があるのですか？まなび学園で学習する多くの市民にとっても調べたいと思った時すぐに行ける場所の方が便利じゃないかと思います。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。
89	7 建設場所	図書館建設場所について現在のような市民の心を 2 分する事態を招いたことは上田市長の重大な責任です。4 月 29 日（火）署名実行委員会の呼びかけ（チラシ）で自主的に 70 名の市民がまなび学園に集まり会場はあふれるばかりの参加者で沢山の意見が出されました。市長への疑問、不信、要望など沢山出されました。 ①2017 年に基本構想が出された時それに対して殆んど市民は反対の声もなく素直に受け入れていたのです。2020 年市長が突然発表した駅前 JR から借地し建設する構想に市民は反論したのが始まりです。駅前では 2017 年の中で最も大切とされた 3 つの基本方針の実現はとても無理です。アクセス、活性化だけでは十分な中央図書館にはなり得ません。	主な質問への回答1【これまでの経緯】のとおり、平成 28 年 6 月に策定した「花巻市立地適正化計画」では「生涯学園都市会館（まなび学園）周辺への『図書館（複合）の移転・整備事業』」と記載しております。 しかしながら、現花巻図書館は、公共交通機関が少ないため、車がある人や近くの方は利用できますが、生徒や学生、免許を返納した人など車での移動ができない人には利用しづらい場所にあることから、車のある方、車で来館される子ども連れの方、近所の方等、利用に偏りがありました。従って、それ以外の層の方々にご利用いただくとの観点から、「生涯学園都市会館（まなび学園）周辺以外に公共交通機関利用者などにより便利な駅前における立地も市内部で検討するようになったものです。平成 29 年 8 月に図書館建設にあたっての根幹となる構想「新花巻図書館整備基本構想」策定の段階では、総合花巻病院の跡地を含む「生涯学園都市会館（まなび学園）周辺への立地をあきらめたわけではありませんでしたが、駅前への立地の可能性も考えて、「新花巻図書館整備基本構想」には建設場所について特定の場所を定めず「候補地を数箇所選定した上で基本計画において場所を定める」としたものです。 平成 30 年 7 月には都市再生機構から「市図書館複合施設等整備方針検討業務」の結果の報告を受けました。都市再生機構の報告では図書館を「生涯学園都市会館（まなび学園）周辺または駅周辺に建設する可能性が記載されており、そのことは議会へも報告したところです。なお、当該報告には花巻駅東西自由通路・駅（半）橋上化についても記載されており、また、駅周辺のショッピング施設建設についての検討結果、すなわち花巻市の規模において駅周辺にショッピング施設を建設運営するのは困難との分析も記載されていたところです。なお、花巻駅東西自由通路・駅（半）橋上化実施の前提として、図書館を駅周辺に立地しなければならないとの記載はありませんでした。 平成 30 年 12 月議会においては、大原健議員からの一般質問に対して、「市民にわかりやすく、利用しやすい場所への建設が重要と考え、まなび学園周辺ではなく花巻駅東口周辺を建設場所にしたいと考えております。」「花巻駅東口周辺の J R 所有地を図書館の建設場所の有力な候補地とすることについて、J R 東日本と今後、その具体的な条件などについて協議に入りたいと考えております。」と答弁しております。 その結果、答弁翌日の平成 30 年 12 月 6 日の岩手日報に「新図書館 花巻駅東口周辺に JR と条件協議へ 花巻駅東口周辺の JR 所有地を有力な候補地とする」と、岩手日日新聞に「花巻駅東口が 有力 JR 所有地を有力な候補地として、具体的な協議を進めていきたい」とそれぞれ一面に大きく報道されたところです。また令和元年 12 月議会においては、本館憲一議員からの「花巻市図書館複合施設等整備方針検討業務の結果を平成 30 年 7 月に都市再生機構から市が報告を受けたのが、今から約 1 年半前であります。それを受けて、昨年 12 月定例会の答弁では、花巻駅東口周辺を建設場所にしたい、J R 所有地を建設場所の有力候補地とするとして、J R 東日本と今後は具体的条件などについて協議したいとのことでありました。それから 1 年を経過しておりますので、結論が出てよいのではないかと思いますので、お尋ねします。」との一般質問に対して、「J R 東日本盛岡支社と協議している段階であります。」と答弁いたしました。 本館議員のご発言は「花巻駅東口周辺を建設場所にしたい」、J R 所有地を建設場所の有力候補地」との市答弁を前提としてその後の JR 東日本との協議の結果をご質問されたと受け取っているところですが、そのような前向きのご質問以外には、平成 30 年 12 月議会での大原議員への答弁以降、JR 東日本所有地に図書館を建設することについては、市議会及び市民から反対の声はなかったところであります。 令和 2 年 1 月 29 日に、市は JR 東日本との協議を踏まえ、JR 花巻駅前の土地を定期借地して上層階に賃貸住宅を併設する「新花巻図書館複合施設」の事業構想について公表いたしました。市議会から定期借地、賃貸住宅併設等に反対があったところです。市議会において「新花巻図書館整備特別委員会」が設置され、令和 2 年 12 月 17 日付で、次の提言がありました。 ①建設場所について「新花巻図書館整備基本構想の建設場所に関する方針に基づき、都市機能誘導区域内へ整備することとし、市が提案する花巻駅周辺及びまなび学園周辺のいずれかとされたいこと。なお決定に当たってはその経過及び理由を明確に示し、市民の理解が得られるよう努めること。」 ②建設用地について「建設用地は市有地とすること。借地に建設することにより将来にわたる財政負担と、土地利用上における権利関係の不安要素は避けるべきであること。」

		②市長は図書館に対するしっかりした理念がないように思います。若者や他の学者の声を頼りに市民の声を押し込めようとしているように思います。このようにして選定した場所は将来に禍根を残すことになるのではないかと心配です。 ③何病院跡地に建設出来ないかその理由を明確にわかりやすく説明して下さい。議会での答弁を聞きましたが、子供だましの回りくどい言い方で市民の心をまどわそうとしているのでしょうか。的確に誰にでもわかるように説明して下さい。 ・以前の理由は道路が狭く歩道がないので通学路の子どもには危険である→現在通学路の歩道も整備されつつあります。道路も少しですが広くなりました。4号線からも直線に入れるように広くなりました。 ・交通に不便である→星めぐり号、ふくろう号などはまなび学園から市役所まで通っています。駅からもそう遠くないと思います。県交通も市役所まで来ています。バスの本数が増えればもっと利用し易く車も駐車場も広いので安心ではないでしょうか。その他の理由は何なのか是非知らせて下さい。 ③3億2千万円も支払って購入した病院跡地はすでに市有地になっているのに更に又1億2千万円でJRから土地を買うのは全くの無駄です。いらない財産は増やす必要はないのです。駅前の建設はもう一度考えなおして下さい。	③複合施設について「図書館単独での整備基本とすること。新花巻図書館整備基本構想に盛り込まれた市民のくつろぎと交流のスペースとして、飲食コーナーは図書館に必要な機能の一つとして位置づけ、整備を検討されたいこと。」 この提言を踏まえて、市は複合施設整備事業構想を撤回いたしました。 平成29年8月に図書館建設にあたっての根幹となる構想「新花巻図書館整備基本構想」を策定しましたが、これは市民参画の手続きを経て市民の皆様のご意見を踏まえ、市が策定したものであり、理念についてはこの基本構想に示されております。 建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前のJR用地としたところです。 なお、総合花巻病院跡地南側の道路は、大通りから総合花巻病院跡地までの間、現在歩道設置の整備をしておりますが、融雪装置は多額になるため設置できず、冬期間に駅から歩く方には負担になると考えております。また、東側の花巻小学校入口から武徳殿までについては、地権者の意向により歩道の設置はすぐにはできない状況にあります。 主な質問への回答10【事業費について】のとおり、図書館整備に要する概算事業費について、比較調査では総合花巻病院跡地の場合は約36.3億円、JR花巻駅前については約39.9億円となっておりますが、国庫補助金や合併特例債を活用することを想定しております。その結果、建設時における財源としては、総合花巻病院跡地に建設する場合には、国の補助金最大15億円、合併特例債20.2億円、市の一般財源1.1億円の合計約36.3億円、JR花巻駅前に建設する場合には国の補助金最大15億円、合併特例債23.6億円、一般財源1.3億円合計約39.9億円を想定しているところであります。 設計及び工事の時点で市がその一般財源から拠出する金額は総合花巻病院跡地に約1.1億円、JR花巻駅前に建設する場合には土地購入代金を含めて1.3億円に留まります。残りは国の補助金及び市債である合併特例債を発行し資金を調達することになります。 合併特例債の返済期間は建物の償却期間などを勘案し決めることとなりますが、花巻市が今まで発行した合併特例債の多くの場合は市債発行から3年据え置き、その後12年間 の返済期間とすることが多く、新花巻図書館建設についても同様となると見込まれます。 合併特例債の返済元本・金利の70%は国からの交付税措置が受けられます。従って、市が市の財源で負担するのは設計及び建設時に一般財源から拠出する金額と合併特例債の元本・金利の合計額の30%にとどまりますので、国から補助金が制度上最大となる15億円になった場合、市が市の財源で負担する金額は、総合花巻病院跡地の場合は7.2億円、JR花巻駅前の場合は、8.4億円となります。 なお、総合花巻病院跡地の場合には当該土地購入代金約3.2億円を市が公表している上記概算事業費に算入しておりませんが、総合花巻病院跡地を新図書館建設地として選択した場合、前述の通り、市の土地資産約3.2億円を新図書館建設事業に投じることとなることから土地購入代金3.2億円を概算事業費に算入することが比較の観点からは妥当と考えます。土地購入代金を概算事業費に算入すると両者の差はほとんどなくなります。また、総合花巻病院跡地については、令和6年3月に市が約3億2千万円で購入し市有地とした土地であります。この土地は立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。
90	7	新図書館の駅前移転を疑問に思う理由は次のとおりです。	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、 主な質問への回答2【市民会議について】 のとおり市民間で対

	建設場所	(1) 市立図書館は、例外もあるが基本的には市内に居住、または通勤する者を対象とします。したがって、県民全体を対象とする県立図書館なら盛岡駅に立地するのは理解できますが、市立図書館の場合、駅前にこだわる理由は全くない。他に有力な場所がないのならいざ知らず、駅にも近く広大な市有地が「まなび学園」に隣接してあるにもかかわらず、新たに多額の公費を投入してまで駅に拘泥するのは理解を超えている。また実際現地に行ってみると、ふらっと気軽に立ち寄りやすい至便な立地とは決して思えない。 (2) 市は、駅前移転を望む高校生の声が多いことを理由の一つとして挙げているが、このことについても大きな疑問を感じます。そもそも現状をみると彼ら中高生の図書館利用者は全体からみればとても多いようには思われない。彼らは、図書館というより単に学習スペースを求めているように思われる。それもその利用はほぼ土・日に限られ、平日は放課後以降の利用に限られる。 (3) 駅の橋上化と絡んで何としても図書館をそこに移転したいようだが、駅周辺の活性化を考えるなら、当該地に何か別の施設の立地を全く検討しなかったのでしょうか。図書館を立地するのは最も安直で実現性が高いのは理解できますが、図書館単体だけでは駅前の活性化が実現するとはとても考えにくい。 また、新設する無料駐車場も図書館ではなく駅またその周辺の利用者に占有されるのではないかと危惧される。 (4) 花巻市においては、ぜひとも 20 年後、30 年後の花巻市の将来を熟慮の上、図書館の移転箇所を決定してほしい。目の前の利害にとらわれることなく、今の時点で未来に禍根を残さないよう十分に議論してほしい。駄文ですが、最後まで読んでいただければ幸いです。 ※昨年だったか NHK の番組で、金沢市にある県立図書館が紹介されていたが、あまりにも素晴らしい施設で、利用者も多く圧倒されました。どのようなコンセプトでそのような施設ができたのか、非常に興味をそそられました。ぜひ、新図書館も市街からも利用したくなるような特色ある施設となることを切に望みます。その街の図書館をみると、その地域の文化度が分かるという。花巻はどうなのでしょう。ここが正念場です。	話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 主な質問への回答4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、市民会議では、参加者の皆さんがメリットやデメリット、デメリットの解決策について話し合う中で多角的な視点から建設候補地について考察していただいたものと考えております。市民会議では、平成 29 年 8 月に策定された「新花巻図書館整備基本構想」に定める基本方針を説明し、その基本方針が今回策定された「新花巻図書館整備基本計画」案に基本方針として記載されて いることについてもご説明しております。 市民会議では、皆さんがどちらの候補地が望ましいか自由に意見を述べるなど対話を繰り返す中で、それぞれ個人の意見を最終的にヒアリングシートに記載していただいたものであり、それを参考にして市が候補地を選定したものです。 参加者からのヒアリングシートにおいては、「色々な方々のご意見を聞くことができてよかったです（特に若い方々のお話が聞けて良かった）。」や、若い世代からも「年代が違う人の意見も聞けたのは良かった」などの意見があり、「ワークショップのやり方がよかった。」「市民会議をやってよかったと思う。」「ファシリテーターの進行が素晴らしかった。」「できるだけ多くの意見を集約し、市が決定する判断材料にするという位置づけは好感が持てました。」「判断材料になればと思う。」などの感想が寄せられ、尊重すべき意見が得られたと認識しております。 自分と違う意見を聞くことが有意義だったとする意見も多く、「意見の変化があった」「自分ない考え方で気づくこともあり、判断材料が増えた」「自身の意見に違いがあっても、全員が認め合う気持ちがあってよかった」など、参加者の皆さんが真剣に取り組んでいただいたと考えております。 賑わいや活性化という観点については、平成 29 年 8 月に定めた新花巻図書館整備基本構想において「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており、市民会議の皆さんが賑わいや活性化という観点を重視したことについては、新花巻図書館整備基本構想に即していると考えております。ヒアリングシートにおいても、「図書館を中心として活性化できると思う。」「図書館が建つことで人が集まり活性化することを望んでいる。」「花巻がもっと住みやすい街であってほしい。もっと変わってほしいという願いがある。」「街のシンボルになってほしい。」などのご意見をいただいております。
91	7 建設場所	図書館単体建設であれば駅前は相応しくないとします。現在駅前広場活用行事として、7月1日宵宮 花巻祭期間 山車小屋また祭り当日 山車集合 休憩場所など大切に必要スペースである。この活用に支障となる図書館単体建設は反対です。図書館利用者の安全確保が難しい事も理由の一つです。花巻病院跡地に図書館建設とすれば広く駐車場確保可能、芝生公園などのスペースも広く確保可能。更地である事から建設しやすいはず。駅前に図書館建設でしかなければ芝生は必要ないし他にも沢山緑があるのにわざわざ駅前に芝生など必要ない。そんな駅前など見た事ない。緑は周辺に沢山ある。とにかく駅前に単体で図書館などは必要ない。駅前に図書館建設となれば駅舎と併せての複合施設、交流会館の目的でなければ駅前に図書館は反対です。利用者の安全を第一に考えても 図書館は花巻病院跡地に 建設する事が望ましい。	主な質問への回答1【これまでの経緯】のとおり進めて来たものです。 建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 多目的広場や駐輪場の設置場所など周辺の道路を含めた環境については、設計段階において、周辺住民の方々のご意見も伺いながら検討します。 市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところです。しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にどもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。
92	7 建設場所	前略 「新花巻図書館の建設場所について」	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。

		この件については東和町でも何度か説明会があり、そのたびに参加していました。 多くの方は「病院跡地」に建設したほうが良いとの意見でした。3/15、4/1 の広報で「JR 用地」に選択した。という内容を見てびっくりしました。 基本構想の理念からしても「病院跡地」が良いと思います。是非考えなおして下さいようお願いします。	す。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。
93	その他	一市民として私の意見をのべます。1.新花巻図書館建設地に対する疑惑があります。街づくりに関する花巻市と JR との会議録の開示に関してほとんどの文章がぬりつぶされていたとのこと。これは、市民に対して知らされてはいけない内容が話しあわれたことの証明以外の何ものでもありません。 イ.以前から市長による市職員によるパワハラがあつといううわさ ロ.市職員のみならず、市民から選ばれた議員さえ押え込んでいるのではないかといううわさ ハ.市長は、何故建設予定地を駅前に固執しているのかそれは、JR からワイロをもらっているのではないかといううわさ	花巻市情報公開条例第 7 条では、特定の情報を含む場合を除き、開示請求された行政文書は基本的に開示しなければならないとされています。しかし、これにはいくつかの例外が存在します。 同条第 2 号では、個人に関する情報については公開が制限されています。具体的には氏名や生年月日など、特定個人を識別できる情報です。このような情報を公開すると、その個人のプライバシーが侵害される恐れがあります。また、同条第 3 号では、法人や事業を行う個人の情報について、公開すると競争上の不利益を被る恐れがある場合などは開示できないとされています。これは企業の機密情報が保護されるためです。 なお、同条第 15 条では、第三者に関する情報がある場合、その第三者に意見書の提出を求める機会を与える必要があり、それに基づき、JR 東日本盛岡支社に対して、意見書の提出を求めたところ、社員の役職及び名称、同社で保有する財産の特定につながる情報、協議途中の情報や法人内の内部手続きについて、非開示を求める意見が提出され、それらの内容が同条例第 7 条第 2 号及び第 3 号に該当するものと認められることから、非開示としたものです。 このような理由から、開示請求があった情報のすべてを公開することができない場合があります。個人や企業のプライバシーや競争上の地位を守るために、特定の情報は非公開とされることがあります。これは条例を含む法令に基づく措置と認識しています。 JR 東日本が市長に賄賂を支払う理由も市長がわいろをもらう理由もありません。JR 東日本は図書館建設候補地について、当初売却することができないとしていたものであり、JR 東日本所有地を市に売却しなければならない理由はありません。本件 JR 東日本所有地の売却金額は 1 億 3 千万円程度と示されているところであり、同社にとって大きくない金額です。コンプライアンスの観点からできないのみならず、そのような同社にとって小さな金額を得るために市長にわいろを払うなどという危険なことをすることに合理性はまったく見出すことができません。JR 東日本所有地は市が同地を図書館用地として活用することを決定した場合には売却してほしいと頼んだものであり、購入の可能性を検討するにあたり売買条件を示していただいたものです。 まったく根拠のないことをうわさとしてながすことの意図はわかりかねますが、JR 東日本の名誉も根拠なく傷つけるものであり、甚だ遺憾です。
94	7-3 建設候補地の選定	市で総合病院跡地を買い取っているのに駅前を候補地とすることは無駄になりませんか。 総合花巻病院跡地は何に使用する予定ですか。 お答えください。	総合花巻病院跡地については、令和 6 年 3 月に市が約 3 億 2 千万円で購入し市有地とした土地であります。この土地は立地適正化計画における都市機能誘導区域に該当し、仮にこの土地を新花巻図書館の用地として活用しない場合において、土地の地形などによる制約はあるものの、宮沢賢治ゆかりの土地であることもふまえ、有効に活用していきたいと考えております。 現時点において具体的な活用法についての考えは固まってはいるところではありますが、市議会においては、新しい市役所の用地としての活用、子育て施設としての活用などの可能性も考えられることを示したところです。
95	その他	・建物の建築設計については、全国から一般公募すべきである。今全国の新図書館はどこも建築が素晴らしい。宮沢賢治のふるさとの図書館にふさわしい素敵な図書館の建築をコンペさせて、市民の投票で決めたい。西南道の駅のように、住民の希望を無視した、住民をガッカリさせる建築にはしないほしい。 ・そして、2017 年からの JR 東日本との会議録が黒塗り文書のことを市民にきちんと説明してほしい。その時は国の補助金の関係で駅橋上化とセットにしていたと市長は 3 月議会で発言した。それまで議会の追及でセットを否定し続けた市長が、実は水面下で進めていた事実、跡地を願い署名や陳情、要望を繰り返してきた市民への裏切り行為ではないか。私たちはずっと市当局を信じて、真正面から声を届けてきた。時間も労力もお金も自腹を費やして、花巻の発展のために。図書館建設費は、私たち市民の血税である。 最後にこれら「パブリックコメントと市民説明会を行いました、市民参画で進めました」で、毎度「頂いた意見は参考にします」で終わらせないでほしい。市民からの意見の内容と、市の明確な回答をきちんと公表してください。	基本計画を定めた後に、設計に入ることとなりますが、設計等の予算については市議会に議決をいただくこととなります。その後設計業者を選定していきます。 花巻市情報公開条例第 7 条では、特定の情報を含む場合を除き、開示請求された行政文書は基本的に開示しなければならないとされています。しかし、これにはいくつかの例外が存在します。 同条第 2 号では、個人に関する情報については公開が制限されています。具体的には氏名や生年月日など、特定個人を識別できる情報です。このような情報を公開すると、その個人のプライバシーが侵害される恐れがあります。また、同条第 3 号では、法人や事業を行う個人の情報について、公開すると競争上の不利益を被る恐れがある場合などは開示できないとされています。これは企業の機密情報が保護されるためです。 なお、同条第 15 条では、第三者に関する情報がある場合、その第三者に意見書の提出を求める機会を与える必要があり、それに基づき、JR 東日本盛岡支社に対して、意見書の提出を求めたところ、社員の役職及び名称、同社で保有する財産の特定につながる情報、協議途中の情報や法人内の内部手続きについて、非開示を求める意見が提出され、それらの内容が同条例第 7 条第 2 号及び第 3 号に該当するものと認められることから、非開示としたものです。 このような理由から、開示請求があった情報のすべてを公開することができない場合があります。個人や企業のプライバシーや競

			争上の地位を守るために、特定の情報は非公開とされることがあります。これは条例を含む法令に基づく措置と認識しています。 また、このことはＪＲ東日本もよく理解されているところです。仮にＪＲ東日本が駅前の同社所有地を市に売却したいとの希望があり、市が図書館を建設するために当該土地を購入する約束があったと認識していた場合、図書館の建設場所が総合花巻病院跡地に決まり、市が駅前のＪＲ東日本所有地を購入できなくなった場合、ＪＲ東日本は市が約束通り土地を買ってくれなかった、また、約束通り駅周辺の活性化に結び付く可能性があった図書館の建設をしないという二つの約束違反に直面することとなります。その場合市はどのようにしてその約束違反の責任を取るのでしょうか、市としても個人としてもその場合の責任は取りようがありません。図書館が駅前に建設されることとなるかどうかかわからない状況において、市または個人がそのような約束をすることはあり得ません。」と答弁したとおりであり、水面下で進めていた事実はございません。
96	7 建設場所	整備基本計画は、①花巻市まちづくり総合計画などの上位計画や関連計画、②基本コンセプト(基本方針)、③市民会議で分類した 10 の視点・項目との整合性を総合的に検証・吟味して、必要であれば基本方針を変更しわかりやすく示す必要があり、「市民が図書館をどう育てるか」を明確にするのが重要です。 (1) 拙速な新花巻図書館整備計画の進め方に反対します。 「市民の意見の集約を図る」「多数決では決めない」の市の方針により、建設地が決まらない状況が長年続きました。当局は市民会議の結果を受け、上位多数の 5 項目のうち 4 項目が駅前支持が多いことを根拠に、下位 5 項目を除外した「多数決」により、駅前に選定しました。反対意見(病院跡地)に説明がなく合意形成(意見集約)がされないまま、当局は市民説明会とパブリックコメントを急いでいるが、方針転換したことをきちんと説明(釈明)しないと市民の信用を失います。 (2)市民会議の集計結果の扱い方と、10 の視点を全て再度、検証と吟味をやり直すべきです。 上位多数の 5 項目だけでなく、重要項目 10 の視点すべての結果内容を、基本構想の基本方針と客観的に照らし合わせて丁寧に検証・統合を行えば「駅前」でなく「病院跡地」が相応しいという結果にも導かれます。「駅前」と判断した理由・経緯の丁寧な説明を願います。 ①会議参加者の上位多数の評価を受けた「活性化」は、3 つの基本方針の中には示されていません。「活性化」を建設地選定の重要根拠とするなら、基本方針に「活性化」を明確に変更する必要があります。また、駅前の活性化を重要視するなら、病院跡地と隣接している「上町商店街」「生涯学習施設」「市役所との協働(市民参画)の活性化も視野に入れて検討するべきではないでしょうか。 ②上位多数の「アクセス」「活性化」「安全」のメリット面については、「図書館」で	建設候補地については、市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであり、そのようにすれば市民のいろんな意見の方が参加できると考えたからです。 市民会議の場において、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 市民会議では、基本方針についても説明しており、それを踏まえた上で参加者の皆さんが建設候補地について、意見を述べ合ったものですから、この会議の意見により基本方針を変更する必要はないと考えております。 市議会における多数決についての発言については、住民投票をすべきとの質問があった際に、多数決でどちらかに決めれば良いという状況ではない、若い人や高齢者も、声をだしてもらって意見交換をしたい旨をお話したものであり、市民会議の皆さんからのご意見を参考に建設候補地を選定したことは、方針転換したとは考えておりません。 主な質問への回答 4【市民会議のヒアリングシートについて】のとおり、ヒアリングシートでは、市民会議の話し合いの中で出されたメリット・デメリットとそれらの分類を項目立てした 10 の「「視点・分類」のうち、重要と思うものについて、1 位から 5 位まで順番をつけて書いてください。理由もお書きください。」という質問があります。それについて、市民会議の皆さんの選択は、アクセス、活性化、安全、周辺環境、駐車場、費用、他施設との連携、土地、文化・歴史、防災、の順番になりました。 重要視された上位 5 分類ごとに候補地の選択で最も人数が多かったものとその人数は、一番上位からアクセス「明らかに駅前」42 人、活性化「明らかに駅前」27 人、安全「どちらかといえば駅前」25 人、周辺環境「どちらかといえば駅前」21 人、駐車場「どちらかといえば病院側」24 人となっています。以上から、上位から 4 分類で駅前が評価されているということです。 上位 5 位に位置付けられた駐車場については、病院跡地が評価されていることから、駐車場の整備にあたって利用されやすい駐車場の確保に努めます。 なお、参加者が重要視した「視点・分類」の 6 位以下は、費用については「どちらでもよい」27 人、他施設との連携については「どちらでもよい」26 人、土地については、「どちらかといえば病院側」16 人、文化・歴史については「どちらでもよい」30 人、防災については「どちらでもよい」28 人、となっております。 10 の「視点・分類」全体で見た場合においても、重要視された 5 分類の「視点・分類」については上位 2 分類の活性化及びアクセスについては「明らかに駅前」、それに次ぐ 2 分類の周辺環境及び安全については「どちらかといえば駅前」、駐車場及び土地については「どちらかといえば病院側」、それ以外の「視点・分類」の分類の、費用、他施設との連携、文化・歴史、防災については「どちらでもよい」を選んだ人が最も多かったところであります。 賑わいや活性化という観点については、平成 29 年 8 月に定めた新花巻図書館整備基本構想において「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており、市民会議の皆さんが賑わいや活性化という観点を重視したことについては、新花巻図書館整備基本構想に即していると考えております。ヒアリングシートにおいても、「図書館を中心として活性化できると思う。」「図書館が建つことで人が集まり活性化することを望んでいる。」「花巻がもっと住みやすい街であってほしい。もっと変わってほしいという願いがある。」「街のシンボルになってほしい。」などのご意見をいただいております。 市民会議の皆さんは、図書館を建設する場所について、重視すべき視点という観点で、「視点・観点」に順番をつけたものです。

	なくとも、別の「商業施設」や「公共施設」に差し替えても当てはまる事で、花巻図書館のあり方や独自性とは関係ありません。 ③市民会議では「病院跡地周辺の土砂災害の危険性の問題は無い」という情報が正確に周知・理解されなかったため、病院跡地の「安全」「防災」「土地」における参加者の評価が必要以上に低くなりました。 ④「文化歴史/他施設との連携/費用」の視点・項目は基本構想(基本方針)や市議特別委員会の提言に深く関連しているが、検討対象から除外されました。本来は、計画室当局やファシリテーターが基本方針と整合するよう検証と統合する手順が重要となり、決定プロセスが一貫するよう基本方針の見直しも必要です。 ⑤市民会議は「決定機関」ではなく、「判断材料」を市当局に渡すための会議だったはずです。ヒアリングシートの結果で建設地を決められたことに会議参加者も戸惑っているのではないのでしょうか。市民会議のあり方を明確にすることで、参加者の意識が変わり結果も違っていたはずです。 (3)新図書館のビジョン・将来像を基本計画に明確に示して下さい。 以前は、3つの基本計画の上位に「知の泉豊かな時間出会いの広場」のキャッチフレーズがありました。「新図書館のあり方」「何を指すか」を市民と共有するために、将来ビジョンを、短い文言で定めるべきです。図書館職員や市民の意識の一貫性が保たれます。 <table><tr><th colspan="4">ヒアリングシートの見直し(10 項目全体)</th></tr><tr><th>重要度の順位</th><th>項目</th><th>市民会議において、見落とされている視点</th><th>再検証による評価</th></tr><tr><td>1</td><td>アクセス</td><td>駅前公共交通（JR・バス等）の拠点だが、車（駐車場）使用はやや不便。車利用が有る無しで意見が割れ、運転しない学生・若者・年配者は駅前が便利。</td><td>どちらかと言えば駅前？</td></tr><tr><td>2</td><td>活性化</td><td>「活性化」は基本構想の目的・方針に示されていない。 駅前商業施設の活性化は「図書館の役割・目的か？」が疑問。 病院跡地近隣の活性化(上町商店街や生涯学習施設、市役所活用の市民連携)の視点が抜けている。</td><td>どちらとも (上町活性化なら病院跡地)</td></tr><tr><td>3</td><td>安全面</td><td>「交番のあるなし」「街灯の整備」だけが主な判断基準になってしまった。 病院跡地の地盤の災害の危険性のイメージが先行してしまった。</td><td>どちらとも いえない</td></tr></table>	ヒアリングシートの見直し(10 項目全体)				重要度の順位	項目	市民会議において、見落とされている視点	再検証による評価	1	アクセス	駅前公共交通（JR・バス等）の拠点だが、車（駐車場）使用はやや不便。車利用が有る無しで意見が割れ、運転しない学生・若者・年配者は駅前が便利。	どちらかと言えば駅前？	2	活性化	「活性化」は基本構想の目的・方針に示されていない。 駅前商業施設の活性化は「図書館の役割・目的か？」が疑問。 病院跡地近隣の活性化(上町商店街や生涯学習施設、市役所活用の市民連携)の視点が抜けている。	どちらとも (上町活性化なら病院跡地)	3	安全面	「交番のあるなし」「街灯の整備」だけが主な判断基準になってしまった。 病院跡地の地盤の災害の危険性のイメージが先行してしまった。	どちらとも いえない	なお、「活性化」や「アクセス」の観点についても、市民からの意見も踏まえて平成 29 年 8 月に市が定めた基本構想において「市街地再生を図るための核としても新しい図書館の整備が必要になっています。」「まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指して」などと記載しており、建設場所に関する方針においても「市民をはじめとする利用者にとって、利用しやすい場所にあるべきです。交通アクセスが良くわかりやすく、市全域から行きやすい場所で、十分な駐車場も確保できる場所が望ましいと考えます。」と記載しておりますので、基本構想に即していると考えております。 市民会議では、総合花巻病院跡地と花巻駅前の 2 カ所の候補地について専門業者に委託した比較調査の結果を説明しましたが、総合花巻病院跡地の堀部分や北側の急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域を外して、図書館を 2 階建てで建てるのが可能なことについて説明しております。 文化・歴史については、市民会議参加者の皆さんも重要な視点として、双方の候補地のメリット・デメリットを出し合う中で抽出された観点です。従って、市民会議の皆さんは検討対象から除外したわけではありません。文化・歴史の視点は、どちらの候補地も同等と考える方が最も多かったということです。 市民会議では、市からは、「会議で出された意見を可視化・整理することで、最終的には市が建設候補地の選定をする際の判断材料とすることを目的としています。」とご説明し、ファシリテーターの山口教授からも「あくまでも判断材料を皆さんに出していただいて、最終的な決定は市の方で行う。これを参考にしながら市が判断する。」というお話もしております。 従いまして、市民会議で出された意見を参考にし、市として建設場所を花巻駅前の JR 用地としたところです。 市が設置した「花巻図書館整備市民懇話会」から平成 24 年 10 月に「花巻図書館への提言」の提出がありました。これには、花巻図書館の基本コンセプト 3 つのほかに、キャッチフレーズとして「知の泉 豊かな時間（とき）出会いの広場」がつけられております。これは、旧県立厚生病院跡地に、新しい図書館（仮称花巻中央図書館）を整備する計画の元となったものであり、中止となった計画であります。平成 29 年に、新たに「新花巻図書館整備基本構想」を策定するにあたり、上記市民懇話会の皆さまにも意見を聞き、当時の基本コンセプトをもとに、現計画の基本方針を定めたところですが、キャッチフレーズは定めていないところです。
ヒアリングシートの見直し(10 項目全体)																						
重要度の順位	項目	市民会議において、見落とされている視点	再検証による評価																			
1	アクセス	駅前公共交通（JR・バス等）の拠点だが、車（駐車場）使用はやや不便。車利用が有る無しで意見が割れ、運転しない学生・若者・年配者は駅前が便利。	どちらかと言えば駅前？																			
2	活性化	「活性化」は基本構想の目的・方針に示されていない。 駅前商業施設の活性化は「図書館の役割・目的か？」が疑問。 病院跡地近隣の活性化(上町商店街や生涯学習施設、市役所活用の市民連携)の視点が抜けている。	どちらとも (上町活性化なら病院跡地)																			
3	安全面	「交番のあるなし」「街灯の整備」だけが主な判断基準になってしまった。 病院跡地の地盤の災害の危険性のイメージが先行してしまった。	どちらとも いえない																			

		<table> <tr> <td>4</td><td>周辺環境</td><td>駅前は「人が多い。明るい」、病院跡地は「静か・緑がある。暗い」のイメージに分かれる。</td><td>どちらともいえない</td></tr> <tr> <td>5</td><td>駐車場</td><td>病院跡地が平地に広い駐車場。立体駐車場は利用しにくい。</td><td>病院跡地</td></tr> <tr> <td>6</td><td>費用</td><td>事業費は病院跡地が安い。</td><td>病院跡地</td></tr> <tr> <td>7</td><td>他施設との連携</td><td>病院跡地は生涯学習施設、市役所、文化歴史エリア、上町街と連携できる。駅前は公共交通、観光案内、駅市街地、なはんプラザ等と連携できる。基本方針（生涯学習推進・歴史文化の顕彰・行政との連携（地域課題の解決、など）との整合性に添えば、病院跡地が相応しい。</td><td>病院跡地</td></tr> <tr> <td>8</td><td>土地</td><td>病院跡地が広い。駐車場や安全面のメリットがある。</td><td>病院跡地</td></tr> <tr> <td>9</td><td>文化歴史</td><td>病院跡地～賢治や歴史的先人の足跡、花巻城。まなび学園 基本方針と整合する</td><td>病院跡地</td></tr> <tr> <td>10</td><td>防災</td><td>「病院跡地は危険区域」のイメージが払拭されないまま会議が終了してしまった。 災害時（避難場所・仮設住宅・行政との連携）支援は広い土地（病院跡）が有利</td><td>病院跡地</td></tr> </table> ↓ 10 項目全体を総合的に検証すれば病院跡地が相応しいという結果に？	4	周辺環境	駅前は「人が多い。明るい」、病院跡地は「静か・緑がある。暗い」のイメージに分かれる。	どちらともいえない	5	駐車場	病院跡地が平地に広い駐車場。立体駐車場は利用しにくい。	病院跡地	6	費用	事業費は病院跡地が安い。	病院跡地	7	他施設との連携	病院跡地は生涯学習施設、市役所、文化歴史エリア、上町街と連携できる。駅前は公共交通、観光案内、駅市街地、なはんプラザ等と連携できる。基本方針（生涯学習推進・歴史文化の顕彰・行政との連携（地域課題の解決、など）との整合性に添えば、病院跡地が相応しい。	病院跡地	8	土地	病院跡地が広い。駐車場や安全面のメリットがある。	病院跡地	9	文化歴史	病院跡地～賢治や歴史的先人の足跡、花巻城。まなび学園 基本方針と整合する	病院跡地	10	防災	「病院跡地は危険区域」のイメージが払拭されないまま会議が終了してしまった。 災害時（避難場所・仮設住宅・行政との連携）支援は広い土地（病院跡）が有利	病院跡地	
4	周辺環境	駅前は「人が多い。明るい」、病院跡地は「静か・緑がある。暗い」のイメージに分かれる。	どちらともいえない																												
5	駐車場	病院跡地が平地に広い駐車場。立体駐車場は利用しにくい。	病院跡地																												
6	費用	事業費は病院跡地が安い。	病院跡地																												
7	他施設との連携	病院跡地は生涯学習施設、市役所、文化歴史エリア、上町街と連携できる。駅前は公共交通、観光案内、駅市街地、なはんプラザ等と連携できる。基本方針（生涯学習推進・歴史文化の顕彰・行政との連携（地域課題の解決、など）との整合性に添えば、病院跡地が相応しい。	病院跡地																												
8	土地	病院跡地が広い。駐車場や安全面のメリットがある。	病院跡地																												
9	文化歴史	病院跡地～賢治や歴史的先人の足跡、花巻城。まなび学園 基本方針と整合する	病院跡地																												
10	防災	「病院跡地は危険区域」のイメージが払拭されないまま会議が終了してしまった。 災害時（避難場所・仮設住宅・行政との連携）支援は広い土地（病院跡）が有利	病院跡地																												
97	7 建設場所	花巻市長 上田 東一 様 担当者 様 4 月 19 日に花巻市役所主催の「新図書館建設に関する住民説明会」に参加してきた友人から話を聞き、私の意見も届けたいとメールをしております。 会場に集まった約 60 名のうち 40 人以上が病院跡地への建設を求める反対派だったと聞きました。 市の担当者の説明最中に威圧的な発言で進行妨害され、思想や政治を持ち込んだ闘争の場になったと聞き、驚きを隠せません。本当に担当の方はお疲れ様でございます。 現在、花巻市ではこの新図書館計画についてパブリックコメントを募集しているとのことですが、SNS ではすでに反対派が意見募集の情報を拡散し「反対票」を集める動きが始まっているやに聞きました。過去に開催された市民会議や、高校生達の意見はどうなっているのでしょうか。 私は花北の教員ですが、生徒たちはなはんプラザを勉強場所に使っています。花巻は他市に比べて不便で古いものが多く、新しく図書館ができたなら使いたい生徒たちがいます。しかもそれが駅前であれば、多くの生徒は「自分たちは大切にされている」と感じるでしょう。南高、東高、花農、青雲、大迫、清風支援の子達にとっても駅前のほうが使い易く、集いやすい。現在のまなび学園は車のある大人にとっては便利で	ご意見として承ります。 これまでの経過については、主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおりです。市民の間で意見が分かれていたことから、主な質問への回答 2【市民会議について】のとおり、市民間で対話をして意見集約を図るということを考えたものであります。 高校生など若い方々からの意見聴取については、令和 2 年 7 月 25 日及び 8 月 8 日に、高校生と 20 代による「としょかんワークショップ みんなで話そう未来の図書館」を開催し、8 月 23 日から 10 月 25 日にかけては、5 回にわたって一般公募参加希望者 12 人と関係団体からの 10 人も参加して同ワークショップを開催しました。若い方の意見としては、「最新の研究論文が読める」「大学のパンフレットや就活に関する資料の充実」「Wi-Fi 環境」「電子書籍に対応」「話しやすい司書がいる」「一人でいるスペースと会話ができるスペースがある」「飲食できるスペース」「駅が近くて交通の便がいい」などたくさんの意見がありました。 このワークショップ以外にも、市内各高校生との意見交換も行っております。これらのご意見等を踏まえ、基本計画（案）を策定しております。 いろいろなご意見をお持ちの方はあると思いますが、新図書館の整備につきましては、これまでも市民の皆さんからご意見を伺いながら進めてまいりましたが、設計段階においても、皆さんのご意見を伺いながら進めてまいります。																												

		も、子供達の暮らしには馴染まないでしょう。全てのバスは花巻駅に行くのだから、公共交通機関を使う人にとっても便利な場所です。 様々な考えの人がいるのは当たり前ですが、もっとプリンシパルを強く打ち出してはどうでしょう。図書館が花巻駅にあれば、花巻を訪れる人にとっても気軽に立ち寄り、宮沢賢治をはじめとする文化人に触れる場になります。そもそも車生活するのは田舎人の我々で、都会から訪問してくる人たちは(旅行に来る人たちはそもそも都会の人が多いです)、盛岡などから花巻に来て、観光案内所もないし、バスやタクシーに乗らないと温泉にも行けない。街の目玉が散らばりすぎているのです。宮沢賢治が街のシンボルなら、図書館が駅近くにあることはとても強い売りになりうるのではないのでしょうか。そこで待ち時間の長いバスや電車待ちをすることだってできるでしょう。図書館は税金で作るのだから市民のためだけに使わせろ、そのいわゆる「せこい」思想が発展を妨げているのではないのでしょうか。花巻には公共交通機関の駅、空港などがあるのに、まとまりがないから不便です。今回また図書館を別の場所に移せば、その繰り返しになると思います。 病院跡地はせっかくさっぱりと何もなくなったのだから、もっとよく考えて次の一手を打つべきです。あそこにまた建物を建て、まなび学園もあり、図書館もありだと、それがメリットになるのか？人は外を歩くようになるのか？あのせこましい駐車場もそもそも古い花巻南高校の使い回しのままです。あの辺一体をたとえば駐車場の整備された公園にし、それこそ大人から赤ちゃんまでが集えるような場にする。病院がなくなり景色が素晴らしくいいことに気がついて嬉しくなりました。あそこが公園なら、なんと清々しい場所になるでしょう。花巻城門跡公園？と鳥谷ヶ崎神社からも近く、花を愛でたり、風を感じて歩く素敵な場所になりそうです。公園として童話村や広域公園は遠すぎて、高校生は行けません。あそこに景色を楽しめる公園があれば、海外のような素敵な集いの場になります。フリーマーケットをしたり、コーヒースタンドがあったり、考えるだけでも楽しい場所になりそうです。まなび学園も天気の悪い日にちょっと立ち寄るような場になるかもしれません。人がもっと自由に集まれる広々とした場所が市中心部近くにあるべきで、それにはあの景色が最高ではないのでしょうか？城下町花巻のイメージ、盛岡城跡公園も高いところにあって素敵ですが、そういう雰囲気も出せると思います。旧花巻デパート跡地、上町までのプロムナードにはない魅力がありませんか？まっすぐ下ればマルカンデパートにも行きます。 あの場に適した使い道はまだまだあるはずで、お金をかけずとも資源として活かす方法があると思います。 勝手なことを述べましたが、ただでさえ人口が減少し、若者は帰ってくる理由を探しても探しても見つけられずにいます。私は花巻が大好きです。是非、今回の件が良い方向に行くよう、祈っております。	
98	7 建設場所	建設場所については花巻駅周辺が望ましいと考えます。図書館を一番利用すると考えられるのは学生です。学生が利用するにあたり、公共交通機関に近い所、集まるところがふさわしいと思います。私も花巻から盛岡に通勤していた際は多くの学生が電車を利用していることを目の当たりにし、図書館は駅周辺が望ましいと感じました。高校が駅西口方面が主で、それを踏まえると、まなび学園、旧花巻病院跡地は高校生の目線で考えるとアクセスが良いとは言いがたいと考えます。 観光の面で考えても、駅周辺が望ましいと考えます。宮沢賢治の資料を閲覧するにしても、駅周辺にあった方が観光客に喜ばれると思います。 駅周辺の立地が望ましいと考えるのは、私が以前に住んでいた宮城県多賀城市の図書館が多賀城駅前にあることが好事例だと思います。	ご意見として承ります。 新図書館の整備にあたりましては、市民の皆さんからご意見を伺いながら進めてまいりましたが、設計段階においても、皆さんのご意見を伺いながら進めてまいります。 また、他市の先進図書館事例等も参考にいたします。
99	5-6(1)	学生が利用しやすいことが一番大事だと思うので、駅前、開館時間の延長に賛成で	ご意見として承ります。

	7 建設場所	す。若い時の体験、習慣が大人になってからも引き継がれると思うからです。アクセス的にも駅前の方が良いです、自転車で病院跡地には行きにくいので。	開館時間につきましては、新図書館では、9時半から19時までを貸出し返却などができる図書館サービスを提供する時間とし、学習スペースや多目的スペース等の利用については、9時から21時までとします。開館後も利用者のニーズや市民のライフスタイルなどの変化にあわせて見直しも行います。
100	7 建設場所	私はJR花巻駅前を支持します。 駅周辺は高校生や学生などの若年層が利用しやすくなり、図書館の利用促進が期待できます。地域の若者が集まりやすい場所を作ってあげて欲しいです。 また、駅前は車でアクセスは確かに不利ですが、公共交通機関の利用がしやすく、結果的に多くの市民にとってアクセスがしやすいのは間違いないです。 旧総合花巻病院跡地も悪くはないですが、今後、合同庁舎やまなび学園の土地も含めて、図書館だけの話題ではなくもっと大きな視点で土地利用について考えて欲しいです。数少ない街中で広く使えるエリアですので、大きく計画をして欲しいと思います。 駅前につくるにしても課題は有ります。一緒に実施した方が良い事があると思います。話題をそちらにシフトして欲しいと考えております。	ご意見として承ります。 新図書館の整備にあたりましては、市民の皆さんからご意見を伺いながら進めてまいりましたが、設計段階においても、皆さんのご意見を伺いながら進めてまいります。
101	7 建設場所	花病跡地派の意見に流される事なく駅前に決定して頂きたいです。まずは駅前から活性化し、他の市に劣る事のない駅前を作り、少しでも魅力のある市になるように望みます。今の駅前の寂れ方は市民として恥ずかしいと思っています。JRの土地をこの金額で取得出来る事も利点だと思います。又、学生達の学習スペースの確保の意味合いであれば、各小中高の中間点である駅前は立地的にも相応しいと思います。児童生徒達が沢山の本に触れ、学生のうちに静かな環境で存分に学習出来る事がいずれ市民の民度を向上させる事に繋がるように思います。それと言えば、図書館にカフェは不要で、市の施設にカフェを入れるより、より広い学習スペースの確保と静かな環境整備のほうが図書館には必要だと考えます。図書館で借りた本『バカと無知』の一文に「集団での決定はバカに引きずられる」と書いてありました。準備室の皆さんが、花病跡地派の意見を取り入れ過ぎて図書館の本質からズレて来てるように感じてます。カフェや市民の憩いの場を作るなら、図書館ではなく、なはんプラザに作ってはどうか？図書館利用者が望んでるのは、豊富な蔵書、広い学習スペース、静かな環境のはずです 私は今まで市の説明会2つと、花病跡地派が企画したシンポジウムに1つに参加しましたが、花病跡地の利点は駐車場が広いという1点のみで、花病跡地のデメリットは致命的だと認識しました。花病跡地派が強く言う署名も「駅前だと費用が掛かる」と、うたって集めているのであれば、署名自体も無効票になるのではないのか？と甚だ疑問に思っております。花病跡地の非常に危険な傾斜地はフェンスを取り付けたとしても、子ども達が乗り越える可能性を否定は出来ないと思いますし、傾斜地の草刈りとフェンスのメンテナンスに永続的に費用が掛かる。しかも土地は3億以上も既に掛かっているとしたら、駅前のほうが結果的に安く建設出来るという事になるのではないかとと思います。又、去年は花巻小学校に熊が入り込みました。花巻小学校のプール付近には熊の糞が散乱してもあります。花病の第2駐車場は崩落のおそれもあり、旧花病前の道路は非常に狭く、渋滞もしくは、高齢ドライバー達事故に繋がるのではと日々、図書館を利用する者からすると不安に感じます。花病跡地派のどなたかが説明会で、アクセス面を言うなら、花病跡地までバスを出せばいいと発言していたように記憶していますが、それらに掛かる費用の事は何も考えては居ない。シンポジウムで、「危険な傾斜地で、だいぶ埋め立てををしているがその辺りの危険への配慮はどう考えているのか？」と質問したところ、「そういう事は市で対応する」との返答でした。市民の安全は無視し、不都合な事は市に丸投げし、署名やカンバを集めるような団体達が署名の数のみで要望が通るような事がないように、今一度、図書館利用者の立場にたって新図書館建設を考えて頂きたいです。説明会で市長を呼べだ	ご意見として承ります。 新図書館の整備につきましては、これまでも市民のご意見を伺いながら進めてまいりましたが、設計段階においても、ご意見を伺いながら進めてまいります。 なお、カフェスペースにつきましては、花巻市議会が、令和2年3月18日に議長を除く全議員で構成する新花巻図書館整備特別委員会を設置し、新花巻図書館整備について検討した結果として、同年12月17日付けで市議会議長から市長あてに、「図書館単独での整備を基本とすること。新花巻図書館整備基本構想に盛り込まれた市民のくつろぎと交流のスペースとして、飲食コーナーは図書館に必要な機能の一つとして位置づけ、整備を検討されたいこと。」との提言をふまえたものです。 なお、説明会では建設候補地の話しが長く、基本計画に記載された新図書館の中身について発言ができなかった方もあったと思います。 本パブリックコメントにおいて、基本計画の中身についてのご意見も多くいただいております、それらをふまえて基本計画を定めています。また、現在の図書館利用者の方からもアンケートでご意見をいただいております、設計段階でも市民の皆さんの意見を聞きながら新図書館の整備を進めてまいります。

		とか、市民投票をしろだとか、怒号を飛ばすような冷静さを欠いた市民の発言をまともに受けて対応していたら、市政の混乱の元になり、これを成功体験に、今後も市政に何かと口出しをし混乱をもたらし事になるのではないだろうか？と、想像してしまいます。又、花病跡地派の方々の発言で、しばしば気になる事はこの方達は本当に図書館を利用しているのだろうか？という疑問があります。一例として、図書館利用の年齢層についての発言で、若者の利用率は少ないという発言がありましたが、若者は図書を借りるのではなく、学習スペースを使用しているのだから、利用率が低いのは当たり前だろうと図書館を利用し、学習スペースが埋まっていることを日々、目にしていればそういう発言はしないはずです。もう一つ、駐車場について、花病跡地派の方は利用者は車で行くのだから、バスは利用しない。公共交通機関のアクセスは気にしないでいいといったような発言もあったと思いますが、本当に本が好きな人種は車が運転出来なくなっても、本屋にも図書館にもバスで通うようになるのです。自分はそうなると予想できます。花病跡地派の方々は立地の面しか発言しませんが、本来なら説明会では図書館の中身についても聞きたいです。花病跡地派の勢いに圧されて、説明会が候補地の話しに終始してしまい、図書館のシステムや中身については疎かになってしまっていると感じてます。花病跡地派の方々は図書館利用者かどうかとも怪しいと感じてますが、その方々の意見を取り入れ過ぎてしまうより、実際の図書館利用者の声がもう少し反映された図書館作りをして頂きたいです。市民投票みたいなお金の掛かるものではなく、この頁のようなシステムで広くアンケートを取る事は可能なのではないかと考えます。説明会には参加しないが、物言わぬ利用者の声や、若者の声を吸い上げて欲しいと切に願います。	
102	7 建設場所	ワークショップ、市民意見交換、市民会議、AI に至るまで、あきらかに「駅前への建設が望ましい」と結論づけられていると思います。駅前に建設して下さい。	ご意見として承ります。
103	7 建設場所	新花巻図書館は、駅前へ設置が良いと考えます。 ・小、中、高校生が利用しやすい立地に有る為 ・用地は、今のスポーツ用品店内に収め、多目的エリアは、今まで通りの有効利用が出来ること	ご意見として承ります。 市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでていところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にどもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。
104	7 建設場所	JR 花巻駅前に希望します。 ○交通の便利が良いこと。(離れた地域の方も利用しやすいため) 電車、バス、の交通網あり子供から老人、車椅子の方々、運転できない方等々。(いつも車で行きますが、免許証返納後考え乗物から降りて近くなのが良い。 特に若い世代や家族で利用しやすい図書館に。 みんなで利用し花巻市が元気な街になるためにも) ○駅前で人の流れあり、地域的に明るくて、安心安全。(警察派出所も近い) ○JR 東日本から土地購入などは、将来は花巻市の財産になり、活用できる。 ○機能性、利便性を重視した図書館を希望します。(50 年 100 年と言うより、機能性が大切、他の図書館を利用した経験から) ○病院跡地の建設の場合の心配、 長い間病院として、使用した跡地の土壌汚染がどうなっているのか？(以前、花巻病院が厚生病院跡地の時、問題気になります) 駅前の新花巻図書館に期待します。	ご意見として承ります。 なお、総合花巻病院跡地の土壌汚染については、一部で汚染が確認されましたが、土壌改良され、それを確認した上で令和 6 年 3 月に土地を購入したものです。
105	7 建設場所	・図書館本体に優先駐車場を設計できるのではないかと	ご意見として承ります。 駐車場や道路についても、住民の皆さんと協議して整備を進めます。また、駐車場は平面駐車場とし、図書館建物隣接地におよそ 38 台の駐車場を整備する予定としています。

		・連絡通路が完成しているので西口にも駐車場を確保できるのではないか ・なはん広場は現状で多々のイベントに使用、利用されているので芝生広場にする必要性はみとめられないと思う。又、広場からの融雪道路で商店街に誘導される ・住居兼店舗として工事車両等の通行ができるように考慮して、生活面に支障をきたさないように設計してほしい。平面の駐車場の方が利便性にも優れている	西口の駐車場については、ご意見として承ります。 市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にどもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。
106	7 建設場所	・花巻駅前が新図書館整備により、より賑わい活性化されるのでしたら大賛成です。が、地域住民の要望を反映させ丁寧な事業計画と現実味のある将来に向けた計画立案となることを切に望みます。・駐車台数を増やすため、第 2 駐車場を JR 線路側の市道を廃止するのではなく第 1 駐車場を立体にして台数確保はできないのか？ ・図書館本体が多目的広場側に大きく広がることにより定住交流センター北西の壁面が隠れるのでは。多目的広場は現状のままの活用にしてほしい。 7/1 の宵宮は市民が待ち望んでいる行事です。 観光客の方によく言われます。花巻駅前って何もないんですね…と	ご意見として承ります。 立体駐車場の整備については、使いづらいつとの意見も多く、平面駐車場を検討してきたものです また、市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にどもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。
107	7 建設場所	店舗脇の入口より家具などの大型商品を出し入れを行っております。 店舗脇に駐車場の出入口が出来てしまうとトラックなども横付けしづらくなり不便になると感じています。	多目的広場や周辺の道路環境については、設計段階において、周辺住民の方々のご意見を伺いながら検討します。
108	7 建設場所	・立地については土砂災害警戒区域にかかっている時点で病院跡地は無しだと思います。昔はそういう区分がなかったのですが、現在ではそういう懸念のあるところに公共施設を建てるのは判明した時点で論外だと感じますし、市としてもそう判断していると読み取ったのですが、そここのところ病院跡地派の人たちに伝わっていないのではないのでしょうか。 ・災害警戒区域を除けば必然的に駅前に賛成となるのですが、そもそもグランドデザインを持って都市計画をするべきであって、図書館単体で考えるから迷走するのだと思います。複合施設化もできず、紫波のオガールのような施設を期待していたので残念です。こどもセンターのあるまなび学園も古く、雰囲気も暗く、行きにくく施設の動線も悪かったので合同施設化して欲しかったです。お金がかかるからといって半端な利用しにくいものを作るより、お金をかけるところにはかけて使いやすく愛される良い施設を作ってほしいです。 ・芝生広場が屋上の案でしたが、駅前は大変風が強くバスを待つのも難儀するので、考慮した構造・設備をお願いします。広場でも東屋で飲食できれば親子連れには良いです。 ・電車が見えると小さいこどもが喜びます。子どもが小さい頃、電車を見に線路沿いで数時間待機したことがあります。が、全天候で電車と絵本どちらも見られれば親子の助かる居場所になります。	ご意見として承ります。 総合花巻病院跡地の北側と東側の一部は、急傾斜地崩壊危険区域と土砂災害警戒区域になっています。総合花巻病院跡地と花巻駅前の 2 カ所の候補地について専門業者に委託した比較調査では総合花巻病院跡地の上記区域を外して図書館を 2 階建てで建てることは可能であり、このことについては広報はなまき 11 月 15 日号でお知らせするとともに市民説明会も開催いたしました。 花巻市議会が、令和 2 年 3 月 1 8 日に議長を除く全議員で構成する新花巻図書館整備特別委員会を設置し、新花巻図書館整備について検討した結果として、同年 1 2 月 1 7 日付けで市議会議長から市長あてに 3 項目について提言がありました。その中で複合施設について「図書館単独での整備を基本とすること。新花巻図書館整備基本構想に盛り込まれた市民のくつろぎと交流のスペースとして、飲食コーナーは図書館に必要な機能の一つとして位置づけ、整備を検討されたいこと。」とされており、「図書館単独での整備」とし、飲食コーナーは整備することとしております 新図書館の建物や周辺整備のご意見については、設計段階で検討します。
109	7-2 建設候補地の選定経過	市民会議で話し合われた内容を見ましたが、この会議を初めの方に行っていれば、もっと早く建設地を決められたのではないかと思います。それほど充実した内容でした。 あまりに時間がかかりすぎて、「初めから市が提示した場所にしていれば、今頃新しい図書館ができていたのに」とがっかりする声も聞きました。当初の賃貸住宅付きの図書館のインパクトが強すぎて、図書館に関する関心を高めました。が、市に反発する副作用も出たかと思います。	ご意見として承ります。

		この基本計画案を決定するまでに、順番はうまくなかったかも知れませんが手続きを踏んできているので、あとは遅滞なく建設まで進んでいただきたいと思います。	
110	7 建設場所	花巻駅に図書館が出来るのは利便性があり、賛成ですが、元から立っているスポーツ用品店はどうなるのでしょうか。廃業してしまうのか、移転するのかそこが心残りです。また、花巻駅に図書館駐車場が出来ると、図書館の利用に関係なく駐車してしまう人が増えるのではないかと思います。利用者がちゃんと停められるように台数をしっかり確保してほしいです。	駐車場について危惧される方も多かったことから、「花巻駅前」では利用しやすい駐車場の確保に努めたいと考えております。 なお、スポーツ用品店につきましては、土地所有者である JR 東日本との契約となっており、市ではどのような対応をされるかわかりかねます。
111	7-3 建設候補地の選定	新花巻図書館は市の計画通り、花巻駅前に建設することが望ましいと考えます。理由は 2 つあります。 1 つ目は、駅周辺であれば、花巻市内の人はバスで、東和町、石鳥谷町、大迫町の人は電車でアクセスしやすいからです。さらに、観光客や通学で花巻駅を利用する学生も学習の場として活用することができます。花巻を訪れた人が何気なく宮沢賢治の童話を手に取る機会や、通学で利用した学生が花巻に愛着をもつきっかけになると思います。 それに対して、総合花巻病院跡地の場合、車を持たない人はアクセスしにくく、観光客も駅から離れることで物理的にも心理的にも気軽に図書館を訪れる機会が奪われてしまいます。電車通学をする学生にとっても、通学の導線の中で利用することができなくなります。 私は盛岡の高校、大学に通学した経験があり、アイーナ3階の岩手県立図書館を頻繁に利用していました。盛岡駅に隣接しているため、電車の待ち時間に本を読んだり、テスト期間には学習スペースで勉強したりしました。県立図書館の学習スペースは、中学生から大人まで多様な人が利用していて、休日の開館前には、学習スペースを確保するために行列ができることも多々あります。 出産後は、紫波中央駅近くにあるオガール内の紫波町図書館を主に利用しています。 紫波町図書館には、盛岡から保育園の先生と園児が電車で訪れて絵本をみたり、広い芝生広場で遊んだりしています。電車で親子連れが訪れる様子もよく見かけます。 私が初めて紫波町図書館に行こうと思ったのも、立地が駅の近くで分かりやすかったことがきっかけでした。 岩手県立図書館も紫波町図書館も、駅からのアクセスが良いからこそ、多様な人が訪れているのだと実感しています。 2 つ目は、花巻市の数十年後を見据えた時に、財政的な面でも駅周辺が効率的だと考えるからです。 花巻市に限らず、どの自治体も人口減少していく中で、必然的にコンパクトな町になっていくと思います。 今の子どもたちが未来に担う負担を最小限にするためにも、図書館、市役所、駅などの公共的な施設を集約させていくことが第一歩だと考えます。 花巻市の歴史を尊重する考えや、自分の身の回りの範囲での便利さを求める方々の気持ちも分かりますが、時代が変わり、自分の子どもも、孫も、同じ地域に住むとは限りません。むしろ、インターネットの普及で世界と繋がりを持てるようになったことで、住もうと思えばどこにでも住むことができる時代です。花巻に住み続けてきた人に限らず、多様な人が利用しやすい図書館はどこに建設すべきか、市民一人一人が視野を広げ、未来の花巻市にとって最善なことを選択していかなければならないと思います。 子持ちのため、新図書館建設に係る説明会には参加が難しいですが、今回このようなかたちでコメントする機会をいただき、本当に感謝いたします。 ありがとうございます。	ご意見として承ります。 新図書館の整備につきましては、今後、設計段階においても、ご意見を伺いながら進めてまいります。 また、他市の先進図書館事例等も参考にいたします。
112	7-3 建設候補地の選定	仮に花巻地区中心部のどこに建設してもいいという場合であっても、やはり駅前がよいと思います。圧倒的にアクセスが良いので、車を運転しない人や免許を持ってない年齢層も交通機関を使って行くことができます。自動車での経路も分かりやすいです。図書館新築を予定している他の市町村の計画案を見ても、現在図書館を利用していない人ほどアクセスの良さを求めているようで、逆にアクセスの悪さが利用の妨げになっていることがわかります。 どこに住んでいても誰もが行きやすい、今とこれからを生きる人のための図書館	ご意見として承ります。 駐車場について危惧される方も多かったことから、「花巻駅前」では利用しやすい駐車場の確保に努めたいと考えております。 駐車台数の目安ですが、建設候補地比較調査において、新花巻図書館に必要な駐車台数の目安はおよそ 120 台としています。現在の駐車スペースですが、 JR 花巻駅東口には、花巻駅南第 1 駐車場 60 台、第 2 駐車場 121 台、合計 181 台の駐車スペースがあり、また、調査したところ日常的に 60 台程度の空きがあります。そこで整備にあたっては、現在の JR 東日本所有地である図書館建物隣接地におよそ 38 台の駐車場を整備する予定としており、また、なはんプラザ南側の第 2 駐車場は、JR 線路に隣接する市道の一部を廃止し、60 台の駐車スペースを増設することにより、第 2 駐車場は 181 台に増設する予定としております。図書館の駐車スペースと

		であってほしいです。 また、病院跡地は周辺が崖になっていて危険を感じますし、小学校が隣接するので覗き見や車で通学路を通ること、また、周辺の道路が込み入って運転しづらいことも気になります。他市町村から来る人に、場所の説明をするのも難しいです。 駐車場についてですが、必要台数が 120 台に対して、現在の駅周辺の駐車場の空き 60 台分を含めて 158 台分確保となっています。120 台の算定根拠については、オープン 10 年後の来館者目標数 40 万人を用いていると思われませんが、人口減少の中、利用者 40 万人が最大値とすれば、駐車台数も 120 台が最大値なわけで、158 台の確保は多すぎるのではないかと考えます。よって、図書館隣接地の 38 台はよいとして、第 2 駐車場を 60 台も増設する必要はなく、多めに見積もっても 40 台くらいまでの増設でよいと考えます。増設する台数を減らした分、駐車場への出入り口を使いやすい位置に設置していただきたいです。現在の第 2 駐車場出口は、出てすぐ十字路になっていて危ないなと感じることがあるので、入り口と同じ西側にするなどしていただきたいです。（なお、来館者目標数 35 万人であればおそらく必要駐車台数は 100 台程度なので、第二駐車場の空き 60 台となはんプラザ西側に整備する 38 台、第二駐車場の増設は 10~20 台で足りるかと思います。） 電車の騒音については、個人の住宅でもトリプルガラスにすれば交通量の多い国道そばでも全く音がしないですし、実際に線路近くに立っている図書館があるのであれば、対策が取れると考えます。線路がすぐ横を通っている学校に通っていましたが、電車の音は気になりませんでした。 屋外の広場についてですが、図書館でどんな屋外イベントをするのか全く想像が付きませんし、前述のとおり、なはんプラザの多目的広場が既にあり、消雪設備も整っているの、気象条件で利用できない無駄な緑地化はせず、現状のまま利用すればよいと考えます。	しては、図書館建物隣接地 38 台、第 2 駐車場増設分 60 台、第 1 駐車場及び第 2 駐車場の空き 60 台を合わせ、合計 158 台の駐車スペースを確保することになります。現状より 98 台駐車台数が増加することから、図書館で 90 台以上使用している場合以外の多くの場合においては、イベントで使える駐車場が増える効果があると考えております。なお、図書館建物隣接地の最大 38 台分を高齢者、障がい者、乳幼児連れの方々が優先的に利用できるようにし、その他の図書館利用者も無料で駐車場を利用できるシステムを導入するものです。 駐車場の出入口や周辺の道路環境については、設計段階において、周辺住民の方々のご意見を伺いながら検討します。 また、電車の音については、近年建設される図書館はグループで話ができるエリアや、音楽を流しているような図書館もあります。一方で、防音室のような、まわりからの音を遮断した静かな部屋も設ける例も多く、新しい図書館でも同様の静かな部屋の設置を計画に記載しています。全国的に見ても多賀城市立図書館、名取市図書館、酒田市立中央図書館、南相馬市立中央図書館、土浦市立図書館など、線路に近い図書館は多くあります。 那須塩原市の図書館は東北本線黒磯駅前にあり、新幹線の高架が近接しています。また福島県白河市の図書館も、駅に近く東北本線に接していますが、線路側にガラス窓があって閲覧席が設けられています。これらの図書館に問い合わせたところ、騒音については問題ととらえておらず、専門家の意見では設計段階で工夫することは十分可能だとの見解もあります。多目的広場については、具体的には今後、周辺住民の方々のご意見をいただきながら検討を進めます。
113	7-3 建設候補地の選定	・駐車場について 現スポーツ用品店の駐車場を確保できるのであれば特に増設する必要はないと思う。主に利用するのは、小、中、高生と幼児親子なのでそこまで車を使うとは思えない。 ・図書館本体について 近年多目的広場の活用も増加しイベントもかなり増えてきました。地域の活性化を目指すのであれば多目的広場はそのまま手をつけず、3 階建ての案を採用してほしいです。 ・芝生広場について 芝生広場についても同じで、多目的広場には手をつけず屋上の案を採用してほしいです。 ・駅が橋上化するのとあわせて仙台のような歩行者専用高架橋を設置して、駅、図書館、なはんプラザ、グランシェールをつなぐのも地域活性化につながると思います。	ご意見として承ります。 図書館を 2 階にするか 3 階にするかについては、設計段階で市民の皆さんからご意見を伺いながら進めてまいります。 市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところ。しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にどもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。なお、歩行者専用高架橋については、整備を予定しておりません。
114	7 建設場所	広場に芝生はいらない。 広場にかからないように建ててほしいです。	市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところ。しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にどもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。
115	7 建設場所	広場に芝生は必要ないと思います 建物も今のスポーツ用品店の場所で広場にかからないように建ててほしいです	市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところ。しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にど

			もたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。
116	7-3 建設候補地の選定	・駐車場 主利用者は学生が中心と思うので駐車場増設投資は不要と考える ・館全体 なはんプラザは渡り廊下接続可能躯体で利便向上の観点から東側に建設し、スポーツ用品店跡地駐車場化も可能と考える ・芝生広場 多目的広場の利用が増加してる中、芝生広場への投資は不要と考える ・なはんプラザ東側に建設すると、今後、駅西口改札や橋化にともないスポーツ用品店跡地利用で開発可能と考える。	駐車場については、足りないのではないかと意見もあります。建設候補地前述した比較調査において、新花巻図書館に必要な駐車台数の目安はおよそ 120 台としています。現在の駐車スペースですが、 JR 花巻駅東口には、花巻駅南第 1 駐車場 60 台、第 2 駐車場 121 台、合計 181 台の駐車スペースがあり、また、調査したところ日常的に 60 台程度の空きがあります。そこで整備にあたっては、現在の JR 東日本所有地である図書館建物隣接地におよそ 38 台の駐車場を整備する予定としており、また、なはんプラザ南側の第 2 駐車場は、JR 線路に隣接する市道の一部を廃止し、60 台の駐車スペースを増設することにより、第 2 駐車場は 181 台に増設する予定としております。図書館の駐車スペースとしては、図書館建物隣接地 38 台、第 2 駐車場増設分 60 台、第 1 駐車場及び第 2 駐車場の空き 60 台を合わせ、合計 158 台の駐車スペースを確保することになります。現状より 98 台駐車台数が増加することから、図書館で 90 台以上使用している場合以外の多くの場合においては、イベントで使える駐車場が増える効果があると考えております。なお、図書館建物隣接地の最大 38 台分を高齢者、障がい者、乳幼児連れのの方々が優先的に利用できるようにし、その他の図書館利用者も無料で駐車場を利用できるシステムを導入するものです。 また、市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にどもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。
117	7 建設場所	仕事で市外から移住してきた者ですが、駅前是人通りが寂しく感じます。図書館をきっかけに活気が少しでも出てくることを願っております。 イベント事を行う際の騒音関係は図書館には影響ないのかはやや気になるようです。	ご意見として承ります。 イベント等を行う際の音については、近年建設される図書館はグループで話ができるエリアや、音楽を流しているような図書館もあります。一方で、防音室のような、まわりからの音を遮断した静かな部屋も設ける例も多く、新しい図書館でも同様の静かな部屋の設置を計画に記載しています。
118	7 建設場所	1)新花巻図書館整備基本計画(案)の市民説明会を開いていただき、大変ありがとうございました。駅前大通り親交会、石鳥谷、まなび学園の説明会に参加させていただきました。担当者の方が大変な業務をしていることを知り感謝しています。 2)【JR 花巻駅前候補地】配置案㉗-2 の駐車場について、確定されたものではなく、今後、建設段階で市民等の意見を伺いながら確定したいと考えていると聞き安心しましたが、大通り 1 丁目で毎日生活している市民として駐車場についてお願いがあります。 3)13 日の駅前大通り親交会の説明会で質問しましたが、配置案㉗-2 の C の交差点の所に第 2 駐車場の出入り口が、設計図にあるのですが、入り口のところにあまびより・アベヤスの玄関（商品の搬入・出入りが行われている）が、出口の所に玄関・駐車場があり、ここに第 2 駐車場の出入り口ができると、あまびより、アベヤスの営業に支障が出ること、生活に支障が出ます。そのほかに、玄関への出入りする時の事故も心配になります。14 日に花巻市の職員の方が見に来た時にも説明しましたが、配置案の見直しの時、ここの出入り口については、営業・生活に支障が出ないように、あまびより・アベヤス、自宅玄関の前に駐車場の出入り口を設置しないように、見直しをお願いいたします。 4)配置案㉗-2 の C(第 2 駐車場出口)の交差点は、現在の出口専用の道路になる前は、交差点の線路側にあるトイレの先に、出入り口があり駐車場に入る車、出る車が使っていた交差点でしたが、その頃は、この交差点での事故が定期的に起きていました。現在も自宅のところにあるボールが、事故の時に倒れたまま放置されています。出口専用になってから、ここの交差点での事故は、私が知っている限りなくなっています。以前のように、出入りの車が通行するようになると事故が起きる可能性が出てきます。この交差点は現在のまま出口専用に使ってください。また、別の場所を検討して	多目的広場や駐輪場の設置場所など周辺の道路を含めた環境については、設計段階において、周辺住民の方々のご意見を伺いながら検討します。 また、市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内にどもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。

	も良いかもしれません。 5)駐車場周辺の排水溝についてですが、10 年に一度といわれるような大雨が毎年のように増えてきています。駐車場の整備時には、浸水が起きないように対応をお願いいたします。傾斜の関係で、自宅の前に水が溜まりやすくなっています。 線路側の市道も新しく整備され、市道がなくなった時に排水溝がなくなるらないようにお願い致します。 結語 1.第2駐車場の出入り口があまびより・アベヤス、自宅玄関・駐車場の前に設置された場合、営業・日常生活に多大な支障があること。玄関での出入り時に事故の可能性さえあること。 交差点では、以前のように事故が定期的に起きる可能性がでること。上記のことから、第2駐車場の出入り口は、現在の出口のままにして、入り口については、参考意見ですが、インキュベーター側の市道に作り、駐車場の出入り口がわかる標識を検討する等の新たな設計をお願いいたします。配置案㉗-2 の交差点も、交差点と分かるように表示したほうが事故は起きにくくなると考えます。 2.駐車場の整備時には、駐車場周辺の排水溝の設置もよりしくお願い致します。 ・新花巻図書館整備基本計画(案)の【JR 花巻駅前候補地】配置案㉗-2 の駐車場の配置図が発表されました。花巻駅前ということで、限られた土地の中で考えなければいけないことがよくわかります。岩手県内の、同様の駅前に近い図書館として、矢巾パーク、紫波図書館、一関図書館はどのようになっているか見てきました。新花巻図書館の参考になればと思い意見を提出します。配置図のみを見ての意見です。もうすでに考えられているかもしれませんがよろしくお願い致します。 1.3施設ともに、1 か所は出入り口のゲートのない駐車場(一関はバーがあるのですが上げて開放していました)が図書館近くにあり、妊婦さん・子連れの方・高齢者・障害者の方にも使いやすい作りになっていました。また、そのような方たちを送迎してきても乗り降りできるスペースがありました。紫波図書館は、1 か所は図書館前にゲートのない駐車場があり、もう 1 か所は駐車券をとる必要のある駐車場でしたが、回転などせずに、まっすぐ入り駐車券をとるシステムになっていて使いやすかったです。花巻図書館でもスポーツ用品店の所に作る駐車場には、ゲートのない出入り口(バーはあっても駐車券をとる必要のない出入り口)、乗り降りのできるスペースがあると良いと思います。 1)スポーツ用品店のところに作る駐車場には、違法駐車する車も考えなければいけなくなるとしますので、駐車券を取るシステムの出入り口は必要かもしれません。その時は、設計図にある回転させて入るスペースでは狭く感じられます。確実に回って入口に行き、駐車券が取れるようにお願いいたします。 2)タクシー・送迎で来た人も使いやすいように、乗り降りできるスペースがあると思います。 3)自転車で来た人の駐輪場はどこになるのでしょうか。 1.芝生広場についてですが、今回見学した矢巾パークは道路の向こうに公園がありました。紫波図書館は隣接している施設の所に芝生のようなところがありました。とくに図書館のために作ったとは思えませんでした。一関には芝生の所がありましたが、小さいわりに管理するのが大変そうでした。 各図書館から外を見てみましたが、街並みが見えるのもいいものでしたし、新花巻図書館からでも緑の山々は見えますと思いますので新しい花巻図書館に、無理に芝生広場を作らなくてもいいのではないかと思います。ヒートロードの広場をなくしてまで、芝生広場を作るより、今のまま、宵宮・イベント広場、花巻まつりの山車制作場所にして作成しているところから観光客に見てもらう、山車の集合・出発場所とし	
--	---	--

		て使うほうがいいと感じました。今回見学したところも、各施設と連携して運営していました。新花巻図書館も、宵宮・イベント会場、近くにあるなはんプラザと連携して運営していくとより良い活用ができると思います。防音になることから、外でのイベントも図書館使用に問題はないですし、イベント等で来た人、なはんプラザに来た人が図書館にも寄っていくことは十分に考えられます。	
119	7 建設場所	新花巻市図書館建設関係者の皆様へ このたびは新花巻図書館建設に際し、何かとお骨折りお疲れ様です。心よりお労い申し上げます。 先日も質問、意見を申し上げましたが、私も駅前への建設に賛成の立場であり、心から歓迎し、かつ期待しております。 ただ、先日も声を大にして申し上げましたが、新図書館の建設によって現在の「なはん広場」が大幅に狭くなり、しかも芝生地帯まで設け、これまで「なはん広場」で開催されてきた諸イベントが出来なくなることは、甚だ残念でなりません。 日頃よりいくつものイベントが開催されておりますが、その中でも7月1日の藤木神社宵宮祭の人出の多さ、また市民の楽しみにする思いは並々ならないものと思い、主催する我々駅前親交会もその自負がありました。しかし、市役所側にはその思いが無いことに大変失望しております。花巻祭の最終日の件にしてみしてもしかりです。 先日の案が、たたき台といえど、市役所側としては現段階での最良のものとお思いのことでしたら、本当に花巻の方々が考えた案なのか疑問に思うほどでした。 しかし、先日の説明会の後、ふと気付きました。花巻市は合併後、石鳥谷、東和、大迫在住の方々も花巻市民となり、市職員の方々も同様に旧花巻市民ばかりでないことに気付いたのです。 なるほど、だから藤木神社宵宮祭も花巻祭も大したものではなく、たかだか年に一度のもの程度に認識されているのだと納得いたしました。 それであれば尚更、建設地域の住民の意見を十分にお聞きいただきたいと思います。それであれば地域住民の心は離れ、市政に対する不信の念ばかりが募ることでしょう。 これまで「なはん広場」にて開催されてきた諸イベントが出来なくなったら、ますます駅前地区の活性化を妨げることになるでしょう。 そもそも図書館だけで、その周辺が活性化されますか？ 賑やかになりますか？ 現在の図書館周辺が賑やかですか？ 「なはん広場」が縮小されて、現在の案通りの新図書館ができた光景を思い浮かべても、賑やかな駅前地区は全く想像できません。建設関係者の皆さんは、そうは思いませんか？ 関係者の皆さんがそう思わないのなら、誠に遺憾ではありますが何も期待できませんね。 また、図書館そのものが、本来静かな場所、賑やかでない場所にあるべきだとおっしゃるなら、駅前建設案は否定されることでしょう。 はじめに申し上げましたように、私は新図書館の駅前への建設は賛成です。だからこそ、「なはん広場」の広さを保つ3階建てのプランを再検討していただきたいと思います。 「なはん広場」に芝生地帯を設けるために、かなりの経費を要するとも聞いています。そんな経費をかけるなら、芝生地帯より3階建てにする経費に少しでも回していただきたいです。 一関の図書館を目指しているとの声も聞きましたが、一関のまねをして芝生地帯をつくる必要はありません。 コンクリートジャングルのような大都会ならまだしも、緑だらけの花巻市にあえて	新花巻図書館の建設場所については、これまで総合花巻病院跡地と花巻駅前の2カ所について、検討を進め、令和7年3月21日の教育委員会協議会において、建設場所を花巻駅前とし「新花巻図書館整備基本計画案」とまとめたものです。 現在、お示ししている配置案については、令和6年に実施したものであり、建設候補地の比較をするためにコンサルタントが作成したものです。 比較するにあたり、多目的広場等で開催されるイベントについては、確認しておりましたが、今回、駅前大通り親交会の皆様と意見交換をさせていただき、様々なご意見をいただきましたので、多目的広場や駐輪場の設置場所など周辺の道路を含めた環境については、設計段階において、周辺住民の方々のご意見を伺いながら検討します。 また、市は駅前のJR所有地に2階建てまたは3階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を3階建てとすることを望む声もでているところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内に子どもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。

		芝生地帯をつくって、緑を確保しようとする考えもナンセンスだと思います。 何よりも、新図書館が建設されることによって駅前が活性化されるように、併設施設、周辺施設を含めて十分に検討いただきたいと思います。花巻の玄関口の一つである駅前の活性化、ひいては花巻市の活性化について、もっともっと真剣にお考え下さい。 このままでは若い次の世代を失望させ、他所へ流れていくことになりますよ。 何卒よろしくお願い申し上げます。	
120	7 建設場所	配置案⑦-2 建物本体 2 階建ての場合とありますが、3 階建て案を実現の為、継続して頂きたい。 理由は、広場を有効活用(イベント etc)させる為、合わせて、芝生広場の必要性を伺いたい。	多目的広場や駐輪場の設置場所など周辺の道路を含めた環境については、設計段階において、周辺住民の方々のご意見を伺いながら検討します。 また、市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでていいるところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内に子どもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。
121	7 建設場所	図書館利用者用の駐車場がほしい。	駐車場について危惧される方も多かったことから、「花巻駅前」では利用しやすい駐車場の確保に努めたいと考えております。 駐車台数の目安ですが、前述した比較調査において、新花巻図書館に必要な駐車台数の目安はおよそ 120 台としています。現在の駐車スペースですが、 JR 花巻駅東口には、花巻駅南第 1 駐車場 60 台、第 2 駐車場 121 台、合計 181 台の駐車スペースがあり、また、調査したところ日常的に 60 台程度の空きがあります。そこで整備にあたっては、現在の JR 東日本所有地である図書館建物隣接地におよそ 38 台の駐車場を整備する予定としており、また、なはんプラザ南側の第 2 駐車場は、JR 線路に隣接する市道の一部を廃止し、60 台の駐車スペースを増設することにより、第 2 駐車場は 181 台に増設する予定としております。図書館の駐車スペースとしては、図書館建物隣接地 38 台、第 2 駐車場増設分 60 台、第 1 駐車場及び第 2 駐車場の空き 60 台を合わせ、合計 158 台の駐車スペースを確保することになります。現状より 98 台駐車台数が増加することから、図書館で 90 台以上使用している場合以外の多くの場合においては、イベントで使える駐車場が増える効果があると考えております。なお、図書館建物隣接地の最大 38 台分を高齢者、障がい者、乳幼児連れの方々が優先的に利用できるようにし、その他の図書館利用者も無料で駐車場を利用できるシステムを導入するものです。 また具体的なデザインについてのご意見は設計段階で伺い、参考といたします。
122	その他	駅前に新図書館を建設する計画を支持します。子供たちの未来のために重要な施設であり、いくつか調整の必要こそあれ計画に問題はないと考えます。 しかし、住民説明会では一部の反対派が威嚇や恫喝のような態度で議論を乱し、恐怖を感じる雰囲気でした。市民会議を軽視する不遜な発言を繰り返してもおり、その横暴ぶりが問題でした。 困難かもしれませんが、今後は攻撃的な発言を抑える明確なルールを設け、すべての市民が安心して参加できる公平な議論の場を確保してほしいと願います。	ご意見として承ります。 新図書館の整備につきましては、今後、設計段階においても、ご意見を伺いながら進めてまいります。
123	7 建設場所	勤務先がなはん通りです。市営駐車場を毎月五千円支払って借りていて 15 年はたつが、イベントがあると年に 3、4 回満車で停められず駐車場所に困る。支払っているのに駐車出来ないのは釈然としない。今までも大通り組合には支払い時に市に伝えてもらうようお願いしていた。改善して頂きたい。それから、今回示された駐車場イメージ図で、気になったことが 2 点。一つは、芝生広場の必要性があるのか？ここ何年かキッチンカーイベントやお祭りの広場として、使用頻度が高く集客も増えてきた。芝生広場は必要ないと思う。2 つ目は、春から秋にかけてはなんプラザのイベントや県外からの観光旅行で大型バスが来る。その時にとりあえずの停車場所として西側の線路脇の道路にバスが停められていた。その道路が無くなり増設されるようだがバスが来た時どうなるのか。なはん通りを通るなら今年も壊れた(よく壊れ	駐車場について危惧される方も多かったことから、「花巻駅前」では利用しやすい駐車場の確保に努めたいと考えております。また、図書館建物隣接地の最大 38 台分を高齢者、障がい者、乳幼児連れの方々が優先的に利用できるようにし、その他の図書館利用者も無料で駐車場を利用できるシステムを導入するとともに利用方法についてもご意見を伺いながら、検討を進めてまいります。 また、市は駅前の JR 所有地に 2 階建てまたは 3 階建ての図書館を整備する場合に図書館の東側に芝生広場を整備することを考えていたところですが、しかしながら、これについては駅前地区の方を中心として、現在ある多目的広場を維持すべきとの声、それに伴い図書館を 3 階建てとすることを望む声もでていいるところでもありますので、そのことも検討したいと考えております。なお、仮に多目的広場を維持する場合であっても、広場で読書、飲食ができる移動可能な椅子やテーブルなどを設置すること、また、図書館施設内に子どもたちがのびのび過ごせる場所を確保することは設計の段階で検討したいと考えております。 また、基本計画（案）に「子どもたちが遊びながら読書できるコーナー」（P36）の設置を記載するなど、建物のなかでも子どもたちや小さな子どもの親などが遠慮せずに読書などを楽しめるような図書館をつくることを目指しています。

		る)融雪道路がもっと壊れてしまうのでは？南側と北側の道路で切り返しが出来るとは思えない。第二駐車場の出入り口付近も両脇の店舗兼住居の方の出入りが不自由になるようなら再検討が必要。13 日の説明会には営業時間で不参加の為こちらから意見提出致します。	
124	7 建設場所	旧イトーヨーカ堂跡地を活用するのは無理なのでしょうか？駐車場も広いですし、バスも行き来します。アクセスも良いです。イトーヨーカ堂の 1 回は買い物、2 階を図書館などにすれば、利用者も増えると思います。	新図書館の建設場所につきましては、花巻市議会が、令和 2 年 3 月 1 8 日に議長を除く全議員で構成する新花巻図書館整備特別委員会を設置し、新花巻図書館整備について検討した結果として、同年 1 2 月 1 7 日付けで市議会議長から市長あてに、①建設場所について「新花巻図書館整備基本構想の建設場所に関する方針に基づき、都市機能誘導区域内へ整備することとし、市が提案する花巻駅周辺及びまなび学園周辺のいずれかとされたいこと。なお決定に当たってはその経過及び理由を明確に示し、市民の理解が得られるよう努めること。」との提言を受けており、都市機能誘導区域内に整備することで検討進めてまいりました。 旧イトーヨーカドー花巻店につきましては、都市機能誘導区域内ではないことから、市では都市機能誘導区域内の花巻駅前を建設候補地といたしました。 なお、旧イトーヨーカドー花巻店は OIC(オイシー)グループが土地建物を購入し食品スーパー及びテナントによるショッピング施設として活用することが決まっており、食品スーパーについても開店に向けて準備中のため、2 階を図書館として利用することは想定していないところです。
125	その他	個人的な意見になりますが、現代の学生達が本を読む習慣はあるのでしょうか？殆どが電子書籍で完結すると思います。一部は読書好きな人も居ますけど、僕が学校生活をしている時は読書する人をあまり見たことは無かったです。駅前は見ただけサラリーマンが多いです。休憩するには最適でしょうが本を読む時間を持てる人は少ないのではと思います。電車に乗ると皆スマホを見たり、眠ったりしてる人達が多いです。スマートフォンが普及している今、流行という概念が世間を大きく動かす武器になります。その武器を使うとするならば短期的には効果がありますが、流行が過ぎれば出入りは低迷する可能性が生じます。盛岡に行くと駅周辺に ROUND1 の様なスポーツ、カラオケ施設等があります。しかし花巻駅前には若者を魅了する所は少ないです。公園も少なくなって来ている現在、外で遊ぶ子供達も減っていき、遊ぶうにも騒音やらで自由が無くなってきています。学校では無理な登校で精神疾患を抱え不登校になる、保健室登校する子供も増加しています。僕もその一人でした。そういった子供達を保護し地域住民の力で復帰できる様手助け出来る所であれば僕は賛成です。できれば病院跡に	公益社団法人全国学校図書館協議会では、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について調査を行っています。その調査の項目は、毎年定例のものと年ごとに特設したものがあります。「5 月 1 か月間に読んだ本の冊数」「5 月 1 か月間に読んだ雑誌の冊数」は、毎年調査しています。2024 年度の結果では、2024 年 5 月 1 か月間の平均読書冊数は、小学生は 13.8 冊、中学生は 4.1 冊、高校生は 1.7 冊、不読者（5 月 1 か月間に読んだ本が 0 冊の児童生徒）の割合は、小学生は 8.5%、中学生は 23.4%、高校生は 48.3% となっており、一概に若い世代の方が本を読まないということではないと考えますが、新図書館では、利用者の視点にそったサービスの考え方をまとめており、若い世代のニーズ把握に努め、世代の感覚にあわせたサービスを提供したいと考えております。
126	7-3 建設候補地の選定	2 建設場所 新図書館は「花巻駅前」。私は駅前でも「花巻駅西口側」を提案します。 具体的には銀行駐車場隣。「空き地」、「空き家」を用地に充てます。 これら土地に余裕はなく、図書館利用者の駐車場の問題もあります。 唯、折角、市が主導して開発する機会をいかさないことはないとの考えからの提案です。 花巻駅西口の向こう、駅西、宅地の広大な地域で、今なお外延拡大が続きます。「西口側」の図書館には「近さ」を受け止めるでしょう。 付かぬことですが、街中と言えど取り残されたような空き地が散見、宅地化に資すればということもあります。 新花巻駅が駅西のランドマーク、象徴、まちづくりへの布石にとの思いです。	新図書館の建設場所につきましては、花巻市議会が、令和 2 年 3 月 1 8 日に議長を除く全議員で構成する新花巻図書館整備特別委員会を設置し、新花巻図書館整備について検討した結果として、同年 1 2 月 1 7 日付けで市議会議長から市長あてに、①建設場所について「新花巻図書館整備基本構想の建設場所に関する方針に基づき、都市機能誘導区域内へ整備することとし、市が提案する花巻駅周辺及びまなび学園周辺のいずれかとされたいこと。なお決定に当たってはその経過及び理由を明確に示し、市民の理解が得られるよう努めること。」との提言を受けており、都市機能誘導区域内に整備することで検討進めてまいりました。 花巻駅西口は一部のみ都市機能誘導区域内であり、市では都市機能誘導区域内の花巻駅前を建設候補地といたしました。
127	その他	4/16 に東和コミセンの説明会に参加しましたが、特定の方たちばかりが、病院跡地のことだけを熱弁して、不快でした。 場所が重要とは理解しますが、図書館は「人」と「資料」と「情報」が命と考えます。 早期に、これらの充実に向けて、職員の力を集中できるようになってほしいと切望し、あの日会場で発言できなかった事を書きました。関係みなさまのご苦労の日々をご慰労申し上げます。	ご意見として承ります。 新図書館の整備については、基本設計の予算を議会にご承認いただければ令和 7 年度の早い時期から基本設計に入りたいと考えております。

128	その他	図書館の問題を市民に理解してもらういい方法は何がよいのでしょうか。説明会や懇談会も開かれてはいますが、予備知識もないまま参加しても理解が深まりません。広報だと大半はよく読みもしない人が多いのでは。ましてホームページから市の現状を理解するという人はどのくらいいるのでしょうか疑問です。図書館の問題だけでなく市政の課題等が載っているが読みこなすのは難儀です。私だけの感想でしょうか。いつかこの問題について調査してみてはいかがでしょう	ご意見として承ります。 これまで、新図書館整備に係る情報発信については、市ホームページのトップページに専用のバナーを設置し周知に努めてきたほか、検討がまとまった段階で広報はなまきにおいてもお知らせしております。また、市民説明会や市政懇談会の場においてもご説明させていただいております。
129	その他	・どこの家にも捨てるに捨てられない本があるのではないかと思います。 そういう本を寄付していただいてはどうでしょうか？ 物置き箱に入れられたかわいそうな本を出してあげたいです。	ご意見として承ります。 なお、現在市立図書館では、各館で本のリサイクル活動も行っております。
130	その他	・市民ワークショップや説明会を多く開くなど、市民の意見を集め理解を深める努力は見えますが、もっと開けたやり方で意見の数を集めることができたのではないかと感じます。広報にアンケートを挟んで地区で提出してもらい、学校生徒・親に配る、イベントにブースを作る等。意見にジェネレーションギャップがあるように思われるので、偏りなく各世代の声を集めて欲しいと思います。（来館者アンケートでは50%以上が60代以上でした）また、この件の資料を図書館や公共施設に見に行っても、ファイルがなんの案内も強調もなく地味に棚に置いてあるだけで、市としての、見てもらおう、意見を集めようという気概は感じられませんでした。 ・説明会では駅前反対派の人たちの勢いが強く、賛成意見を言いづらい雰囲気だったと聞きました。声の大きな人以外でも発言したり気負わず意見を提出できる仕組みをとって欲しいです。 ・複合施設化はしないとのことですが、観光案内所をなんとかして欲しいです。駅の小さく目立たず情報も少ない今の状態は県の中核都市として恥ずかしく思っています。郷土コーナーをエントランス近くに作る、もしくは展示・情報コーナー等ふと訪れた人にもPRできるようにお願いします。 ・市職員にプレゼンテーション研修を望みます。説明会で資料をそのまま読むだけというのは分かりにくいです。そもそもの資料が見つらく記事の要点が分かりづらいです。伝えたい要点はどこ、見せたい結果はどこなのか、職員がしっかり把握して説明会に臨んでもらいたいです。これは市の開催する催し全般で感じます。「市民の意見を踏まえた上での市の意見」で担当職員が主体的に話して欲しいです。（特に若手）	ご意見として承ります。 なお、アンケートについては、情報が不十分な場合適切な判断ができず、逆に多すぎてもそれを理解するのに時間を要するなど、判断が難しい質問に答えることは困難であると考えています。 建設候補地を考えてもらう上では、必要な情報を共有し、理解いただいた上で考えていただく必要があったものであり、アンケートはそのような情報を理解していただいた上で実施することが困難と考えております。 観光案内所のあり方については、ご意見として観光担当課及び花巻観光協会に相談します。また市職員のプレゼンテーション研修もご意見として承ります。
131	その他	・「基本計画」（案）は三つ基本方針の筆頭に「郷土の歴史と独自性を大切にし、豊かな市民文化を創造する図書館」一を掲げ、その精神は「鶴陰碑」にさかのぼっている。現在、この碑は市博物館に移設・展示されているが、かつては旧花巻城三の丸（のちの東公園）に建っていた。戦後、当該地は旧新興製作所の社有地となったが、同社が移転して以降は荒れるに任せたまま放置されている。さらに、現在は所有者が存在しない状態になっており、災害時や景観上の不安も高まっている。仮に来館者が新図書館の理念が宿る由緒あるこの地が廃墟と化している現実を知った際の落胆は思いに余りある。新花巻図書館の開館に合わせ、いわゆる「新興跡地」の改修を進めてほしい。	ご意見として承ります。
132	その他	石鳥谷での市民説明会に参加させていただきました。その際に申し上げた内容と重複してありましたら、申し訳ございません。市民説明会で感じたことは、端的に言えば説明が分りにくいということです。特に建設場所意思決定において重要となったであろう、市民会議の流れ（どのように意見が纏まっていったのか）などをもっと噛み砕いてお話してもらいたかったです。説明資料を読むだけでは、”説明”になっておらず、理解できなければ納得をするのも難しいのではないのでしょうか。 市民説明会資料における市民会議の項目の内容が、特に分かり辛いと思いました。市民会議の経過・結果は今回の基本計画を進める上でも、特に重要視される項目である	ご意見として承ります。 資料の提示方法や説明の仕方については、ご意見を参考に検討していきます。

		と思います。にもかかわらず、資料が見にくく説明も不十分。駅前反対派に対する説得材料としても使えるものだと思うのに、非常にもったいないと思います。市民会議の意見を根拠にするならば、それをはっきりと説明して市役所の意思を示してもらいたいです。 今回のパブリックコメントに関して、資料閲覧しようと思い石鳥谷図書館に行きました。館内を探し回って、やっと一冊のファイルを見つけました。特に目立った案内やPOPが付いている訳でもなく、ただテーブルの上にファイルが置かれているだけでした。他の場所を見ていないのでわかりませんが、はっきり言ってこれはひどいと思いました。関心を得ようとしていないのか、パブリックコメントもそれ程集める気もないのか。計画室の問題なのか、図書館の問題なのかわかりませんが、これでは意見もなにも集まらないと思います。保育園や小学校の保護者の間でも話題にすらなっていません。利用者を増やす、若い世代をとというのならまずは小中高生とその保護者に関心を持ってもらうことが必要ではないでしょうか。 正直、石鳥谷・東和・大迫地区の市民には花巻市内の図書館に関して興味関心は薄いと思います。けれども実際に事業が進めば市民の税金が使われるのですから、他人事の話ではありません。私は学生時代に東和から花巻市内へ電車通学をしておりましたので、駅の近くに学習スペースのある場所がどれだけ欲しかったか。旧花巻市へ通勤・通学する人達にとって、非常に便利で有益な図書館になるのだという事をもっとアピールしていくべきだと思います。多数派工作ではないですが、もっと石鳥谷・東和・大迫地域の市民を巻き込んで駅前賛成派を増やしていくことで、反対派への説得材料にもなるのではないのでしょうか。 私は駅前建設に賛成の立場です。旧市外から通勤・通学する人にとっては、交通のアクセスが重要であり、実際に利用者の増加を見込むのであれば、やはり駅前だと思います。市民説明会の説明資料には、貸出冊数の記載はあっても利用者数に関しては記載がなかったと思います（基本計画には記載あったと思います）。利用時間の延長なども利用者数を増やす狙いがあると思うのですが、そのことには触れられず説明資料もない。ここでも説得ポイントを逃しているように感じました。 市長・市役所の方々が、広く市民の皆さんからご意見を…と言いますが、それならそれでしっかり意見を集めて欲しいです。無作為の抽出で選ばれた一部の人の意見では納得できないという気持ちもわかります。そういった声を真摯に受け止めるというならば、ある程度纏まった人数のアンケートを取るとか、小中高全員の生徒・保護者に協力を仰ぐとか、何かやり方があると思います。広報に載せたからそれでOKではなく、意見を集める努力ももっとやってもらいたいなと思います。 基本方針の3つ目、とても良いと思います。新しいと図書館が具体的にどのように市民生活を豊かにしてくれるのか。市民の意見ばかりでなく、花巻市長・市役所としてのビジョンも聞いてみたいです。市民の皆さん…はっきり言われると、市役所に当事者意識が薄いように感じる時があります。新図書館を楽しみにしていますので、計画室の皆さんには今後とも頑張ってくださいと思います。	
133	その他	・令和2年1月に上田市長により唐突に提示された新図書館と賃貸住宅の併設案を巡る一連の騒動を端緒に、整備基本計画の策定が大幅に遅延しました。 基本計画策定がこれほど迷走した元凶は、教育委員会から首長部局への補助執行制度を曲解した上田市長の度重なる図書館行政への不当な介入(容喙)によるものです。 公立の社会教育施設については従来から教育委員会が所管することが規定されています。地方自治法第180条の7は、第180条の2と対照をなす「補助執行」制度についての規定ですが、教育委員会から市長部局への事務の「補助執行」は、教育委員会の自主性と職務権限の独立性を侵害しない限度において、地方公共団体の機構	令和2年1月29日の「新花巻図書館複合施設整備構想」の公表により、基本計画の策定が大幅に遅延したことはありません。この間の図書館整備に関する経緯は主な質問への回答 1【これまでの経緯】のとおりですが、基本計画が令和3年に設置した同基本計画試案検討会議において、図書館の運営や蔵書数などのソフト面を検討し、その上で建設候補地についても意見をいただき、結果として令和6年度において建設候補地が「総合花巻病院跡地」「JR花巻駅前」に絞られてきたものです。また「総合花巻病院跡地」の用地取得が、昨年令和6年3月に3億2千万円で購入したものであり、仮に同敷地に建設をすることとなったとしても、図書館の整備が大幅に早まったことはないと認識しています。 本市においては、社会教育を含む生涯学習の推進については、社会教育の進行に加えて、学習活動を通じて豊かな人間性を育み、その上で様々な世代を対象とした芸術文化の振興や持続的な地域コミュニティを支える基盤に資するという観点から、まちづくりに重要だととらえ、社会教育事業や社会教育施設を、教育委員会から市長部局の生涯学習部に補助執行するという方法で進めていると

	を簡素化し事務の能率的処理を促進しようとする意図に基づき設けられたものです。 補助執行はあくまでも、市長への事務委任ではなく市長部局の「職員」に教育委員会が「補助的に行わせたりする方法」ですから市長部局への補助執行はくれぐれも教育委員会の自主性と職務権限の独立性を侵害しないよう十分に検討を重ねて行う必要があります。 地方自治法の趣旨からすると、権限自体は本来の執行機関である教育委員会にあるのですから、上田市長が立地適正化計画のもとで主導しようとした新図書館整備事業の進め方は牽強付会かつ本末転倒だったのではないのでしょうか。 「補助執行」の枠を逸脱した上田市長の介入で新図書館整備事業が少なくとも5年以上空転しました。これは、本来の事務権限者である教育委員会が「補助執行」を口実に生涯学習に関わる事務事業をすべて市長部局に丸投げして最終的な責任の所在が不明確となった結果です。上田市長と教育委員会の猛省を強く求めます。 ・ 図書館も、小中学校と同様に地方公共団体によって設置される教育機関です。その管理は教育委員会の職務権限に属しており、教育委員会規則にそって管理が行われます。 2018年12月25日の閣議決定を踏まえた措置として、「第9次地方分権一括法」が成立し、併せて地方教育行政の組織及び運営に関する法律、社会教育法、図書館法、博物館法の一部が改正され、特定社会教育機関の事務については、条例によって地方公共団体の長が管理・執行できると規定されています。 つまり、今日では、教育委員会が所管する図書館、その他の社会教育に関する教育機関について、他の行政分野との一体的な取組の推進等のために地方公共団体がより効果的と判断する場合には、社会教育の適切な実施の確保に関する一定の担保措置を講じた上で、特例として条例により地方公共団体の長が所管することが可能となったものです。 これまで、教育委員会が社会教育機関を所管してきたことの意義には、政治的中立性の確保、継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映、社会教育機関としての専門性の発揮等に加えて、学校教育との連携において教育行政としての一体性を保てること等がありました。 一定の担保措置を講じるにせよ、移管によって適切な社会教育活動が行われるようにするためには、目先の効率性を追求したり大衆に迎合した政治的判断に左右されたりするのではなく、「学び」を重視する社会教育機関本来の役割や機能を発揮できるよう、当該地方公共団体の計画やそれに対する教育委員会の責任の在り方が問われます。 教育委員会を蚊帳の外に置き、教育機関である新花巻図書館の整備プロジェクトについて、上田市長がどうしても自ら采配を振りたいのであれば、図書館を特定社会教育機関として直接所管することをお勧めいたしますが、なぜ法定の手続きを経ずに長期間にわたり強引にプロジェクトに関与しようとしたのか理解できません。上田市長のご見解を伺います。 ・上田市長は過去の市議会答弁（令和6年3月定例会）において、地方自治法147条及び148条などを根拠として地方公共団体の長には広範な権限が与えられているとして、新図書館整備基本計画の策定に自らが直接関与することを正当化していますが、これは明らかに市長の統括代表権と執行権に関する認識不足による詭弁であり法匪の謗りを免れません。その一方令和5年3月定例会の答弁の中で、上田市長は自らを「甚だ愚か」であった旨の発言をしていることも会議録で確認できます。 地方自治法第147条の「統括権」とは、地方公共団体の事務全般につき総合的統一を確保する権限を意味するものの、具体的な管理執行の権限を定めたものではありません。同条の「代表権」とは、市長がなした行為の効果が地方公共団体に及ぶ権限を意	ころです。 平成26年の通常国会において「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」の可決・成立により、地方公共団体の長が招集もしくは教育委員会が地方公共団体の長に招集を求めることができる「総合教育会議」の設置が定められましたが、これは地方公共団体の長と教育委員会が連携し、教育の課題や方向性について共通の認識をもって教育行政を推進することを目的とするものであり、市長が議長となり協議及び事務の調整を行うこととしている。また市長は予算の策定者であり、市長部局の職員を管理監督する立場であることから、図書館計画策定に関与することは必要であると考えております。 令和4年12月に開催した花巻市総合教育会議においては、社会教育の課題についてと題して、国の動向やこれまでの経緯、社会教育委員による社会教育事業に対する評価などを踏まえ、状況の把握と今後のあるべき姿について協議をしています。社会教育による人づくり、地域づくり、まちづくりの重要性についてはご理解をいただいていると認識しておりますが、新しい図書館の建設は人づくりやまちづくりの面で最も重要な事業と考えておりますので、今後とも市長部局と教育委員会が協力して建設に取り組んでいきます。 なお、市議会において「甚だ愚か」と発言したことは、平成30年12月議会において、駅前のJR所有地を図書館の建設場所の有力な候補地とすることについて、JR東日本と今後具体的な条件などについて協議に入りたいと答弁し、その1年後の12月議会においては、土地を賃貸することでその条件を協議中であることを答弁し、翌年1月29日に住宅を併設する複合施設整備事業構想について公表しましたが、その公表までの間に駅前のJR所有地に建設を検討していることや土地を賃貸することについて、全く反対の意見は無く、それをとらえることができなかったことについて「甚だ愚か」だったと発言しているものです。現在はこの複合施設整備事業構想については既に撤回しております。
--	--	--

	味し、この代表権が具体的にいかなる内容を有しているかは、個々の法律の規定によるとされています。また、市長の「執行権」は地方自治法第 148 条に規定されていますが、法律に基づく行政という大原則からして、執行権に基づいて何でもできるものとは考えられません。 市長には、地方自治法や地方公務員法等の法令に従って、誠実に事務処理を行う責任があります。今般の新図書館整備基本計画策定の迷走による大幅な遅延を招いた不適切な事務執行に関しては、市を統括し代表する最高責任者として、上田市長の責任は重大と指摘せざるを得ません。 また、教育委員会の権限に属する社会教育に関する事務を市長部局の職員に行わせる補助執行制度についても拡大解釈による瑕疵がないか市職員と十分に協調し、精査検証のうえ適正に事務処理を執行されるよう求めます。	
--	--	--